

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会

2020 年総明会会報

# 紫紺の詩



前へ！

*Go Meiji !*

# 明治中學校校歌

## 校歌

作詞 武島 羽衣  
作曲 楠美恩三郎

作詞 児玉 花外  
作曲 山田 耕筈

### 一章

帝都の真中駿河臺

遙かに望む富士のねの  
高きに理想の影追ひて  
集る健児勇ましや

### 二章

学びの高嶺文の海、

嶮しく荒き行末を  
懼れず笑みて進みゆく  
我等が意氣は天を吞む

### 三章

忠と孝の大糸を、

色どる正義、愛、誠  
我等が胸をかざるべき  
大和錦の美ならずや

### 四章

世界に王たる日の本の  
國民の基と身をなして  
我等が校の名を揚げむ  
我等が國の威を揚げむ

### 一、

白雲なびく駿河台  
眉秀でたる若人が  
撞くや時代の暁の鐘  
文化の潮みちびきて  
遂げし維新の榮になふ  
明治その名ぞ吾等が母校  
明治その名ぞ吾等が母校

### 二、

権利自由の揺籃の  
歴史は古く今もなほ  
強き光に輝けり  
独立自治の旗翳し  
高き理想の道を行く  
我等が健児の意氣をば知るや  
我等が健児の意氣をば知るや

### 三、

霊峰不二を仰ぎつつ  
刻苦研鑽他念なき  
我等に燃ゆる希望あり  
いでや東亜の一角に  
時代の夢を破るべく  
正義の鐘を打ちて鳴らさむ  
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

## 揮毫

紫紺の詩

筆 向殿 政男

「紫紺の詩」は総明会設立50周年を記念して総明会会員の皆様から寄せられた意見を基に決定し、総明会名誉会長向殿先生に揮毫いただきました。  
「紫紺の詩」の「詩」という文字は「歌（音）」ではなく、総明会会員の皆様の心に残る「詩（言葉）」、「会報」を表す言葉を意味しています。

## 総明会とは

総明会とは、旧制、新制明治中学校、明治大学八丈高等学校、明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことがあるものの同窓会組織である。

総明会の設立の起源は、1912年（明治45年）開校時にあった「学友会」にまで遡ることができ、1926年（大正15年）1月の「同窓会」設立へと続く。その後中断の時期を経て1964年（昭和39年）有志による「明治中学校・高等学校同窓会設立発起人会」が設立、1年間の準備期間を経て1965年（昭和40年）に第1回同窓会が開催され現在の総明会へと続いている。

総明会の活動は、「会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを賛助すること」を目的としており、総明会会員を対象とした年に1回開催される総会・懇親会を中心に、各委員会が企画する行事、「総明会チャリティゴルフ大会」「評議員・班・クラブOB・OG会」・60才以上の会員を対象とした「明朋会」等を開催している。

その他、母校に対する活動として、卒業する高校3年生を対象とし、「明治大学付属明治高等学校建学の精神にのっとり、伝統ある校風のもとに学業に励んで優秀な成績を収めたことを賞する」、2007年度（平成19年度）からは、成績優秀者のみならず、班部活動、対外活動、学校行事など、学校生活全体を通じた活躍や貢献したもののへの総明会賞の授与、母校記念行事への寄付活動、クラブ活動への支援を行っている。卒業生に対しては、大学在学中の若手を通じての総明会活動紹介、同窓会開催支援や就職相談会の開催等を行っている。

この他、総明会会員である明治大学、明治高校の教職員を通じての組織基盤の強化、「法曹部会」による高校在校生を対象とした司法試験向けの各種支援も行っている。

なお、「総明会」の名称であるが、1970年（昭和45年）の第20回総会において、初代校長鶴澤総明先生の名前をいただき、且つ明治中学校・高等学校同期会と同窓生総体の連帯を意味するものとして命名されたものである。



# 特集 前へ！

行け 時は今 めざせ自由の地を  
明治中学校合唱祭レポート

みんなステージで歌いたい  
総明会OB紹介 男澤友泰氏

我等に燃ゆる希望あり  
コロナ禍は何してた？

撞くや時代の暁の鐘  
明鐘会コロナ奮闘記

今年度幹事学年テーマについて

世界中が時代の大きな転換点を迎え

直面する困難に打ち勝つため

総明会全体で令和の時代を「前へ！」

頑張っている後輩達を「前へ！」

「前へ！」進んできた先輩達を後輩達につないでいきます

共に新しい時代に向かって

「前へ！ Go Meiji！」



# 特集 前へ！①

## 明治中学校合唱祭レポート

男澤友泰(平成5年卒明鐘会)

明治中学校では、合唱祭を行っていることをご存じでしょうか。調布に移転した際に建築された鵜澤総明ホールにおいて、クラス毎に練習した成果を美しいコーラスとして発表しています。今回の合唱祭の審査員を務めた明治高校OB(平成5年卒明鐘会)で、歌手の男澤友泰氏にレポートしていただきました。※男澤氏のプロフィールは4ページに後述

### 生徒の手作りの合唱祭

2020年2月8日(土)明治高等学校・中学校の鵜澤総明ホールにて明治中学校1年・2年合同の合唱祭が開催されました。この合唱祭は則先生が中心となって発案され、当初は則先生が学年主任をされている学年だけで開催されていたのですが、今回は4回目となるのでしょうか、もう1学年の合同ということで参加の人数も増え、更に盛大なものになりました。私は審査員として呼んでいただき、今回で3回目の参加となります。前回はスケジュールの都合がつかず参加できずにとても残念な思いでおりまして、今回は特に張り切って参加させていただきました。

一緒に審査員として参加したピアニストの板谷潔氏も同じ感覚でしたが、まず鵜澤総明ホールが立派すぎることに毎回

驚きます。学校にあるホールとしてはとても素晴らしいもので、表だけでなく裏にある楽屋もコンサートホール同様しっかりしたものがあるのです。このホールがあるということは今の学生にとっても幸せなことだと思います。また、吹奏楽班やマンドリン部などの音楽系の部活動でもこのホールで練習演奏できることは普通ではなかなか体験できませんので、とても勉強になるのではないのでしょうか。

毎回の合唱祭で驚くことがもうひとつあります。それは明中学生がとても礼儀正しく、とてもしっかりしているところです。誰かわからなくてもすれ違う時にきちんと率先して挨拶をしてくれて、合唱祭の中でもしっかりと聴く姿勢ができています。今回の合唱祭は1・2年生の合唱祭委員が中心となり運営しており、司会も合唱祭委員が務め、まさに生徒の手作りの合唱祭にも関わらず、進行もスムーズで参加している生徒たちの動きもびつくりするほどちゃんとしておりました。出番になると客席からステージへ移動、ステージで演奏していたクラスはそのまま客席へ、簡単なようで、なかなかスムーズにいかないものですが、予定時間通り会を進行できたのはとても凄いいことだと思います。その間先生方はほぼ手出し口出ししていないのです。やはり明中学生はレベルが高いということを実感しました。

私が明中学生の頃はこんなことでできたかな？今の明中学生、凄いい！と心から思っております。

合唱祭は、中学1年、2年の順で各クラス毎に発表します。順番にステージに上るとそれぞれのクラスの代表がコメントを話して演奏が始まります。そのコメントも聞いている私が思わず吹き出してしまったりするほど各クラス良く考えられていました。

課題曲、自由曲と演奏をするのですが、それぞれのクラスから指揮者、ピアニストも選出し、練習も音楽の時間以外のホール・ルームの時間を使ったり、工夫して自主性をもって練習してい

たと聞きました。クラス毎に練習スケジュールを組み、合唱祭に向けて仕上げていったことです。まだ中学1・2年の生徒たちがそれをやり遂げられるということは本当に驚きです。

今年の1年生の課題曲は「マーチ」。CMでも使われていた曲でなじみのある曲です。音楽の教科書にも載っていて、私自身も中学の時の音楽の授業で「行け 時は今 めざせ自由の地を」と歌った記憶があります。自由曲は「unlimited」

「マイ バラード」「青春の1ページ」「星座」「Let's Search For Tomorrow」。

まだ1年生ということもあり少しごちなさがあるものの、各クラス一生懸命に練習し、仕上げてきたのだなということがひしひしと伝わってきました。

2年生の課題曲は「Hail Holy Queen」。こちらは有名な映画「天使にラブソングを」で使用されていて手拍子も付くノリの良い曲です。2年生はこれらの曲を英語の授業と絡めて勉強をしたとのことでした。自由曲は「心の中にきらめいて」「時の旅人」「unlimited」。曲が重複しているクラスが2クラスずつありこれはまた面白い展開でした。2年生ともなると、クラスの色は1年生に比べてさらにはつきり分かれてきます。その時の生徒たちの





キャラクターや担任の先生のキャラクターなどが入り混じってクラスの色ができてくるのでしょうか。本当に面白いと思いました。

各クラスのコメントも少し砕けたものも多くなり、演奏時それぞれでクラスで手拍子、構成、ソロ、ステップ等工夫して、歌うだけでなく魅せる部分も含めて研究してくれました。

中学生、高校生の年代は男子にとっては声の試練の時期でもあります。そう、変声期です。

私自身も急な声の変化で、今までと出し方の感覚、出てくる声の感覚がまるで変わってしまったことにものすごく悩みました。そのような時期ですから、変声期真っただ中にいる男子生徒は本当に大変だったと思います。それが女子にはやる気がなく見えたかもしれません。でも男子はとまどいとともに、今まで歌えていたものが歌えない。変わってしまった声でちゃんと歌えるのか。とても不安の中で戦っていた人も多いと思います。それが恥ずかしく思えてふざけてごまかしてしまう人もいたかもしれません。

その中でクラス毎に皆で練習して歌を仕上げ、それぞれのパフォーマンスをされていたことに本当に感動し、心から拍手を送らせていただきました。正直それを審査するというのは実は酷だったりします(笑)。

## 結果よりも過程が大事

ただ、それはそれで真摯に向き合い、総合的に判断させていただくことにいたしました。採点は5つのカテゴリー(ハーモニー、音程、発音、表情・表現、パフォーマンス)とそれぞれの評価を10点満点で数値化し、私とピアノの板谷氏で合計して受賞クラスを決めました。また、指揮者、伴奏者はふたりで話し合い、指揮者にはまとめる力、引っ張る力、ピアノには演奏力、伴奏力、全体を引っ張る力など、諸々の要素で検討し、受賞者を決定いたしました。

審査結果発表では谷先生、則先生がそれぞれの学年の賞を発表されましたが、発表毎に生徒たちの歓喜の声や落胆の声、叫び声やため息など、様々な感情が入り混じった音楽コンクールの結果発表のような雰囲気になりました。保護者の方々もかたずをのんで見守ってくださっておりました。一生懸命にやってきたことに対して評価されることはとても嬉しいことですし、他のクラスの評価が高く及ばなかった時はとても残念な気持ちになると思います。

点数はもちろん僅差でとても審査は難しかったです。それぞれ良いところももう少し頑張つてほしいところもありました。この評価よりも、クラス丸となって合唱祭に向けてどう過ごしたかが、番大事だと私は思っております。きっとこれから先も協力してひとつのことに向かって何かを築き上げることとは、人生の様々な場面でもまた経験することになると思います。ですから、この経験自体とても尊いものではないかと思うのです。結果よりも過程が大事。それは経験すればおのずとわかるのではないのでしょうか。

審査員講評の際にはサブライズで歌わせていただきました。則先生に小芝居をしていただき、講評のタイミングで男澤がいなくなったこととして探しながら名前を呼んでいただきます。そして前奏と共にホルの横の扉から颯爽と登場(笑)し、オペラ「カルメン」より闘牛士の歌を歌わせていただきました。

なんとそこでもコーラス部分を合唱祭委員の皆さんと則先生が歌ってくれて動きもつけてくれました。可愛い後輩たちと則先生との共演。本当に嬉しい限りでした!! ありがとうございます。

特筆しなくてはならないのは合唱祭委員の皆さんのことです。則先生にお話しをうかがったところ、自主性をもつて合唱祭に向けて本当に頑張っていたということでした。プログラムの挿絵も合唱祭委員の委員長自らの絵で制作したそうです。なかなか慣れないことですから準備も大変だったと思います。悩みな

がら本番に向けて動かれていたのではないのでしょうか。当日の仕切りも見事で、時間配分もしっかりと守られ、ほぼ時間通りにできていたのにはとても驚かされました。

舞台袖で委員の生徒たちを見ていても、ステージと客席の状況に「喜・憂しながら何かあればすぐに対応し、袖にいる私達にもしっかりと挨拶し、ずっと椅子を出してくれるなどの気遣いも見せてくれました。あれ? 本当に中学1、2年生だっけ? と疑ってしまう程しっかりと運営されていて、本当に感心いたしました。合唱祭委員の皆様にも心から拍手を送りたいと思います。

生徒たちにとってこういった行事があることは本当にありがたいことだと思いますし、自主性をもつて行事を成功させることはとても自信につながるのだと思います。また、クラス毎の協調性や信頼、思いがけない才能の出会いなど、様々な利点もあるかと思えます。今後もぜひ開催いただき、その輪を全校に広げていっていただけたらと思います。そして生徒たちが多くのことを感じ、多くのことを学んでいただけることを心から願いつつ、私自身もまた明治高等学校で演奏できる機会があることを夢見て頑張っていきたいと思っています。





# 特集 前へ!①

総明会OB紹介 明鐘会 男澤 友泰氏(歌手)



ブルー・アイランド版オペレッタ「メリーウイドウ」

## 総明会 OB 紹介 明鐘会 男澤 友泰氏(歌手)

平成5年3月明治高校卒業後、国立音楽大学に入学、翌年、東京藝術大学に入学し、高橋大海氏に師事し、声楽を学ぶ。

卒業後、劇団四季に入団する。劇団四季を退団後、単身でアメリカに留学。留学先のミシガンで語学研修をする傍ら、シャーリー・ヴァレットの公開講座を観て、アメリカ流の音楽観に感銘を受ける。帰国後、単独で音楽活動を始め、サントリーホールで行われた「アフガン復興支援コンサート」や東京オペラシティ「世界オペラ展」オペラアリアソロコンサート、NHK-BS「小室等の音楽クッキング」、青島広志氏主宰のオペラ等に出演している。今後、オペラヴォーカルユニット「L'alba voce」(稲川素子事務所)として芸能活動も開始する。



### 幼少期は歌が好きで一人でもよく歌っていた

小学生の頃は、西六郷少年少女合唱団に所属していた。当時はテレビやラジオに多数出演していた有名な合唱団でカリスマな先生がいた。合唱界ではかなりのカリスマで、毎年郵便貯金ホールで定期演奏会をする、チケットが売り切れてキャンセル待ちになるほどであった。

小学3年の際に授業でオーディションがあり、呼ばれた人は合唱部に行くことになった。小学5年になると合唱部員は合唱団に行くかを自分で決めることができ、進んで合唱団に入団した。

毎年夏に10日間ほどの合宿があり、行った地域の小学校をまわって音楽鑑賞会に出演したり、その他レコーディングやテレビの仕事もあった。一番印象深かったのは世界の合唱祭の日本代表として東京ドームのグラウンドで歌ったことだった。また、ドイツ・ニーランドのバレード等にも呼ばれて、ミッキーマウスの誕生日のバレードの車に乗って歌ったりしていた。

もともと小さい頃から歌が大好きで、家でもずっと一人で歌っていて親によく怒られていた。たまたま、小学2年で転校した学校では合唱が盛んで、合唱部に入部できたことが幸運だった。

合唱団ではいろいろな所で歌うこともできたが、上下関係は厳しく、姿勢が悪いと怒られたり、お腹がつかえてないと棒で突かれたりと、スパルタだった。入団後は高校3年までが活動期間であるが、学業が忙しくなったことから中学2年で退団した。

小学生の頃、塾に行きたいと言って通ったのが進学塾で、塾の同期に今年の総明会実行委員長になる横尾君がいた。大学まで受験がなく進学できるのもいいと思い、明治中学校を受験した。



## 坂口先生や鈴木康巳先生たちが 応援してくれていた

明治中学に入學した当初は、人と会話するのが苦手、1学期は誰とも話をしなかったように思うほどだった。休み時間にずっと外を見ていたような記憶が残っている。

明治中学ではバレーボール部に入学するが退部し、高校1年から生徒会本部に入部した。映画技術研究部にも入ったが、部として実際の活動をあまりしていなかった。また、演劇部を創部しようと試みたが、男子校ということもあり叶わなかった。

人前に出ることは嫌いではなく、元々音楽活動をしていたこともあり、内向的でありながら、人前で活動することが面白くてしかなかった。中学2年の頃に、タレント養成所に自ら応募した。オーディションを受けたところ合格し、合格後、親に報告した。東京宝映テレビという養成所で、松平健氏や高木美保氏、小川範子氏などが所属していた。土曜は個人的に通っていたピアノを習い、日曜にはダンスや歌の養成所のレッスンを受けた。土曜日は放課後にピアノのレッスンがあったので、学校に昼食を食べるための許可をしてもらっていた。部活の代わりに活動をしていたような感じだった。高校1年でテレビドラマのオーディションに受かり、主役の子供時代を演じた。撮影のため移動教室に行くのに遅れたことから、送迎のためマネージャーがついてきて驚かれたことがあった。ドラマの放送日が試験前で誰も見ていなかったと思われたが、次の日に学校で同級生や先輩たちに「お前出てただろ」と言われた。テレビに出る許可は取っていなかったが、当時、坂口先生や鈴木康巳先生たちが応援してくれていた。その時の相手役が明治高校の先輩の三宅裕司氏だったことを覚えている。

高校からは生徒会本部に入部した。同期で生徒会長を務めた長野君と仲が良く、手伝ってほしいと声を掛けられた。最初は会計担当で、高Ⅱで会計長を務めた。長野君が生徒会長になってからは本部総長をしていた。生徒会では、男子

校らしさというか、高校Ⅱ年、Ⅲ年になると全校集会がめんどくさくなり、スムーズに集まってくれなくなるこの対応が大変だった。また、会計長の時は各部との予算折衝などが楽しかったことを覚えている。生徒会本部の合宿ではレクリエーションもあったが、会議ばかりしていた。他大へ進学した者もいて、5人いた生徒会本部同期のうち2人しか明治大学に進学しなかった。

## 中高時代にミュージカルにはまっていた

その後、音大を受験し国立音楽大学に入學した。もともとと歌が好きだったので高Ⅱの秋に声楽を始めた。それまでは明治大学に行くものと思っていた。中高時代にミュージカルにはまっていた、発売日に劇場に並んでチケットを取っていた。「レ・ミゼラブル」に衝撃を受け、その後「ミスサイゴン」などのミュージカルを見た。前から2、3列の席を取ることができた。当時、レ・ミゼラブルは斉藤由貴氏や野口五郎氏、鹿賀丈史氏、岩崎宏美氏などがでていた。「ミスサイゴン」は本田美奈子氏、市村正親氏などが出演していた。それらのミュージカルに影響を受け、自分もやりたいと思っていた。当時習っていたピアノの先生に音大に行かないかと言われ、ピアノは無理だと言うと言ったところ、楽理か歌はどうかと言われた。

楽理は実技が少なく、机上の勉強が中心なので歌ならば出来ると思いい験を決めた。たまたま、その先生に習いに来ていた女の子の母親が東京藝術大学の現役の学生で、紹介してもらい教授に会わせてもらった。その教授の弟子を紹介してもらい、師匠となる先生に出会った。

今でも青島広志氏のオペラではその師匠と毎年共演させてもらっている。基本的な常識から音楽のことまで厳しく叩き込まれ、音や言葉についても厳しく指導してもらった。今は静岡大学の教授をしている。今でも、現場で会うとかなり緊張する。

## 国立音楽大学に入學

試験は基本的に学科が国語と英語に楽典、実技が歌(課題曲)とピアノ、藝大の場合は1次が自由曲、2次で課題曲、自由曲、3次が楽典とソルフェージュとピアノだった。国立音楽大学も藝大もソルフェージュの一部でコーリユーブゲンという教材を使用した視唱の試験があるが、藝大は一番最後の一番難しい曲だった。

国立音楽大学は楽しく、勉強しなくなってしまうので、このままではいけないと藝大を受験することにした。受験勉強ではピアノの試験曲が藝大の課題曲とかぶったので幸運だった。受験にあたっては、楽典の試験範囲で教会旋法という昔の教会で使われていた少なくとも16世紀頃まで西洋音楽理論の基礎となっていた音階の手法があり、その勉強もしたが、藝大卒業後、作曲の先生にジャズ理論を習った時にアベイラブルノートスケールとして教会旋法を使ったことには驚いた。

藝大受験再チャレンジは見事合格したが、国立音楽大学の先生には内緒で受験したため、当時は怒っていらしたようだが、先生のリサイクル等に伺っており、険悪な仲ではなかった。その時の門下の先輩にも今でも仕事で会うことが多い。

## 藝大に入學してすぐに登校拒否気味に

藝大に受かったが、歌の場合は将来性を見てくれているように感じた。体が出来上がるのが40歳を過ぎてからなので、地声やその時の感覚を見ながら、先生方は選んでいるのだと思う。歌は化けるので、入った当初は上手でなかった人が、第二線で活躍していたりする。現在活躍している同期としては、男子は青山貴氏で「H・DEVIL」のメンバーとしても人気を博している。彼は学生の頃からずば抜けた実力の持ち主で、実技の試験では名簿の番号が次で試験の順番がいつも次だったのだ嫌だった。その他にメゾの山下牧子氏、中島郁子氏、谷口睦美氏などが二線で活躍している。

藝大時代の思い出としては、入學してすぐに登校拒否気





ブルー・アイランド版オペラ「霊媒・電話」

合唱の授業が一番厳しく、1年生から3年生まで同じ時間に合唱の授業が週2回あり、その時間に4年生は別で室内合唱がある。そのため1回でも単位を落とすと卒業が1年延びることとなる。その前にソルフェージュの授業があり、朝一の授業で出席が大変だった。

### 勉強をしていないと

#### その場で帰れと言われたものだった

1年生から門下に振り分けられ、自分の場合は歌を始めるときに紹介いただいた教授の高橋大海氏に師事することができた。欧米式のやり方を取り入れている先生で、本来はコマで授業は決まっているが、レッスンしたければ毎日来てもいいこととなっていた。レッスンをずっと待っている間に、ほかの人のレッスンを聴けということだった。20分以上レッスンをしてもらったのは、4年生の卒業試験前が初めてだった。それまではなかなか納得してもらえず、あまりレッスンをしてもらえなかった。最初の歌いだしで「ふん」で終わってしまった。勉強をしていないとその場で帰れと言われたものだった。厳しくしつつ、自主的にできる人は伸びていく感じだった。師事した教授によって指導法は違うのである。大人になってからわかったが、先生は自主性を求めているのだと思う。門下生には大学院生までいたので、勉強しようと思えば勉強できる環境であつたと今は思う。4年生の時に受けた明中・明高での教育実習の研究授業では、教授が家から自転車で駆けつけてくれた思い出がある。また、練習室は学校にあるが20部屋くらいなので、空いていない時もあり使うのが大変だった。

音楽系は必修が多く、語学なども厳しかった。ドイツ語、フランス語、イタリア語から第1、第2外国語を選ばなくてはならず、イタリア語を第1外国語にしていた。歌についてはイタリアの古典の曲から始まり、最後はイタリアオペラの曲やフランス、ドイツの歌曲を歌った。1年生の時は教本しか歌わせてもらえず発表会でも教本を歌う人はあまりいなかった。

たが、教本の曲を歌うこととなった。同じ門下の同期は女子しかおらず、女声はファルセットで歌うので、比較的うまく聴こえるが、男性は地声で歌うので、体が出来ていないので声が若く聴こえて難しかった。女性と同じように歌うが男の人は評価されにくかった。前期後期で歌の試験があり、4年までで同じ曲は使えなかった。4年生の時に学内演奏会があり、その演奏と卒試が論文代わりだった。

3年生からはオペラ科に進み、オペラの実習などもした。オペラ実習では演技もあり、試験に向けて衣装も自分で用意した。大学院オペラの合唱として出演することもあり、メイクの指導もあった。4年生は教育実習もありかなり忙しかった。教材の準備等は学校での教職課程などで学んだことを生かし、吹奏楽班に呼吸法を教えたりできたことが印象に残っている。

### ミュージカルをやりたくて

#### 劇団四季に行こうと思っていた

藝大は9割方大学院を受けるが、卒業後の進路については、ミュージカルをやりたくて劇団四季に行こうと思っていた。4年の時に受けたオーディションでは1次は時間が短く2分以内しか歌えなかった。指定時間内の曲になると選択肢がせばまり、曲が限られてくる。藝大出身の先輩に「時間のせいだよ。最終は違う曲にして」と言われたのを覚えている。歌枠でオーディションを受けたので歌の試験のみだった。2次試験では浅利慶太氏や有名なメンバーが前にいたが、知っている先輩もいたので思ったより緊張しなかった。夏前にオーディションに合格した。

合格後、卒業後にオペラ座の怪人に配属になった。しかし、知らなかったが、卒業した後に受けていた人はオーディション合格後、すでに劇団に入団しており、出遅れてしまった。劇団では朝早くから発声練習、基礎練習、午後にはカンパニー毎の稽古があつた。体力的にもしんどく、一番下が準備をしな

味になった。みんなそれぞれの地域ではトップクラスだったのが、周りがうまいと気づき、ショックを受けることから、一人ではなく結構な人数になる。秋には学祭があり音楽と美術と合同で行われる。1年生は各学科がペアを組む。音楽科は建築科と毎年ペアを組んでいて「べたんこ」というお餅屋をやる。また、神輿を作るのが1年生の役割だった。学祭の際は神輿で上野を練り歩くのだが、その1週間前くらいから泊まり込みなので、頑張りすぎて神輿当日に起きられず、完成品を見られなかったという悲しい思い出がある。学祭ではいろいろな公演が行われるが、1年生はたくさんのお客さんがあり大発表をしていた。和楽器もあり、日舞から能・狂言までいろいろな催しをしていた。お客さんも一般の人が多く、美術や音楽の好きな人が見に来ていた。



くてはいけなかった。それらをこなすことは必要なことなので頑張ったものの、退団した。あざみ野に稽古場があったのだが、しばらくは田園都市線に乗りたくない病になっていた。

## そして、アメリカ・ミシガンに渡った

その後、しばらくは今後の進路を考えていた。その間、教職課程の単位のうち、国立音楽大学で受講した1科目が藝大で認められなく1年間科目履修をしていた。

そして、2000年から2001年にアメリカ・ミシガンに渡った。アメリカにいた藝大時代の先輩が状況を見かねて呼んでくれた。その先輩がメトロポリタン劇場にも出演し、世界的なメゾ歌手のシャーリー・ヴァレットに師事していた。歌も音楽も辞めようかと思っていた時期に、アメリカの雰囲気でも気分を変えようと思った。また、英語もできるようになれば仕事もあるだろうとも思っていた。その先輩と同じアパートメントに住み、大学の練習室に通いつつ、先輩の伴奏をしたり、シャーリー・ヴァレットの公開講座を見に行ったりした。そこで、かなり感覚が変わった。基本的に教え方がまったく違い、欧米の先生はいい所をものすごく伸ばそうとしている。そして、個性を大切に。悪い所の指摘よりそちらの方が多かった。日本の先生はどちらかと言うと悪い所を直そうとする。そういう意味で自信を持ちながら伸びていくような感覚を初めて見たのがつと、アメリカ人の考え方として、本音しか言わない。むしろはつきり言わないと失礼になるということを知って、今まで隠していたことがバカシと外れた感覚になった。現地の人の体の使い方など、現地で見るとは違って、普通の生活に密接に関連していることがアメリカにいたことによりよくわかった。オペラの中の感情の入れ方も日本人の入れ方と欧米人的な入れ方はぜんぜん違い、根本にあるものが違うのだと感じた。

カルチャーショックを受けつつもこんな世界もあるのだ。これだいいと思うとかなり気持ち楽になった。日本に帰っても音楽に

引張られ、結果としては音楽の仕事を続けることになった。派遣社員で働きながら音楽をしていたが、正社員にならなかったのも音楽を残したいという気持ちがあったからだと思う。

## 人の繋がりのおかげで

### 音楽活動を続けてきた

アメリカに行ったことにより人生観が変わった。日本の中になると、日本の中での観点しか見れないから、仕事についての感覚もアメリカに行くことにより変わったのかなと思う。それがなければ、今の自分はないと思う。

1年間、アメリカに滞在し、日本に帰国後、フリーで仕事をしながらいろいろと活動をして、今に至っている。人の繋がりで声を掛けてもらい、音楽活動をしてきた。アフガン復興支援コンサートは師匠が主宰しており、出演することができた。

作曲家の青島広志氏のオペラについては、友人が出ており面白いので見に行っていたが、帰りの電車ではつたり青島氏と一緒に挨拶をしたのがきっかけで顔を覚えてもらった。2015年に「霊媒・電話」というオペラで急遽代役を頼まれ、それ以降はほぼ毎年出演している。実は小学生の合唱団時代にも青島氏とはコンサート会場で会ったことがあった。

青島氏はテレビで見るとな宇宙人という印象で、演出もされている。瞬時に理解することが難しいが、後から考えると納得がいくことが多い。青島氏が手を加えて上演しているこのブルー・アイランド版オペラは、話の筋の大本は変わらないうがかなり違うものになっている。他のオペラの曲が入っている。設定が変わっていたりするので、作曲家に怒られそう。感じではあるが、かなり面白い。オペラを知っている人には原作との違いを、オペラを知らない人にはこんなにも面白いのかと思ってもらえるオペラになっている。発想が少女漫画だったり、本来はいい登場人物がいたりすることから面白くなっている。そのため、観ている方も演じる方も楽しいオペラになっている。

## 今のコロナ禍の中で、

### みんなステージで歌いたい

1回舞台に立つとそこから離れられなくなる。今後の活動としては、今のコロナ禍の中で、みんなステージで歌いたい。人に影響を与えたい。勇気を伝えたい。音楽は生活の中でも気持ちを左右する大きな要素になると思うので、自分の演奏で何かを感じてもらいたい。それが一番ありがたいと思っている。それがその人にとって勇気になるのか、同情になって、悲しい気持ちをそこで感じて悲しい気持ちを解消できたり、そういうところで人に何か影響を与えられるような歌の活動をしていきたいと思っている。なので、大きな舞台ではなく、お客さんが遠いと感情が見えなくなるので、人の顔の見える舞台で歌いたい。もちろん大きな舞台もやる機会があればやりたいと思っている。もっと身近に感じてもらえる歌手になりたいと思っていて、ご縁があり、来年から正式に事務所所属して音楽活動を中心にさせていただくことになり、オペラヴォーカルユニット「J. alla voce」のメンバーとして活動させ



ブルー・アイランド版オペラ「魔笛」



ていただくことになっている。alba は日の出、暁、voice は声である。太陽が昇っていくイメージで、夜明けの声という意味だと思う。ステージのお客さんの反応は、表情によって力にもなれば、落ち込むこともある。いろいろな人がいるし、疲れているかもしれない。その中で喜んでもらえるのが一番うれしいと思う。最後のアンコールや拍手がうれしく、何かを感じてもらえていることが表情を通じてわかるので、喜んでくれているとうれしく感じる。

## 大変な思いをしている人の力になれば

### ありがたい

コロナの影響でライブやオペラは活動ができなく、今年の1月、2月から自粛を要請されていて、未だに動けない。劇場もソーシャルディスタンスを確保すると観客が1/4しかいられず、興行として成り立たない。その中でデジタルツールを使ってやっている人もいるが、オペラはもともマイクを使わず、音声として生音の響きの中で聴くのが一番いいので、本当であればそういう活動がどんどんできるといえると思う。いろいろ大変な思いをしている人が日本中、世界中にいるが、そういう人の力になればありがたいと思っている。

## 「まだ夢を追いかけているの?」

### と言われることが一番嫌だ

生活という面もあり、派遣社員をしながら音楽をしてきたが、それをマイナスとは思っておらず、派遣としてのスキルも上がってきているので、派遣としての生き方もかなりわかってきた。正社員の話もいただいているが、音楽の道を進んでいけるようにやっとなつたかと思っている。音楽も合唱等の仕事をつないでやっていたければ給与的にはある程度入ってくるが、音楽的には妥協になってくる。そういう面で一般の仕事をしながら続ける。しかし、世間的には厳しいと思う。わかってくれる仲間がいるので、派遣の仕事もしながら、音楽と両立

をしてきた。まだ夢を追いかけているの?と言われることが一番嫌だ。自分の中でやってきて、自立して生活もしてきた。ただ、その中で音楽をやる上で、自分をしっかり持つことが一番大事。自信を持って、周りに何を言われてもブレないこと。自分はこれだけの活動をしているし、ちゃんと生活もしている。もちろん、音楽のスキルや経験値も上げてきている。今までの経験により、劇中で何が起きても動じなくなる。また、平然とやり切れる力量が必要になるし、一つの動きでも周りを見ながら臨機応変に動けるのは経験を積まないとできない。自分がメインでないときは相手を邪魔しないことなど、若手ではできないことに気づいてくる。そこに自分で気づいていけない人は、舞台に出てこれなくなる。その中の気づきで、いかにプロフェッショナルになっているかが大切だと思う。

## 前に向かうことに対しては、

### ブレずにしっかりと自分を持って!

総明会の後輩たちに対しては、どう生きたいかが主軸にあつて、私のように決して音楽の道は楽な道ではないし、ほかの文化芸術の道でも一般企業に就職してやっていくことと比べると、起業するにしてもそうだが、茨の道が多い。その中で、いかに自分の初心を忘れずにブレないで行けるかということがまず重要なことだと思ふ。その中で、もし、ブレてしまった場合は、勇気をもつてブレてしまつていい。始めるのに遅いことはなくて、ここ何年かやっている中で、今まではクラシック界や音楽界だけだったけれども、これから芸能界がプラスになつてくる。そういう風に

チャンスとか人のめぐりあわせとかは、どんな人脈が広がることによって変わってくるし、状況も変わってくる。その中で自分が最適な部分を、自分が本当にやりたいと思つている部分をいかに選べるかだと思う。その時に、例えば親のことが家庭のこととかある。そこで、辞めるのも一つの大きな選択で、それも絶対悪いことではない。そこで、自分の選択に自信を持つてほしい。特に後輩に言いたいことだが、選択を大事にしてほしい。選択に自信を持つて胸を張れるように、自分が努力するしかない。助けてもらえることは多いが、自分自身がしっかりしないと崩れてしまう。そこは自信を持つて、やりたいことや前に向かうことがあれば、ブレずにしっかりと自分も持つてほしい。それは就職しても同じことだと思う。やることを見極めて転職になるだろうし、そこに自分のやりたくないものを選んだ時ほど後悔することはないと思う。自分が本当にやりたいことであれば、自分が多少苦労しても頑張ることができると思う。自分が選択したことは忘れないでほしい。もちろん、客観的な意見を参考にすることは大事なこともあるが、最終的に決めるのは自分である。人を恨まないで自分で前に進めないのであれば、平凡に生きたほうがいいと思う。

総明会の先輩方にはぜひ、応援していただきたい。クラシック中心のオペラヴォーカルユニット「L'alba voce」(ラルバボーチェ)は、しっかりと自分を持つてやっていくグループである。会社のイベントなどに声を掛けていただいたり、メディアに出ることもあると思うので、応援していただければ幸いに思う。

(構成・文 平成5年卒 小岩井賢二)



オペラヴォーカルユニット L'alba voce (稲川素子事務所)



## CONTENTS

### 特集1「前へ！ Go Meiji ! ①」

- 2 明治中学校合唱祭レポート
- 4 総明会OB紹介 明鐘会 男澤 友泰氏(歌手)

### 特集2「前へ！ Go Meiji ! ②」

- 16 コロナ禍は何してた？ 親子とお店に聞いてみた
- 19 明鐘会 コロナ奮闘記  
事務局・式典委員会・寄付広告委員会  
ゴルフ委員会・会報委員会

- 10 総明会総会懇親会のお知らせに代えて／小林昭雄顧問追悼
- 11 第56回総明会総会報告
- 12 総明会会長／明治高校・中学 校長 挨拶
- 13 明治大学理事長／明治大学学長 挨拶
- 14 総明会名誉会長 挨拶
- 15 総明会 オンライン就活会開催

### 24 2020年度 学校報告

### 退任先生インタビュー

- 28 栗野哲也副校長先生
- 30 松田孝志先生

- 32 班・部活動の記録／資格試験・表彰
- 34 OB・OG 活動報告
- 52 令和2年度 総明会活動報告
- 57 前年度幹事学年挨拶
- 58 次年度幹事学年挨拶、本年度幹事学年挨拶
- 59 総明会(明治大学付属明治高等学校同窓会) 会則
- 62 編集後記



## 総明会総会懇親会のお知らせに代えて

令和2年度(2020年)は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により

我々の生活のみならず、総明会活動にも多大な影響を与えました。

緊急事態宣言により理事会・評議員会を開催することができず、

第56回総会及び懇親会も会員の皆様の健康を最優先に考え、やむなく中止とさせていただきました。

現在も新型コロナウイルスは終息を見せず、第3波の到来が指摘されております。

このような状況下では、令和3年度の総明会活動についても

先が見えない状況にあると言わざるを得ません。

今後の総明会活動につきましては、政府や、地方自治体等の動向を注視しながら

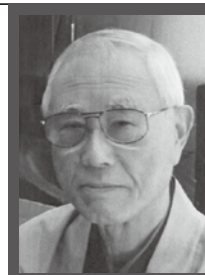
総明会の会員の皆様の安全を第1に考え進めて行く所存です。

今後の活動について詳細が判明し次第、ホームページや評議員の皆様を通じて

お知らせしていく予定ですのでご理解をいただきますようお願いいたします。



『小林顧問が8月に亡くなられておりまして！』



小林昭雄顧問(昭和22年卒)を悼む

総明会顧問 昭和32年卒 山崎敬生

10月の半ばに尾島顧問より突然の連絡を受けた驚きは大きかったが、先輩らしく世間を騒がせず、ひっそり身罷られたのだなと想いが重なった。

昭和40年に発足した明治中・高同窓会の前年より、世代の違う大先輩達の末席に呼ばれた小林先輩は、その創設に当初から尽くされた。以来、50有余年。総明会を支え、後輩達を慈悲の眼差しで見守ってくれた唯一の生証人であった。

小林先輩の死は大きい。特に私との関係は深く、ロータリアン同士という縁もあり、同窓を通り越し、人生でも数少ない敬愛する知己となり、語り、飲みながら喜びを共にしてきた。

市川がまだ軍都であった戦前、華やかな花柳界のある真間に育った少年は、高級呉服を商う父とその仕事を手伝いながら合間に芸妓らに強く乞われ、髪結いもしていた母の下、自然と「粋」の心地よさを幼い中から吸い取っていたと思う。だからこそ、大好きな「漢籍」を学びながら、歌舞伎・能・音曲等、日本文化や芸能の世界にも深く関心を寄せ、身にしみこませていかれた筈だ。後年、人形の吉徳大光の常務として浅草を舞台に活躍されたのも尤なことであろう。

ただ、一言で云うなら陰徳の人であった。総明会に尽くした善行も、目立たぬよう、人に知られぬように施していた。片岡会長時代の会計から、坂本会長時代の副会長まで

大局的な視野で私たちを教え導いてくれたが、常に謙虚で、自己顕示欲の欠片も無く、実りすら後輩に譲るような人であった。エピソードを一つ語ろう。

NHK会長から国家公安委員となられた坂本会長から突然の辞意表明が出され、後任を誰にするか、揺れ動いた時、卒業年度が27年も離れた向殿教授に決めるには様々な軋轢があった。当然のことである。その時、副会長として自身が最も近い立場にありながら、耳傾け、決然と受け入れ、会の将来の為に周囲を説き伏せて廻られた。しかも年若な向殿会長就任に当たり、「私と卯木副会長が引き続き1年間、副会長を務めましょう」と大きな助け舟すら出してくれたのだ。

それからの総明会の大きな変革と発展を思えば、正にターニング・ポイントに小林先輩の力が大きく作動し好転させたのだ。感謝の他ない。

10年程前であろうか、「これからは総明会の方も出るのを差し控えたい。顧問も外してくれないか」と電話されて来た。

80を越え、人生の終末を自分なりに描いた言葉とは思ったが、それでも無理に1度だけ強くお誘いし、出て頂いた。

それが最後に見たお姿となり、忘れえぬ人となられた。

「衣は新しきに若くは莫く、人は故きに若くは莫し」(晏子春秋)

50周年記念誌に残された小林昭雄顧問の言葉を遺言として受け取っている。

合掌





## 第56回総明会総会報告

第56回総明会総会は、昨今のコロナ禍の状況を鑑み中止とさせていただきました。

先に評議員の皆様にご報告させていただいた通り、評議員会及び総会は、会合開催における「承認・議決」から、文書による「活動報告」という形に変更する事とさせていただきました。

それぞれの報告内容につきましては、以下をご参照いただきますようお願いいたします。

- 活動報告 1** 会務報告 ※会務報告は本会報の53ページを参照願います。
- 活動報告 2** 会計報告
- 活動報告 3** 監査報告 ※会計報告・監査報告は本会報の54ページを参照願います。
- 活動報告 4** 令和3年の総明会活動について

現在、令和3年3月31日まで紫紺館の使用ができない状況となっております。そのため、会議体形式の理事会、評議会等の活動は4月1日以降を予定しております。また、4月1日以降の活動につきましては、今後の感染拡大状況、国や地方公共団体の動向を注視しながら各委員会及び本部理事においてWEB会議等を行い、活動再開に向けた準備に努めてまいります。

今後の状況により、行事の開催時期の変更も見込まれる可能性も考えられます。

総明会会員の皆様方には、これらの情報を総明会ホームページを通じて適宜、お伝えさせていただきますので確認いただきますようお願いいたします。

## 2020年(令和2年) 総明会 年間行事

1月	24日(金)	開催	第1回理事会	7月	4日(土)	中止	評議員/班・クラブOBOG会 懇親パーティー
2月	7日(金)	開催	第1回評議員会	9月	10日(金)	オンライン 開催	第4回理事会
	14日(金)	開催	顧問会		13日(日)	中止	明朗会(プロ野球観戦)
	18日(火)	開催	高校3年生対象の総明会説明会		26日(土)	縮小開催	紫紺祭
	20日(木)	開催	高校3年生対象の出張講義		27日(日)	中止	総明会ブース設置
3月	28日(金)	開催	武陵会との懇親会	10月	10日(土)	オンライン 開催	第5回理事会
	6日(金)	縮小開催	第2回理事会(予算案提出)		31日(土)	中止	第3回評議員会
	10日(火)	縮小開催	明治高校卒業式/総明会賞授与5名	11月	15日(日)	中止	第56回総明会総会・懇親会
	10日(火)	中止	卒業記念祝賀会		15日(日)	オンライン 開催	オンライン就活会
	14日(土)	中止	高校3年生と食事会		15日(日)	100万円 寄付	明治大学140周年記念事業募金
4月	27日(金)	中止	第2回評議員会(予算案承認)	12月	5日(土)	中止	役員忘年会
	6日(月)	中止	明治高校入学式			オンライン 開催	幹事学年引継式
5月	18日(土)	中止	第26回総明会チャリティーゴルフ				
	8日(金)	オンライン 開催	第3回理事会				
6月	23日(土)	中止	武陵会総会				
	15日(月)	開催	会計監査				
	20日(土)	中止	白駿会総会				



明治大学付属明治高等学校・中学校

校長

## 安藏 伸治

COVID-19に  
負けない！

2019年の3月8日から2020年6月1日まで、母校明治高校ならびに明治中学は、新型コロナウイルス対策のため、休業措置をとりました。3学期の期末試験終了後からの休業で、3月10日の高校卒業式と14日の中学卒業式は、当該生徒のみの式典となっていました。また、4月から6月までの休校期間には、中1と高1を迎えるための大切な入学式や新入生歓迎会を行うことができず、Zoomによるショートホームルームやホームページからの課題提示ということとなり、生徒達、特に厳しい受験を潜り抜け明大明治に入学してきた新入生には申し訳ない新年度となっていました。

6月2日からは2週間の分散登校の後、第4週から全員の通常登校に戻ることができ、8月8日の終業式をもって、2020年度の1学期を無事終了することができました。2週間の夏休みを挟み、24日から第2学期が始まりました。

この間、生徒たちを安全に受け入れるために、学校の環境やスクールバスの利用、換気、手洗い、消毒など様々な行動基準を作成し、教員と生徒が一緒になって教育環境整備に協力してくれました。総明会から、大量の良質な消毒液をいただいたことに、本校の全てのメンバーが感謝しております。ここに改めて御礼申し上げます。

学校とは、「密」な人間関係を前提に、お互いにコミュニケーションを取り合い、人間的成長を促す場です。そうした環境において「密」を回避し、教育や班部活動を行なっていくのは、極めて難しく、学校らしくない状況になってしまいます。明治大学では、現在、全て遠隔で授業を行なっていますが、それでは教育情報の伝達はできませんが、「教育」を行うための「場」とか「空気」がなく、そう言う状況になって初めてそれが大切なことだと痛切に感じております。

これから迎える2学期、こうした二律背反を克服しながら、新しい時代の明治高校、明治中学をつくっていききたいと思います。幸い、2学期からは生徒会が主体となり、高校Ⅲ年生がリーダーとなってwith Coronaの環境での明大明治を運営していく体制を動かしてくれるそうです。まさに、「独立自治」の精神を生徒達が理解し、COVID-19には負けない力強い「伝統校」を構築してくれるようです。

(2020.8.9記)

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会

総明会会長

## 井家上 哲史

バトンを引き継ぎ  
次世代へ繋げる

昨年の第55回総会懇親会にて総明会会長を拝命しました1976年(昭和51年)卒業の井家上哲史です。

どうぞよろしくお願いいたします。

会員の皆様、ご家族、ご親戚、関係の方々におかれましては、新型コロナウイルス感染症の直接・間接の被害を受けておられる方も多くと存じます。謹んでお見舞い申し上げます。皆様の生活基盤が一刻も早く立て直ることを祈念しております。

卒業生主体の同窓会が1965年初代笹村会長のもと運営され、その後1984年同窓会に総明会の名前が付き、現在に至っています。私は1973年(昭和48年)明治高校入学。3年間の高校生活は、物理部で先輩後輩のつながりが意識されたほかは、ありふれたものでした。その後2003年(平成15年)第39回総明会総会懇親会の幹事学年を務めて以来、総明会の活動に加わり、明治高校の卒業生を強く意識することとなりました。その間、向殿会長から佐久間会長へ、佐久間会長から尾島会長へ、尾島会長から吉田会長へとバトンは引き継がれてきました。会の運営で必要なのは見直し、これまで私をこの活動に導いて頂いた多くの先輩・仲間・後輩の皆さんの力をもとに、吉田前会長からのバトンを次代へとつなげていきたいと存じます。昭和から平成そして令和、また猿楽町から調布への校舎移転や共学化によって、幹事学年や新入会員の気質や姿形は年々変わっていますが、『「明治」への想い』は変わっていないと確信しています。皆様のご協力をよろしくお願いします。

今年の幹事学年は平成5年卒「明鐘会」。活動テーマとして、『前へ！ Go Meiji!』を掲げて準備してきました。一方、総明会の活動は、会員の健全な社会生活があつての上の活動であり、第1回評議員会を2月に開催して以降、その活動を休止してきました。5月の緊急事態宣言の解除、また東京近隣の状況を見ながら、Webによるオンラインの役員会および理事会を再開し、各委員会の委員長、副委員長とこれまで経験したことのない新型コロナウイルス感染症流行下での同窓会の活動・運営について、議論してきました。その結果、当面大幅に行事予定を縮小して実施していくことになりました。会員の皆様にはご期待に添えない活動となること、また、せっかく準備してきた「明鐘会」の意気込みに応えられないもどかしさもありますが、ご容赦いただきたく思います。

この感染症流行の経験は、われわれの社会生活様式に必然的に変化をもたらすことになるでしょうが、「明治」の絆と「前へ！」の精神で乗り切りましょう。そして、その変化のもとでも楽しい総明会の活動ができるように、知恵を出していきましょう。



学校法人明治大学 学長  
**大六野 耕作**



**良い仲間たちと  
ともに育つ伝統**

本年4月1日付で明治大学長に就任いたしました大六野耕作でございます。このたびの総明会会報「紫紺の詩」の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

総明会におかれましては、毎年、46歳を迎えられる卒業生が幹事学年となって、その年の懇親会の開催や会報の発刊にあたられると伺っております。学長室の書棚に並ぶ歴代の「紫紺の詩」を拝読いたしますと、会員の皆様が歴史と伝統を大切にしながらも、それぞれのフィールドで新たな挑戦に取り組まれておられることをひしひしと感じるとともに、明治大学を支える直系の付属中学・高校として多種多彩な人材を輩出され、各分野で第一線の活躍をされていることを大変誇らしく感じております。

タイトルに引用させていただきました言葉「良い仲間たちとともに育つ伝統」は、平成16年のご卒業生で第153回芥川賞を受賞された羽田圭介氏が、2011年の総明会会報に寄稿された文章の一節です。多感な時期を「良い仲間たち」とともに青春を謳歌し、卒業後も総明会を通じてタテ・ヨコの深い絆を大切にしながら豊かな人生を育んでいかれるということは、総明会会員の皆様に与えられた、かけがえのない特権と言えるのではないのでしょうか。

文部科学省においても長らく「高大接続改革」の重要性が提唱されております。政治、経済、文化、あらゆる事柄が世界的広がりを持ち、その影響が瞬時に他へ波及する現代において、高等教育（明治大学）とその基礎となる中等教育（明高中）が果たすべき役割は、今後ますます重きをなすことでしょう。大学・高校・中学校の紐帯をさらに強固にし、より一層充実した教育を展開して参りたいと存じます。総明会の皆様におかれましても、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、井家上哲史会長をはじめ、本年の幹事学年である平成5年度「明鐘会」の皆様に対し心から御礼申し上げるとともに、総明会及び関係者の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念し、祝辞とさせていただきます。

学校法人明治大学 理事長  
**柳谷 孝**



**「総明会の秋」と  
「100年目の校歌」**

このたびは『紫紺の詩』が発行されますことを心よりお慶び申し上げます。

文化・芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋などの言葉が示すように、日本の四季の中で秋は最も楽しみの多い季節でございますが、私にとりましては「総明会の秋」でもあります。毎年、幹事学年の皆様方の手により、活気溢れる懇親会が盛大に開催されますので今年も心待ちにしておりましたが、コロナ禍のため、その楽しみは来年へと持ち越しになりました。その分、今回の『紫紺の詩』は、幹事をはじめ総明会の皆様方の熱意が一層詰まったものになると存じますので、今からその発行を楽しみにしております。

さて、私の立場柄、様々なイベントで学生や校友の皆様と接しますが、最後の「締め」で明治大学校歌を斉唱する際に「3番まで一切の淀みなく歌える方」は、経験上かなりの確率で明高卒業生であります。歌詞を見ずに視線高く堂々と歌う姿に、生粋の明治魂を感じずにはいられません。

その校歌が、今年制定100年目となりました。当時の学生達が自主的に企画して奔走した末に完成させたという逸話も、明治大学らしさを物語っておりますが、総明会の皆様の胸には、その校歌に込められた「権利自由」「独立自治」の精神が、今も強く息づいていることでしょう。

ところで、近年では明高卒業生の活躍が目立っております。公認会計士試験で本学初となる総合成績第1位合格者が誕生しましたが、その方は明高卒業生でありました。会計士合格者自体も、明高卒業生からコンスタントに出ていることも奏功して、大学別合格者数ランキングでは、2017年に35年ぶりに「3位」へと躍進し、以降その順位を堅守しております。このほかにも、司法試験のような国家試験から学部の学業成績優秀者に至るまで、目を見張る活躍ぶりが見て取れます。

こうした明治高等学校のプレゼンスの向上は、安藏校長先生をはじめ、長年にわたって教育の質的向上に努めてこられた教職員の皆様のご尽力の賜物であり、また総明会の皆様のご指導とご支援、そしてご父母の皆様のご理解とご協力のおかげでございます。

学校法人明治大学を代表し、心より御礼申し上げます。

結びに当たり、総明会のますますのご発展と会員各位のご健勝を祈念し、祝辞といたします。



今回の総明会会報では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から懇親会を中止とさせていただきましたので、本来は懇親会の来賓でいらっしゃる明治大学学長・明治大学理事長・総明会名誉会長からご寄稿をいただきました。

明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会  
総明会 名誉会長

## 向殿 政男



### コロナのピンチは、チャンスに!

総明会の皆様、いかにお過ごしでしょうか。

今年2020年は、新型コロナウイルス汚染拡大という出来事に、わが国はもちろんのこと、世界中で大騒ぎです。皆様の生活にも大変化が起きていることでしょう。このようなパンデミックといわれる事態は、少なくとも100年に1回ぐらいの割合でこれまで起きている、想定外とはいってはいけないのかもしれませんが、まあ、我々庶民にとっては、誰も予想はしていなかった、突然の想定外の出来事です。

総明会の活動も大きな衝撃を受けています。今年のホスト学年の明鐘会の仲間たちは、「前へ! Go Meiji!」という前向きの掛け声のもと、活動を始めたのですが、今回の突発事態の発生です。早速、対応を始めました。先行き不透明に中で模索を始めたのです。

「どんなことがあっても前へ」、これこそ「Meiji魂」です。まさしく本年度掲げたホスト学年のテーマそのものです。活発に新しい道を探し、3密を避けながら、新しい総明会の総会の在り方を議論し、この会報の発行もその一環です。

精神は変えず、時代の流れを読み、不測の事態にも対応して継続し続けること、これこそが総明会の本来の在り方の姿であると信じます。本年度のホスト学年である明鐘会は、この意義を深く実感することになりました。

ピンチはチャンスとよくいわれます。こういう時こそ、新しい方向を創造的に見出し、習慣的に行ってきた惰性をそぎ落とし、総明会の在り方を根本から考え直す絶好の機会です。明鐘会は、積極的に、明るく前向きに、総明会の在り方に向けて模索し、努力しています。素晴らしいことです。心から敬意を表したいと思います。

総明会の会員の皆様も、今年のホスト学年である明鐘会の努力に応えるべく、ぜひ、今後とも、総明会の活動に参加し、協力していただきたいと思います。前述したように、根本精神は変えず、時代の流れには適切に対応をしていくという「不易流行」の理念のもと、毎年ホスト学年に渡されるバトンを次に次に受け継ぎ、総明会がいつまでも継続的な活動し、存続し続けることにご協力いただきたく、お願いをする次第です。



就活会2020 基調講演	2020年11月15日(日) 15:00-15:50 新井 山崎 講演
Session 1 建設	2020年11月15日(日) 15:50-17:00 新井 山崎 Session1
Session 2 金融	2020年11月15日(日) 15:50-17:00 新井 山崎 Session2
Session 3 メーカー	2020年11月15日(日) 15:50-17:00 新井 山崎 Session3



# 総明会 オンライン就活会開催

## 2020年(令和2年)11月15日(日)

### ◆オンラインでの就活会開催

2020年(令和2年)11月15日(日)15時から、就活会を開催しました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、オンラインでの開催となりました。今年の幹事学年の明鐘会(H5卒)はIT系会社の勤務者が多く、彼らの力を存分に活かしてZoomを使ったの実施でした。

就活会は二部構成になっており、第一部として鶴岡組織委員長の開会の挨拶から始まり、安蔵校長から「大学を出てからの人生をつくる学校を卒業したこと、先輩との絆を結んで力強い人生を歩んでほしい」とのお言葉と学生へのエールをいただきました。

その後、日軽エンジニアリング株式会社で総務・人事を担当している組織委員会の福島氏による基調講演を行いました。内容はZoom等によるオンライン就職活動の基礎知識、2021年度就活の振り返り、就活年間スケジュールやオンライン面接での注意点、2022年度就活の予想等をお話いただきました。

第二部として就活を終えて間もない20代のOB・OGに講師として参加していただき、自身の就活経験や入社してからの業務等について、建設・サービス、金融、メーカーの3つのセッションに分かれて、それぞれお話いただきました。

### ◆セッション内容

#### セッション1 《建設・サービス》

鹿島建設株式会社の大森さんと楽天株式会社秋山さんに講師を務めていただきました。お二人とも就活アドバイスのみならず、現在の仕事における日々の過ごし方や業務の流れ、目標設定や将来の展望についてもお話いただきました。そして、就活時の体験談もとてもわかりやすく語っていただきました。受講生たちは就活情報のみならず、社会人としてスタート地点に立

つマインドセットや将来指針の組み立てなどについて、より具体的にイメージできたのではないのでしょうか。

#### セッション2 《金融》

三井住友海上火災保険株式会社の鈴木さん、株式会社かんぽ生命保険の寺田さんが講師として、事前質問からしっかりと準備していただき、丁寧な、また熱く、自分たちの体験談を語っていただきました。幹事学年も非常に参考になると聞き入ってしまうほどの内容でした。さらにエントリーシートの書き方やインターンでの体験談、面接で好印象になる方法、表情の見せ方、心構えなどについてお話いただきました。また、講師お二人のタイプが異なっていたので、金融を目指す人にとっては貴重な経験になったと思われる。

#### セッション3 《メーカー》

キリンビバレッジ株式会社の渡邊さん、協和キリン株式会社白崎さんに講演をしていただきました。お二人とも入念な準備と丁寧な質疑応答をしていただき、最新の就活事情に即した経験談を元に、就活に当たり幅広い業界を見ることが必要性、企業が求める人物像について語っていただきました。また、就職を決めるポイント、大学の就職キャリア支援センターの使い方、オンライン面接への取り組み方、就活ノート作成による自己分析の方法などについても細かく話していただき、参加した学生は食いつくように聞いていました。

就活へのアドバイスはもろんのこと、実社会に出てからのエールを含め、OB・OGから後輩への思いがあふれたセッションになりました。来年以降には今年参加してくれた学生が希望の企業に就職し、就活会の講師として講演してくれることを楽しみにしています。また来年も就活に臨む学生のために就活会を開催いたしますので、多数の方のご参加をお待ちしております。



# 特集 前へ！②

## コロナ禍は何してた？ 親子とお店に聞いてみた

新型コロナウイルスのため、学校も仕事も自粛せざるを得ない状況になってしまい、普段と違った生活を余儀なくされた方々が多いと思う。そんな中で皆さんがどのように過ごしたのかりモト取材で聞いてみた。

※対面での取材自粛が続くコロナ禍も終息していない為、取材をお願いする方々が限定され、容易にリモート取材が可能な方に限定して掲載いたしました。ご了承ください。

### 《親子編》

お父さん 原 健治  
息子さん 原 将一郎(高Ⅲ)

明治高校卒のお父さんとその息子さん原親子に話を聞いてみた。



息子さんの将一郎君は、高校Ⅲ年生でクラブは野球部に所属している。3月から6月の間、新型コロナウイルス対策のため、学校が休校となった。その間、何をしていたかの問いに「本音を言えばダラダラしていましたが」と照れながら話してくれた。科目によっては課題や宿題が出されたそうで、オンライン

ン授業はなかったそうである。

しかし、野球部なので自分できる自主トレーニングは欠かさずやっていたそうである。やはり身体を動かさないと不安になるし、いつもやっていた事をやっていたと、出来なくなるような気がしたそうである。

### 家族との繋がり

そしてお父さんである健治氏

は、家具の小売業をしており、お店が自宅近くという事もあり、たまにトレーニングの手伝いをしていたそうである。お店の方は、1ヶ月半ほど営業時間を10時から19時30分を、12時から18時までに短縮して営業したそうで、夜は飲み会などにも行かずおとなしく家に直帰し自粛生活をしていたそうである。

当然息子さんと顔を合わせる時間も増え、健治氏は将一郎君に「今の時間は本当は授業中なのに勉強していいのはどうということなんだ」とか「本来なら今は1時間目の授業中だろ」とか何度か言ったそうである。多分みんなこの家も親は同じことを言っていたに違いない。

将一郎君は普段、部活で遅くなった夜は一人で食事をすることもあったそうだが、この時期は、朝・昼・夜と家族と毎日食事をするようになり、家族の時間がとても増えたので家族の大切さを感じ、絆をとっても感じるようになったそうである。毎日のせわしない生活の中ではこのようなことは、なかなか感じないかもしれない、貴重な発見である。

### 学校再開

6月からは、ようやく分散登校で学校が再開された。出席番号の奇数と偶数で分かれクラスの半分ずつが交互に登校したそうである。最初は久しぶりに登校できたのもありこれが普通なんだなと思ったそうだが、2週間後には全員



登校となったことで「いきなり人が増えたので、人が多いな」と思ったそうである。

8月、中間テストはなく夏休みに入る。夏休みは2週間と短かったそうである。夏休みという感じはなく、また自粛生活に戻ったようなとても不思議な感じだったそうである。当然旅行など行かず近場に遊びに行ったくらいだったそうである。

夏休みが終わり、通常通りの学校生活が始まり3ヶ月が経ったわけだが(取材は11月)、生徒はコロナウイルスをどう感じているのかを聞いたところ「マスクがある生活だけど、依然と変わらない元の生活という感じになってきた」そうである。でもマスクや手洗いは一つのマナーとしてみんなの頭の中に刻まれているので自然な週間として定着しているそうである。時には友人同士で注意し合いながら、接するようにすることもあった。

### お父さんはPTA会長

健治氏のお店は、在宅ワークやリモートワークが多くなったことでデスクやデスクチェア、座椅子の注文が増えたそうである。更にステイホームによりソファの新規購入や買い替えも多くなったそうである。職業によっていろいろな違いがあるようだ。

健治氏は、明治高校のPTA会長も務められており、PTAの会合も今年中頃は、Zoomで行っていたそうであるが、最近になって、やっと学校で会議をやるようになったそうである。週1回学校に行っているそうで、やはり会って話す方がスムーズに事が運ぶのだそうである。

取材した11月は息子さんが高Ⅲということもあり、卒業式係とか卒業式関連の記念事業などで忙しいそうだが、新型コロナウイルスで、実行できるか分からない手探りの状態



だそう。

## 今年を振り返って

將一郎君に、今年の11月までの学校生活を振り返ってもらった。

まず、高3になって野球部を引退したことは、自分にとって少し物足りなく、自分のものがなくなってしまう感じがしたそうである。

そして野球部を引退してから、やりたいことがたくさんあったが、新型コロナウイルスの影響で制限されてそれらが出来なくなり、とても残念だったそうである。

そして何より、みんなで取り組む事ができないのがとてもつらいと。例えば応援団のステージも見ているだけなので「自分のパッションのもって行き場がない」と語ってくれた。

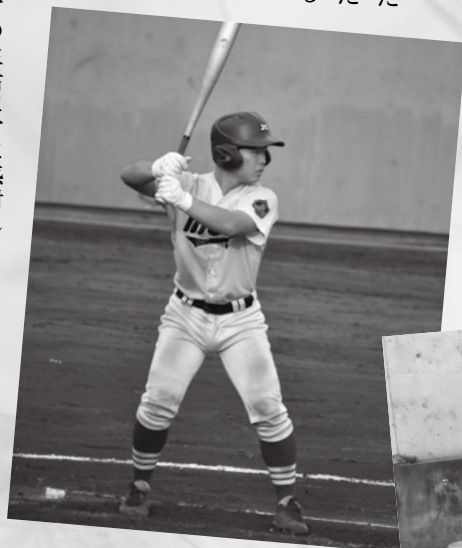
確かに学校生活にて集団で行う行事が、なかなか思うようにできないのは生徒にとってつらいことなのだろう。

しかし、將一郎君が、学校が再開して友達と久し振りに会って「学校の友達と一緒にいることがどれだけ幸せなことだったかを改めて実感した」と思ったそうである。

## 前へ！

普段の生活は、学校で勉強をしたり、友達と遊んだりすることが普通だと思っていた。その当たり前の事も出来ない状況を引き起こした今回の新型コロナウイルスは、私達の生活にとっても大きな害を与えたが、家族のありがたみや、友達との絆を改めて考えさせるいい機会を作ってくれたともいえる。新型コロナウイルスの感染がほぼ無くなって当たり前の日々が戻るかはわからないが、日常の生活に常に感謝しなければいけないと思った。

今年は2学期(12月)の期末で大学の進路が決まるそう



なので、これからラストスパートで勉強に励み希望の学部に入れるように頑張つてほしいものである。

そして、一生の思い出となる卒業式や大学の入学式など、心に刻まれるたくさん行事が無事行われるようにコロナウイルスが終息することを願う。

## 我等に燃ゆる希望あり

明治大学付属明治高等学校・中学校 P.T.A. 会長

原健治

総明会の皆様におかれましては、平素より本校 P.T.A. に多大なご支援とご厚誼を賜り誠にありがとうございます。今年度は、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、我が国でも「緊急事態宣言」が発せられるなど自粛生活を余儀なくされ、本校の P.T.A. 活動も実質2学期からのスタートとなりました。今まで経験したこともない禍に見舞われ、学校、P.T.A. ともその対応に苦心し、様々な対策を講じていますが手探りの運営にならざるを得ず、苦悩の日々が続いています。

こういった制約下においても明校生は、感染予防に十分注意を払いながら勉学に部活動に励んでいます。校内の至る所にも大学のポスター「前へ」が掲示されていて、目標に向かって取り組んでいる生徒の意欲を掻き立てています。周りに流されることなく自分をしっかり持って、やるべきことを見出し、自分の知恵や持っている資源を最大限に使って、困難な状況に打ち勝つ精神力を身につけてもらいたいと願っています。

最悪のコンディションこそ最高のコンディションである。苦境に立たされると人間はあ

り得ない力を発揮し、信じられないことをやり遂げてしまうことがあります。最悪の状態に直面しても決してあきらめることなく、今が一番良い状態なのだと暗示をかけ鼓舞し、不利な状況を打ち破っていくといった最高のパフォーマンスを発揮するチャンスでもあります。野球部は甲子園から遠ざかって久しいですが、1958年夏の東京都大会決勝では、王貞治投手(元読売ジャイアンツ、現福岡ソフトバンクホークス会長)を中心とした早実高を延長戦で4点差をひっくり返して甲子園出場を果たしました。この伝説の試合で見せた先輩方の驚異の精神力は、難局を変化の好機と捉え、新たな局面を切り拓いていく気概であり、今の時代を生き抜くためにも養うべき力であると思います。

今の明校生は外見よりも芯がしっかりとしていて頼もしく感じます。この時世を悲観することなく、充実した学校生活を送っています。時折、母校に足を運んでいただき後輩たちへの叱咤激励と温かいご支援のほどをお願い申し上げます。

結びにあたり、総明会の皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。





**桜なべ『みの家本店』**  
緊急事態宣言の時は時短営業しておりました。アルコール消毒、ソーシャルディスタンス、換気等、気をつけて営業しておりましたがテイクアウトは行ないませんでした。現在も対策は引き続き行っております。只今通常営業しておりますが、働き方改革の為営業時間が今年から変わりました。  
平日12:00～13:50・16:30～20:50、土曜12:00～13:50・16:00～20:50、日祝12:00～20:20、火曜定休(その他臨時休業あり)

**ひとこと**  
ソーシャルディスタンス確保の為、間を空けてご案内しております。席数が少なくなっておりますので、予約していただくと幸いです。その際、総明会とお告げください。

永瀬 守(昭和62年卒)  
東京都江東区森下2-19-9  
<http://www.e-minoya.jp/map/>

## 日本橋『吉野鮎本店』



緊急事態宣言と同時に4月8日から臨時休業し、ゴールデンウィーク明けに5月11日からテイクアウトのみの営業を昼から夕方にかけて再開しました。折詰は以前からやっていたのですが、テイクアウト専用のお品書きを追加した形です。現在も継続して販売しています。6月より営業時間を1時間短縮して、席数も減らしてソーシャルディスタンスを取りながら営業再開しました。現在もソーシャルディスタンスを取りながら営業時間も1時間短縮して営業しています。

**ひとこと**  
このコロナ禍において、皆さま多大な影響を受けている事と思います。当店もしっかりと地に足をつけて頑張っております。今の状況が少しずつでも改善されて少しでも元の世界に戻り近づくことを祈っております。頑張らしましょう!! 吉野 正敏(昭和61年卒)

東京都中央区日本橋3-8-11 政吉ビル 1F  
<http://yoshinozushi.net/>

## 神輿・祭具『南部屋五郎右衛門』

緊急事態宣言時は、4月16日より5月26日までの間、店舗は休業していましたが、インターネットでの販売は通常通り行っていましたので、ネット販売の強化に努めておりました。

また、工場での太鼓や神輿の製作は感染拡大防止の対策を講じながら行っておりました。

現在は、感染拡大防止の対策を講じながら、通常通り営業しております。



**ひとこと**  
過去に経験したことの無い厳しい状況でございますが、これ乗り越えて地域の伝統的な御祭礼や行事が行われ、子供から大人までたくさんの方に笑顔が戻りますようお願いしております。

石渡 浩司(平成2年卒)

台東区元浅草2-10-10  
<https://www.rakuten.co.jp/nanbuya56/>



**ひとこと**  
野菜のごちそうをお楽しみ下さい。  
緊急事態宣言時は、感染拡大防止対策をした上で、ランチは通常営業。ディナーは一日一組限定で20時までの時短営業しました。  
この時期は、ランチのお弁当、夜は炊き込みご飯やおかずのテイクアウトを始めました。現在も販売を継続中です。現在は客席を11名から9名に減らして、通常営業しています。また、ディナーは予約のお客様のみ対応しています。

河原 潤治(平成2年卒)

東京都台東区鳥越1-5-5  
<https://www.minoyavege.com>

## インテリア・家具『三栄の家具』



緊急事態宣言の時は、通常10:00から19:30までの営業時間を短縮して、12:00から18:00までにしました。お客様、店員はマスクを必ず着用、トイレは店員の使用以外閉鎖しました。現在は、営業時間を元に戻した以外は緊急事態宣言下にて行ったことを継続しています。

**ひとこと**  
家具の小売業をしていますが、在宅ワークやリモートワークなどの影響でデスクやデスクチェア又は座椅子の売上が顕著です。更にステイホームによりソファの需要が喚起され、新規購入や買い替えも多くなりました。給付金などの効果で、単価も高く良質な物が売れています。  
原 健治(昭和60年卒)

東京都品川区戸越6-6-6 TEL.03-3784-2654  
<https://sanei-kagu.co.jp>



**帽子製造卸『株式会社東栄』**  
製造卸なので、社内での作業となるためテレワークというわけにはいかず、ほぼ毎日出勤してました。ただ社員には、通勤ラッシュの密を避けさせるべく、夕方の時短は実施しました。百貨店や量販店、直営店が休業となってしまうため、帽子の注文が減ることを想定し、布マスクの生産を始めることにしました。その名も「帽子屋さんの手作りマスク」。職人の仕事を空けないよう、店頭やネットで販売し、多少ではありますが、売り上げの補填とすることができました。現在もバージョンアップしながら生産・販売を続けています。

**ひとこと**  
コロナの影響は、ファッション業界にとってはかなり大きいですが、コロナ禍であるからこそその商売があるはず！前へ！

土田 正昭(昭和61年卒)  
東京都中央区日本橋馬喰町1-3-5  
TEL.03-3664-0810  
<https://www.boushi.or.jp/touei/>



# 特集 前へ！②

## 明鐘会 コロナ奮闘記

平成5年卒 明鐘会 事務局長 伏原徳秋

「高校のOB会の幹事学年になるので、プライベートがいろいろと忙しくなる」会社の同僚と立ち話をする？という反応。同窓会・飲み会の幹事ということイメージする人からすると、当然の反応でした。2018年後半からは、同期の中でも幹事学年そろそろだねという話を持ち上がり、総明会・懇親会にも何名かで出席をし始めていました。そのころは、現在のこの事態をだれも予想しておらず、幹事学年への準備のための同期の結束を酒の肴に、同期との久々の再開を楽しんでおりました。今思えば、先輩方から「つなぐ」たすきを「前へ！」進める活動は、この時から始まっていたのだと思います。

2018年9月、新宿にて同期会という名目の飲み会。いつもの通り、昔の話に花を咲かせ、太った、禿げた、まだ結婚していない、離婚した等々、男子校テイスストの下ネタも交じえ、盛り上がりつつありました。二次会にて、二つ上の学年の明仁会の先輩方が登場！昔話に加え、当時の先輩・後輩話に花が咲き、もはやネタかと思うほど笑ったのを覚えてます。ご存知の通り、明仁会の先輩方は2018年の幹事学年であり、幹事学年というものについてお話も頂戴しました。盛り上がりにお酒の勢いも加わり、その場で横尾君が実行委員長に決まり、ほどこなく校歌の「撞くや時代の暁の鐘」と学生歌「大気にさゆるニコライの鐘に心のかてをとり」の鐘をいただき、「明鐘会」という同期会の名称も決定。こうして（少し早いので息切れしないでね）いつも言われたのですが）私たちの活動が始まりました。2018年後半、2019年の前半、実行委員長の横尾君を中心に、明仁会・快汗・どすこい塾の先輩方の活動を勉強し、来る幹事学年へのイメージを醸成してきました。私自身はと言いますと、

正直まだ、少し他人事だったことを覚えています。

2019年7月、実行委員長の横尾君に誘われ、班クラブOB・OG会へお邪魔する道すがら「事務局長頼むね」「おう、わかった。ところでどんなことするの？」「俺もよくわかってない」という会話があり、これが自分事になった瞬間でした。以降、様々な場面で「事務局長は大変だぞ」と脅かされる日々で、少したじろぎながらも「快汗、どすこい塾」の先輩方の会合にも何度か出席。同年11月の総明会総会・懇親会は、お手伝いをするともに、すべて漏らさず記憶するように努め、我々明鐘会への幹事学年引継ぎも発表されました。以降、明鐘会内の各委員長・副委員長の確定（これが意外と大変）、総明会幹部の皆様への連絡・相談、打ち合わせ場所確保のために仕事の合間を縫って紫紺館にご挨拶等々、年内は本当にあつという間に時間が過ぎてしまいました。この時は、その後コロナウイルスによって世界が変わってしまったとは、知る由もありませんでした。コロナウイルスに関する日本国内で最初の報道は1月31日だったようなので、この時すでに以降の顛末は決まっていたのかもしれない。

2020年は東京オリンピックの年。年初のテレビで盛んに放送されている中、我々明鐘会の活動も主要メンバーが確定し、総会懇親会までのすべての定例会について設定も完了。1月15日に第一回の打ち合わせを開くことができました。このころ、中国にて大変な病気が流行している報道が始めましたがまだ対岸の火事というところ。明鐘会銀行口座の開設、IT環境整備等の事務的な部分に加え、1・2月と進むにつれ、総会懇親会の会場検討、各OB会日程の確認、総明会ゴルフの準備等々、いよいよ具体的になってきておりました。3月に入りWHOがコロナウイルスの蔓延につ



いて「パンデミック」を宣言すると、我々の活動もいよいよ制限を受け始めました。マスクが手に入らなくなり、打ち合わせ場所である紫紺館の利用もできなくなる中、できることから進めるという方針で、寄付広告のお願いに関する分担を決定。各OB会や会合が軒並み中止となっていく中、それぞれの明鐘会メンバーの仕事やプライベートにも影響が出始め、非常に不透明な時期でした。3月29日には我々の世代を幼少期より「8時だヨ！全員集合」他様々な番組で楽しませてくれた志村けんさんの訃報、4月に入つてすぐに政府より緊急事態宣言。当然のことながら、明鐘会メンバーおよび家族の健康、およびそれぞれの仕事上の要対応事項を優先し、明鐘会としての活動は一時休止状態となりました。

6月24日、およそ三か月ぶりに明鐘会定例会をオンラインにて実施、各メンバーの健康と近況を確認すると同時に、総明会全体の活動方針も確認。ほぼすべての会合やイベントが中止となる中、幹事学年としての方針も出す必要が出てきました。様々な意見はありましたが、「何が起ったのか」を後世に残し、「困難な中でもできること」は何かを考え、

実施することが必要という結論で一致。「前へ！」進むこととしました。総明会幹部の皆様には、大変なご心配をいただきました。我々の意見を尊重していただいたことに感謝申し上げます。まだセミの鳴き声が聞こえ始めたばかりの自宅テレワークの合間を縫って、自宅でも意外と仕事は進むものだと思いつつ、本稿を執筆しました。世界中の誰もが経験したことがない環境の中で、経験したことがない幹事学年を行うという、前代未聞の事態となっており、我々は明治高校の卒業生であります。幹事学年としての残りの期間、さらにその先も「前へ！」邁進したいと考えております。



# 特集 前へ！②

## 明鐘会コロナ奮闘記

平成5年卒 明鐘会 式典委員長 山下康彦

### 2019年12月

初旬、総明会懇親会での壇上に上がっての引き継ぎ式の興奮が冷めやらぬまま、我々明鐘会メンバーは「快汗、どすこい塾」の先輩方から時間を割いていただき、手厚い引き継ぎを受けた。終了後、分厚く丁寧な引き継ぎファイルを見ながら、これから始まるんだなと言う実感と二年間気合を入れて頑張るぞ、という想いで幹事学年としてスタートを切った。私の担当の式典は他の役職担当の職務より少し早くスタートする。

引き継いですぐ始めたのは最も大事な日時と場所の決定。これは施設を押さえるという意味でも12月、1月には決定しておかなければならない。

日程・場所の両方が大事なため、どちらか一方では決められない。今回はオリンピックが2020年夏に予定されていたため、ホテルなどの大きな会場の予約がいつも以上に秋にずれ込んでいたようで、日程と場所をうまく抑えるのが困難であった。また2020年11月は三連休もあり、その谷間だと集客が難しいため、候補日程を素早く絞り込む必要があった。場所は前述したように秋にイベントがずれており、仮押さえとして昨年同様ハイアットを予約した。2019年年末に日時に関して再検討依頼を受けたため、そこから急遽、日時、場所の検討に奔走することになった。

### 2020年1月

同期にも手伝ってもらい、都内22の主要なホテル・施設に対しローラー作戦を展開し、日程候補と場所の確保を料金と共に確認した。年末年始を含めての約4週間の調査はまさに時間との戦いであった。この時はまさか懇親会が中

止になるなどと思ってもおらず、全力で候補先を絞り込んでいった。下旬に無事、候補日時・場所について承認を得ることができ、2020年の開催日時・場所が確定した。

### 2020年2月

しばらくは式典としての仕事はひと段落のため、他の仕事を手伝おうかと手を動かしている最中に新型コロナウイルスの世界的大流行の兆しが見え始め、日本ではクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号で大流行が発生。我々明鐘会は中止になるとは考えず肅々と2回の打ち合わせで色々な準備を進めていった。ただ、2月下旬の安倍首相の判断で社会情勢が一変した。

### 2020年3月

安倍首相の判断で日本全国の学校が全て休校になった。その余波はもちろん我々明鐘会にもあり、密になるといふことで紫紺館を借りることが急遽出来なくなった。そのため、我々はリモートミーティングの世界へ一気に流れていった。そしてこの月も平常時と変わらず2回の打ち合わせを実施し、今後どうなるのか不測の事態に備えて少しずつ準備を始めていった。

### 2020年4月

緊急事態宣言が発令され社会活動がストップした。マスクや生活必需品が品薄になり、生活はこのままで大丈夫かという状況であった。もちろん明鐘会が手伝うはずであったチャリティゴルフコンペが中止になり、週末に実施されていた数々のOB懇親会が中止になった。社会がどうなるのか予断をゆるさない状況で、我々の定例会も一旦ストップとなった。

### 2020年5月

5月上旬、緊急事態宣言は延長され、様子を見ることに。日本人の努力の結果、感染者はかなり減ってきた。そして

5月下旬、日本での緊急事態宣言は解除された。

### 2020年6月

第2波の懸念が世界では広がって来ており、そして秋、冬にはさらに被害が拡大するのではという予測も出ていた。ワクチンのテストは急速に進んでいたが、将来に対しては読めない状況であった。そのため、今年の懇親会の開催中止が決定された。

### 2020年7月

都知事選は小池都知事の圧勝で終わり、都内の感染者数は100名以上の状態が続いている。東京デイズニリーゾーでも営業再開し、プロ野球、Jリーグも観客を入れてスタートをした。私もこの月より式典委員長改め、就活副委員長として新たな責務を担うことになった。

### 新型コロナの状況はしばらく続く。

我々幹事学年はこの状況に打ち勝つため一丸となって進んでいく。





# 特集 前へ！②

## 明鐘会コロナ奮闘記

平成5年卒 寄付広告委員長 和田康正

寄付広告委員長の役目をいただきましたが、昨年末から3月迄は仕事が忙しく準備や打ち合わせにもあまり参加出来ませんでした。殆どの作業を学年幹事の皆さんに助けてもらい、名簿の精査、担当の振り分けなど実際の活動にこれから入ろうとしていた矢先、コロナ禍により総明会の様々な活動が中止・延期と急ブレーキがかかってしまいました。とりあえずZoomでの会議などを続けて来ましたがコロナの終息も先が見えず、折角の幹事学年の役割も全う出来ず少々残念な感じになってしまいました。本来なら総明会の皆様への寄付広告の依頼電話、訪問で様々な出会い、再会、発見等面白い事が沢山あったはずの幹事学年としての活動がこのような形で過ぎて行ってしまう寂しさを感じました。しかしながらコロナ前の準備期間で多くの飲み会やゴルフに楽しく参加できたのはよい経験でした。

総明会へは懇親会、チャリティーゴルフに数年前から参加させて頂いていたので、なんとなく雰囲気はわかっていたつもりでしたが、いざ幹事学年になってみると歴代の先輩方が物凄い労力を使い運営していたことがわかり、この活動の大切さ・大変さを感じました。とにかく規模の大きさには改めて驚きました。今まではなんとなく参加してただけで、参加人数が結構いるのは感じていましたが、この参加者数での運営のためには膨大で大変な作業が裏に潜んでいることを改めて感じました。普段は自身の会社関係の組合や様々な会の運営に関わっていますが、このような同窓会の運営方法を多少なりとも見られた事は非常に勉強になり、今後の自身の活動にとって良い刺激を受けました。

高校卒業から27年も経ち大多数とは連絡も取っておらず、会って話をしたり飲んだりする事ありませんでした。数人とはちよくちよく会い、たまに飲んだりゴルフに行ったりしていましたが、ある程度の人数が集まると年一回あるか無いかの飲み会位だったものの、この機会に同期との接



点が格段に増え、20年ぶりに会えたのは総明会幹事学年というイベントがあったからこそだと思います。同級生が集まり、昔話をしているとすっかり忘れていた男子校特有のバカトーク、おっさんになっても変わらないのは嬉しいやら悲しいやら、昔思っていた46歳という大人には到底たどり着いていないのですが、まあ良いかと。我々の学年はコロナにより殆どの活動が中止、規模縮小になってしまいました。来年はコロナが終息してしっかりとした総明会の活動ができる様になっていれれば良いと祈念します。我々は燃えかすにもなれず、不完全燃焼という感じになってしまいましたので、次回の幹事学年「隆明会」には期待しています！





# 特集 前へ！②

## 明鐘会コロナ奮闘記

平成5年卒 明鐘会ゴルフ副委員長 南谷吉貴

この度、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹患された方々には、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。

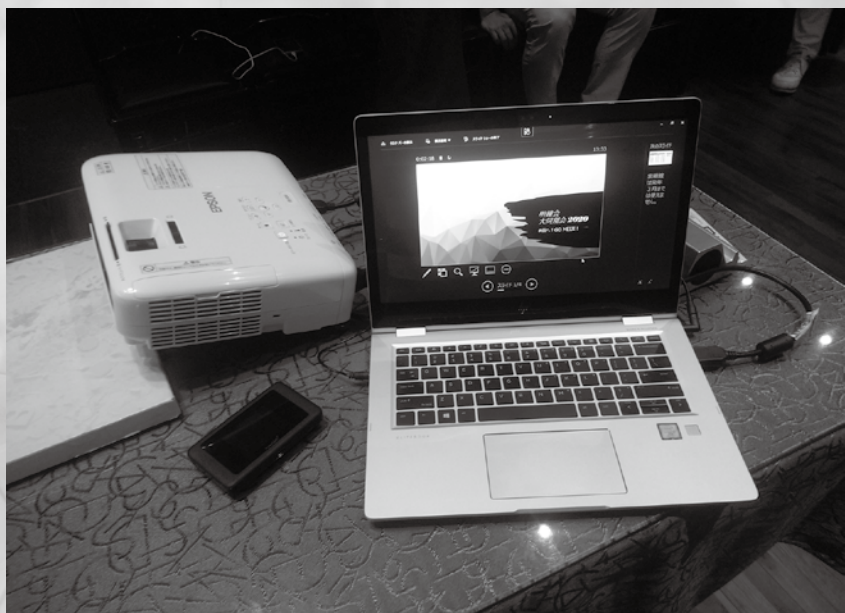
毎年恒例となっております「総明会チャリティーゴルフ大会」ですが、今年度はサンヒルズカントリークラブ(栃木県宇都宮市、GRAND PGN)にて2020年4月18日(土)開催を、当初は予定しておりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、一旦2020年の秋季(10月頃)に開催するべく調整しておりましたが、100名を超える大型ゴルフコンペを開催する事による参加者及び関係者の健康・安全面を第一に考慮した結果、今年度の開

催は中止と判断する事になりました。

例年通り、企画委員会ゴルフ担当委員は昨年末より活動しておりました。12月8日(日)、第1回下見プレー(サンヒルズカントリークラブ)を行い、会場及びコース視察ならびに打合せを致しました。1月21日(火)第1回委員会会合(紫紺館)では、案内用はがきに宛名シールを貼り、各賞・参加賞を検討致しました。打合せ後は諸先輩方と懇親会へ、1軒目は御茶ノ水、2軒目は湯島に移動し2時まで深い親睦を深める事ができました。40歳半ばにも拘らず1軒目も2軒目も諸先輩方にご馳走になり、改めて総明会の先輩後輩の絆の強さを感じる事が出来ました。2月18日(火)第2回会合(紫紺館)では、出席者確認、参加賞発注、その他詳細確認を行ない、その後懇親会へ。3月12日(木)には第2回下見プレー(サンヒルズカントリークラブ)を行ない、会場・コース視察及び打合せ(ドラコン・ニアピンの決定、コテージ下見)を致しました。当日車でゴルフ場に向かう所としたところ、バッテリーが上がっており新幹線に向かう事になるというトラブルにも見舞われましたが、その結果、下見終了後も先輩の車で都内に戻り懇親会へ移行、1軒目・2軒目とご馳走になり、タクシにて帰宅する事となりました。

「総明会チャリティーゴルフ大会」の準備にあたり、総明会の先輩後輩の絆の強さを再確認するとともに、諸先輩方と接する事ができ、これからの人生に於いて財産となりました。

新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息する事を願い、また来年度無事開催される事を願っております。





# 特集 前へ！②

## 明鐘会コロナ奮闘記

平成5年卒 明鐘会 会報委員長 小岩井賢一

幹事学年である明鐘会会報委員会では、総明会会員の皆様に会報誌をお届けすべく、昨年の秋頃から準備を始めてきました。紫紺祭や吹奏楽班、マンドリン部の定期演奏会、応援指導班の「紫紺の下に」でも取材をさせていただき、後輩達の頑張る姿を見ました。

そして、年が明けて2月から総明会広報委員会の先輩方と会合を開き、テーマである「前へー Go Meiji !」のプレゼンや年間スケジュールの決定等、先輩方に教えていただきながら、発行に向けて準備を進めてきました。

その後、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、職場においてはテレワークの推進、学校においては臨時休校など、新しい生活様式での日々が始まることとなりました。まだ見ぬウイルスへの脅威やその影響を受けた経済活動、子供達の学校生活等、様々な困難に直面することとなりました。



総明会においても、各委員会の活動が制限され、懇親会の中止、ゴルフコンペの中止、明朗会の中止等、いろいろな影響がありました。各委員会の会合も紫紺館の閉鎖により、Zoom等でのネット開催になり、会合後の先輩方との楽しい飲み会もできませんでした。Zoomでの会議も初めてで、アプリのダウンロードやログインの方法、資料の画面での共有の仕方等、わからないことだらけでした。時には厳しい叱咤激励をいただくこともありましたが、気が付けば会合も回数を重ね、そのおかげで今では最先端のテレワークができるようになりました(笑)。つたない資料と準備でネット会議にてご指導いただいた先輩方に感謝しています。

また、普段でしたら私たち幹事学年が先輩方のお店等に伺い、おいしいお酒などを飲みながら、思い出話や苦労話など、いろいろなお話を伺えたのですが、それも叶えることができませんでした。

広報委員会でも学校への取材は自粛となり、後輩達を応援すべく取材をしたかったのですが、それもできませんでした。そんな中でも幹事学年として、明治高校卒業後、東京藝術大学に進学した同期の男澤友泰君の音楽活動での奮闘記を特集としてお伝えさせていただきました。先輩方の後を追うべく、後輩の範たるべく「前へ！」進んできた経験を皆さんにお届けできたことと思います。あわせて、幹事学年が総明会実行委員として奮闘した姿を明鐘会コロナ奮闘記として特集させていただきました。

7月には評議員の方々に本会報への寄稿依頼を送付させていただきました。早々にご寄稿をいただきました。新型コロナウイルス感染症の関係で同期会もなかなか開催できない中、今年のテーマである「前へー Go Meiji !」を主題にお寄せいただいた原稿も多く、幹事学年としてとてもうれしく思っています。

新型コロナウイルス感染症流行後の新しい世界を、総明会会員全体で「前へー」そして、「明治らしく」進んでいくため、本会報が総明会会員の皆様の絆を深くし、新たな時代に向かって羽ばたくための一助になれば幸いです。

また、後に続く後輩達には「前」を向いて新しい時代を切り拓いてほしいと願っています。

最後に委員会でのご指導や会報にご寄稿をいただく等、ご協力いただいた総明会会員の皆様と、ご理解ご協力をいただいた明治高等学校・中学校の教職員、生徒、保護者の皆様に心から感謝申し上げます。

共に新しい時代に向かって「前へー Go Meiji !」





# 2020年 学校報告

## SCHOOL REPORT 2020

# M

### 紫紺祭

令和元年9月28日～29日

平成5年卒  
文 横尾 克久

2019年9月28日(土)・29日(日)の2日間にわたり、令和になって最初の紫紺祭が開催されました。

私は同期の友人と、その小学生の息子さんと3人でお邪魔させていただきました。

テーマ「Restart」平成から令和へ繋げ紫紺魂」。各学年、部活、団体の特色を活かした企画、展示が行われており、私達の年代でも馴染みのある、お化け屋敷、応援指導班による応援紹介等、ステージ発表や模擬店など、2日間を通して多くの催し物がありました。

地学部では断層の年代あてクイズ、とりわけプラタモリをみているような感じでした。スキー部では雪山食品と称されたシャーベットをいただき、9月末とはいえ、とても蒸し暑く、その冷たさが大変心地よかったです。

多くの班部で夏合宿の成果を展示していましたが、展示内容はもとより、全国各地に足を伸ばしている事に感心いたしますか、うらやましさを感じたものです。(自分たちの頃の合宿は近場ばかり...)

クライマックスは応援紹介で、第一体育館で見学させていただきましたが、こちらは今も昔も変わらない紫紺祭のメインイベントでした。紙テープと大歓声が舞い、汗臭さ(男子)より華やかさ(女子)が際立つ中、ホール全体で応援歌、校歌を歌わせていただきました。

私自身20数年ぶりの紫紺祭だったため、広大な人工芝グラウンド、明るく美しい教室校舎、何よりも女子生徒に対し、猿楽町の軍艦

鳥遺構のような校舎に通っていた時代とのギャップがあまりにも大きく、母校の文化祭に戻って来たという実感を最初は持てませんでした。しかし生徒がゲストを心からもてなし、生徒同士が紫紺祭を心から楽しもうとしている姿勢に、時代は移ろえど、令和の今でも紫紺魂はしっかりと健在であることに安心し、またどこか懐かしい気持ちになりました。

また調布校舎の紫紺祭に行かれていない卒業生の皆様、是非ご来訪をおすすめします。





# M 吹奏楽班

## 第61回定期演奏会

令和2年1月26日

 平成5年卒  
文白戸 大介

2020年1月26日、昭和女子大学人見記念講堂にて、第61回定期演奏会が開催されました。

お忙しい中、たいへん多くの方に「来場いただき、まことにありがとうございます」とありがとうございました。

第一部の「ザ・サウンド・オブ・ミュージック・セレクション」に始まり、第二部の賑やかなボツプス・ステージ、第三部の「GR シンフォニック・セレクション」まで、まとまりのある、とても素晴らしい演奏でした。

私自身が吹奏楽で学べた事は、まさにこの「まとまり」の部分でした。周りを見る力、周りと力を合わせる重要性など、卒業して数年経ちますが、今でも役に立っている部分があると感じております。

演奏会の最後には、顧問の鈴木正人先生から卒業生二人一人にメッセージが贈られました。が、号泣しながら抱擁するシーンには、皆がもれなくもらい泣きしてしまふほどの感動に満ち溢れておりました。

卒業生たちは長く厳しかった部活動生活の最後を迎え新たな世界へと旅立ち、在校生たちはひとつずつそれぞれの階段を上って役割や



責任が増えて行く、そんな日がこの定期演奏会だと思えます。

そして来期に向け、生徒たちそれぞれが「前へ」と進んで行く…そんな明るい未来しか想像できなかったところに、突如其に掛かっていたのがコロナウィルスでした。

定期演奏会後の3月下旬に計画されていた、2015年以来のウイーン演奏旅行は中止になり、臨時休校による部活動自体の休止、夏のコンクール開催中止など、今年度は例年になくハードラックに見舞われております。

それでも現役生たちは音楽を愛し、仲間を愛し、明治を愛し、どんなに厳しい障害をも乗り越えるべく、日々努力し、成長し続けております。

OBOGの皆様におかれましては、このような時代だからこそ、これまで以上にご支援賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

また、いつも吹奏楽班の活動を支えてくださっている保護者の皆様、関係者の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

# M マンドリン部

## 第61回定期演奏会

令和2年1月26日

 平成5年卒  
文男澤 友泰

2020年1月26日(日)、調布市文化会館たづくり「くすのきホール」にて、第61回定期演奏会が開催されました。現在、音楽を仕事にしている私ですが、高校時代に紫紺祭でのマンドリン部の演奏をピアノでお手伝いしたこともあり、今はどんな感じなのかとても楽しみにうかがいました。

マンドリン部は私が学生の頃はかなりの大所帯でしたが、現在部員数は少なく、男子部員は1名のみ。昔は当然男子のみでしたので少し寂しく感じてしまいました。でも女子生徒が多いのも華やかで繊細さを持ち合わせてまた違った良さがあります。

まずは校歌の演奏。第一部は全て指揮なしの形式。全体演奏、中学生演奏と進み、最後の高皿演奏では、部長がソロを務めるマンドリン協奏曲。堂々とした演奏に驚かされ、マンドリンとギターのソロの対話の上手さに更に驚かされました。心地よく、レベルの高い演奏でした。



第二部は全体演奏。組曲のみ明治高校OBで音楽監督の久保田孝先生が指揮をされました。久保田先生のご指導があるからこそマンドリン部はレベルの高い演奏ができるようになるのだと納得できました。そして、その指導を受けた先輩から後輩へ、伝統と技術が受け継がれているのだと確信しました。

全体を通して音の粒がきれいに揃い、互いを聴くことで互いの音楽を理解し、それが合わさって部の目標「人に感銘を与える演奏をする」に繋がっていく。部員はそれを味わっているのだと感じました。その経験は、社会にでてからも実はとても役にたつスキルを形成する基になり得ると私は思います。これからも感銘を与える演奏をしていって欲しいと心から願っております。

少しでも気になっている学生は、ぜひ入部してチャレンジしてほしいです。やりだすとハマってしまう楽しさがそこにはあると思います。



# M 応援団

## 第10回紫紺の下に

令和2年2月16日

平成6年卒  
文三谷 知弘

2020年2月16日(日)、応援団後輩の晴れ舞台「第10回紫紺の下に」を観にいきました。恩師山田伸夫大先生と調布駅で待ち合わせをし、いつもの高級中華料理店で昼食をいただいた後、いざ我等が母校へ！と足を運びました。晴れ舞台を迎える後輩に、「頑張れよ」と心の中で静かにエールを送りつつ、開演を迎えます。

第1部は吹奏楽班によるポップステージ。応援団にとって、頼もしく、感謝ばかりのパートナーである彼等彼女等の演奏は、晴れ舞台のオープニングを飾るにふさわしい演奏で、統率の取れた素晴らしい音色でした。

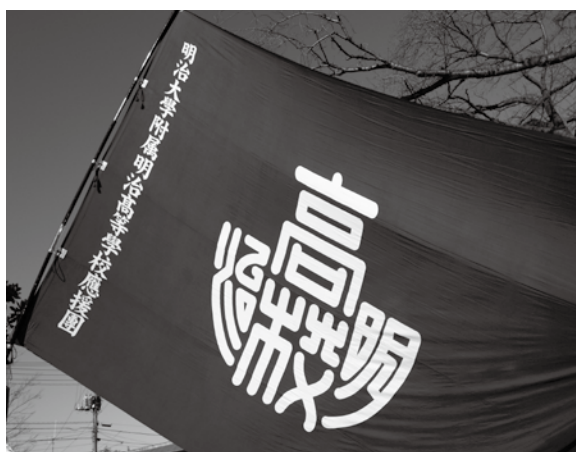
そして、いよいよ応援団後輩の登場です。まずは第2部チャアリーデイング部。中学1年生から高校3年生による華やかなステージです。チャアリーデイング部が発足してから早13年。先輩からのバトンを引き継ぎ、伝統の糸を紡ぎ出してくれていることに感謝と頼もしさを感じました。また、ステージを見に来てくれた生徒の皆さんから逆にエールをもらっている姿を見ると、生徒たちに愛されているんだなあ嬉しくなりました。

さあ、第3部校歌応援歌紹介！リーダー部は、残念ながらこの「紫紺の下に」をもつて0名となってしまうという、非常に寂しく切ない状況でありました。しかしながら、力強い

リーダーは健在で、母校明治を我が全身に感じることができ、一日でも早く新しいリーダー部員が入党してくれることを願わずにはいられませんでした。

最後になりましたが、団長の増田君をはじめとした第73代幹部の皆さん、応援団として立派に活躍いただきありがとうございます。これからは、自分たちを育ててくれた母校と応援団への感謝と誇りをもつて、一緒にOB・OGとして楽しくやっていますように！

母校と先生、先輩方への感謝と後輩の頼もしさ、懐かしさを胸に、帰り道は山田先生と一杯。



# M 東日本大震災被災地支援

## 8回目の訪問

令和2年1月11日～13日

被災地支援事業委員長  
文石黒 祥樹

年が明けて間もない1月11日(土)～13日(月)、創立100周年記念事業・東日本大震災被災地支援事業を行いました。生徒39名、教員6名、PTA会長が参加し、宮城県石巻市・女川町を訪ねました。現地の小学生のサッカー大会運営、復興住宅集会所での交流、門脇小学校跡見学、大川小学校での慰霊、石巻日日新聞社訪問を行いました。

この事業は今年で8回目になります。初めて現地を訪れた時には多くの更地、瓦礫や車の山だけだった場所が今では新しい建物が建ち並び、復興が着実に進んでいることを感じる事ができます。サッカー大会でも、最初の年はベンチに遺影が飾られている中、外国からの支援物資のユニフォームを身に着けていたチームもありましたが、今では東京の子供たちと変わらない笑顔と熱気で溢れています。その一方、被災地を見学する中で現地の方々是我々に対して震災当時の様子を毎回丁寧に説明してくださいます。そして口を揃えておっしゃるのは、「我々の経験を無駄にしないで皆さんに引き継いでほしい」という強い思いです。大川小学校では津波で娘さんを亡くした遺族の方から直接お話を伺い、泣き出す生徒も多くいました。生徒たちは普段調布の校舎では学ぶことのできない貴重な経験を行うことができました。

現地で見聞きしたことを多くの方に伝える責任について、これからも生徒と共に考えていきたいと思っています。この事業を行うにあたり総明会から多くの寄付をいただいております。いただいた寄付は現地の方々のために活用させていただきました。末筆ではありますが、この場をお借りして感謝申し上げます。





# M

## 新任先生紹介

すがさわ ゆうだい  
菅澤 雄大 先生



### ●ご氏名・略歴

- ①ご氏名 菅澤 雄大 先生
- ②生年月日 1987年(昭和62年)1月11日
- ③出身地 東京都 ④出身校・学部 明治高校→明治大学文学部史学地理学科地理学専攻
- ⑤前職 岩倉高等学校 教諭
- ⑥担当教科 社会科
- ⑦担当クラブ活動 高校山岳部、女子硬式テニス部

### ●明治中学・高校に赴任しての印象

学校がとても大きいです。(毎日1万歩以上歩いていい運動になっています。)学習に班部活動に一生懸命に取り組む生徒が多いです。

### ●生徒たちに期待すること

「故きを温ねて新しきを知る」学習をつづけて、新しい何かをつくりだしてください。

### ●自身の抱負

コロナに負けずに、たくさん学んで、体験して、人とのつながりを大切にして、充実した学校生活を生徒たちが送れるようにします。

### ●自己紹介

明治高校・中学校の卒業生の菅澤雄大と申します。母校で後輩たちとともに学ぶことができてとても嬉しく思っています。精一杯がんばりますので、よろしくお願い致します。

つるべ ともひろ  
釣部 智丈 先生



### ●ご氏名・略歴

- ①ご氏名 釣部 智丈 先生
- ②生年月日 1998年(平成10年)3月13日 ③出身地 東京都
- ④出身校・学部 芝高等学校→慶應義塾大学理工学部数理学科
- ⑤前職 学生 ⑥担当教科 数学
- ⑦担当クラブ活動 スキー部、男子硬式テニス部

### ●明治中学・高校に赴任しての印象

初めての勤め先ということもあり、自分の学生時代との比較になつてしましますが、ON・OFFの切り替えが上手いと感じています。授業内外問わず積極的に物事に取り組む生徒も多く、私自身助かっていることも多いです。

### ●生徒たちに期待すること

「なぜ？」を大切にできるようになって欲しいと思います。特に数学は解法を暗記することに努力の方向を向けてしまうと身につかない科目だと私は考えています。疑問に感じたことをそのままにせず、一つ一つ解消していけるように普段から取り組みで欲しいです。

### ●自身の抱負

教員として一年目ですので、生徒との向き合い方、授業スタイル等、確立していく所からはじめていきたいと思っています。生徒と年齢が近いという点も活かし、生徒から見えて話しやすい、接しやすい教員をまずは目指していこうと考えています。

下段に続く

### ●自己紹介

昨年、大学を卒業したばかりで、社会人としても一年目なので、未熟な点も多いかと思っています。私自身もこの明治中学・高等学校で成長していけるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

わだ やすのぶ

和田 康喜 先生



### ●ご氏名・略歴

- ①ご氏名 和田 康喜 先生
- ②生年月日 1979年(昭和54年)2月21日 ③出身地 東京都
- ④出身校・学部 明治高校→明治大学文学部史学地理学科地理学専攻
- ⑤前職 暁星中学高等学校 教諭
- ⑥担当教科 社会科
- ⑦担当クラブ活動 鉄道研究部、地理研究部、硬式テニス部

### ●明治中学・高校に赴任しての印象

浦島太郎の気持ちがよく分かりました。大変真面目な生徒が多い印象です。

### ●生徒たちに期待すること

大志を抱いてください。

### ●自身の抱負

背中を見せて成長させられるような教師になるべく励んで参ります。

### ●自己紹介

授業、クラブ活動、学校行事など様々な場面で生徒の成長をサポートしていけたらと考えております。





令和2年3月18日、調布市の明治高校において、栗野先生の退任インタビューを行いました。担当は明鐘会の会報委員の小岩井、篠崎と歴史研究部OBの高木(征)の3名でした。

明治高校の校長室に案内され、栗野先生が顧問をされていた歴史研究部OBの高木(征)から退任祝いの花束をお渡しし、インタビューが始まりました。先生から総明会にメッセージをいただきましたので、以下にご紹介します。

―着任された当時の思い出についてお聞かせください―

教員生活を始めたのは別の学校でした。明治高校に就職するまでに1年間、女子高で講師を勤めていました。明治高校に就職したのはその年の紫紺祭にOBとし

て訪問した際、明治高校事務職員の方に社会科学教師の採用があると聞きました。その足で職員室を訪ねて、中野先生や坂先生と話をし、ご許可を得て明治高校の採用試験を受験しました。あの時に紫紺祭を訪問していなければ、採用のことも知らなかったの

で明治高校の先生になっていなかったと思います。そのまま女子高の先生になっていたかもしれない(笑)。明治高校に来たのはご縁があったのだと思います。母校に勤められて名譽なことだし、初めて見るとまわりが恩師だらけでした(笑)。卒業生の先生として新井先生や田村(晴)先生、田中(徹)先生がいらしたので助かりました。

―記憶に残る卒業生との思い出を教えてください―

多分、教えた生徒は何千人にもなっていると思います。会うと教え子とわかるが、学年は区別がつかない感じです。足掛け40年間教員生活を勤めて、3分の1が担任、3分の1が学年主任、残りの3分の1が管理職をしていました。その時代、時代で生徒

との距離が違っているので、生徒の印象も違うのだと思います。逆に面白いことに生徒からの印象もそれぞれ違うようです。記憶に残る卒業生は山ほどいるのでお一人お一人の名前は挙げられませんが、非常に印象に残っていて、今でも卒業生のことは忘れられません。

―部活動の顧問としての思い出も多かと思えます―

明治高校に勤めた1年目に歴史研究部の副顧問に就任し、翌年から一昨年交代するまで30数年間、歴史研究部の顧問をしていました。やはり、歴史研究部の部員との絆は深いと思います。

OBとよく話をするのは合宿の話で、ひどい目にあつた話が多いですね。真夏に見学をよくしていたので、巡検している部員のTシャツの背中に塩がふくこともありました。本当によく歩きました。部員も10数名から70名くらいと大所帯の時期もあり、合宿も貸切バスを使っていました。文化祭は大事なイベントで、顧問になってから新しいルールを作って、1年間共通のテーマで研究すること、テーマに関係ある所に合宿に行くこと、文化祭はテーマについて発表することとしました。それでずっと活動が続けることができ、創部70周年を迎えることができました。歴史研究部の生徒は良い子が多くて、手を焼いたことがなく、嫌な思い出は一つもありません。合宿では昔はよく節約のため帰りなどに夜行列車を使っていました。京都の帰りもほとんど急行銀河という夜行列車を使っ

ていました。京都も昔の駅の頃で、駅前でよく星空ミーティングと名前を付けて、夜行列車が発するまでミーティングをしていました。懐かしい思い出です。

その後、共学になっても変わらない雰囲気でした。共学になってから7年間女子が入らず、今年、中1で入部した生徒が高三で卒業しました。今は男女比は半々くらいです。学校全体の雰囲気はソフトになったように思います。女子生徒は積極的なところや元気なところがいいですね。

―明治高校・中学校は猿楽町から調布に移転して来ましたが、変化した事などはありますでしょうか―

運動部で言えば、猿楽町時代は他の学校に行つて練習試合をしていたのですが、今は施設がいいので、他校が明治高校へ





来て行くことが多くなりました。いろいろな大会の会場にもなっています。

お茶の水というのは、学校は狭くて古かったものの、街全体が文化的な街でした。世界で一番の本屋街が図書館ともなり、ちょっと時間があれば授業中に博物館にも行きました。それがお茶の水の持っていたメリットだったと思います。

調布はスクールの生徒が多いので、地元との繋がりが少なくなってしまうています。地元との繋がりは大切なので、これから育ててほしいと思います。今は地元



の子供にサッカー教室を開催したり、マンドリン部、吹奏楽班が調布の施設で定期演奏会を開催しています。今年の中2対象で職場体験を調布市に協力してもらい近隣の会社等で実施しました。調布が生徒にとって第2のふるさとになってくれるといいと思います。

― 幹事学年のテーマは「前へ！ GO Meiji」となっているのですが、このテーマについて、同窓生に一言お願いいたします―

中高の建学の精神が「質実剛健」、「独立自治」、大学は「権利自由」、「独立自治」ですが、これからずっと掲げていきたいと思っています。一方で「前へ！」という言葉が、今、明治のイメージを良くしていると思います。ラグビー部の北島監督がおっしゃった言葉と聞いていますが、建学の精神以上に有名になっています。すごく、明治らしさも出ていい言葉だと思います。この言葉をテーマに選ばれた今年の幹事学年の明鐘会の皆様には大変期待しています。明治らしさと言っても、年代も違いは考え方も違うわけですが、明治と聞いた時にお互いにわかりあえるということ、同じ学校で学んだ同窓生であると思っています。その絆を繋げているのが総明会であると思います。地道だけれど活躍している、社会を支えている等、自分たちの仲間に目をむけてもいいのではないのでしょうか。そんな同窓生がいることは私たちの誇りであると思います。

― 先生にとって明治高校とはどのような存在でしたか―

1968年に明治中学校に入学し、今に至るまで足掛け52年明治にいます。創立107年なので、その半分位明治にすることにになります。入学した時には、それほど長くここで過ごすことになるとは思いませんでした。私という人間を育ててくれたのは、まさに両親と明治中学高校です。1960、70年代の明治高校は母校であり、1981年以降は勤務校となります。生徒は、先生であると同時に先輩であることを知っていてくれるので、親近感を持っていてくれたことが幸運なことであつたと思います。卒業生として母校の教壇に立てたことは私の人生にとっては誇りであり、良かったです。

― 先生から総明会会員にメッセージをお願いいたします―

総明会の会員の皆様には本当にお世話になりました。心から感謝しています。在学中、生徒会本部だったので、大学生の頃から総明会のお手伝いをしていました。教員になってからも10数年間総明会の担当でした。その時に、総明会を運営している先輩方と知り合いになりました。その中で、明治とはこういう学校、明治らしさを改めて学ばせてもらいました。それを授業の中で生徒たちに伝えたいと思ってきました。そういう点で総明会の方とずっと関れたことに感謝しております。

現役の生徒にもお伝えするとすれば、



今、この学校に在籍している生徒は22世紀が見られる人たちであると思っています。22世紀がどんな時代か想像すると、きっと今よりも便利になっているでしょう。でも便利なだけでなく、22世紀は今よりも幸せな世界であってほしいと思います。明治の生徒たちには22世紀を幸せな社会にする、そういう役割を期待しています。そのためしっかりと学習し、仲間をたくさん作ってほしい。元気に活躍できるように健康でいられるように体も鍛えてほしい。今、明治中学高校で過ごしている時間を、そのための土台作りしてほしいと思っています。



# M 松田孝志先生ご退任インタビュー



令和2年3月6日、東久留米市のみち

わ寿司において、平成3年卒明仁会主催の松田先生の退任お祝い会が開催されました。

めぐちゃんこと、奥様も同席され、久しぶりの再会に明仁会からの近況報告や高校時代の写真を見ながらの思い出話など、和やかな空気でお祝い会が始まりました。

先生からは試験での論文などを通じて、受験勉強ではない、物事を考えることや本質や客観性とは何かについて教えていただいたことや、熱血先生として常に生徒の立場に立っていてくれたなどの昔話に花が咲きました。

また、先生が中学入試で明治中学を受験した際に、校庭で整列中に松枝先生から怒られて衝撃を受けた上、面接で面接官の丸山先生からべらんめえ調の受け答

えに説教を食らい衝撃を受けた。そして、明大中野中学に進学し、その後、リベンジとして明治高校の教員採用試験を受験され、面接官だった桜井先生に「採用しないと学校にとって大きな損失になる」と訴え、無事採用されたといった武勇伝も聞かせていた

先生を囲んでおいしい寿司をいただきながら、あつという間に楽しい時間は過ぎ、先生からお礼のご挨拶をいただき、最後は校歌を歌ってお開きとなりました。先生から総明会にメッセージをいただきましたので、以下にご紹介します。

## ―着任された当時の思い出についてお聞かせください―

明大中野中高という分家の若輩が、伝統と矜持が息づく本家に殴り込んだ気分であった。そこは一騎当千の戦国武将のような教師の群れであった。それぞれ個性豊かで、スタイルは異なるが、聖職の碑、ならぬ生徒・同僚との飾らぬ真剣な関わりが繰り返られていた。味噌ツカスから這い上がろうと、空き時間には先輩

教師の授業を廊下で盗み聴いたり、生徒のノートを見せてもらった。松枝先生が強く叱った生徒に対して、そのあと事務室前の衝立の向こうで諄々と論じている様子に見入っていた。古株の先生には夜の教員室で、豪快に酒盛りして教育観を聴かせていただいた。何人かの先輩の背中を見て、自分を磨いていたような気がしている。

## ―記憶に残る卒業生との思い出を教えてください―

時に人間サンドバックになったような、時に本気で拳を交えるスパーリングをしていた気がする。お客様とサービス提供者みたいな今と違って、本音と本音の関わりがあった。クラスの班ノートに赤い太字のマジックで「松田、死ぬ！」と書かれたことがあった。それほどまでに彼は怒りを目の前にいる私に投影させていたのかと心が沈んだが、その後、班のメンバーだけでなく他のクラスの者が、彼や私に対して硬軟取り混ぜたメッセージを書き込んでくれた。また中学3年の修学旅行で、脱毛ムースを頭に塗られた生徒に対して、慰める言葉もなくて「一緒に伸ばそう」と頭を剃って励ましたこともあった。

## ―部活動の顧問としての思い出も多いかと思います―

アキレス腱を断裂した小田島先生に我孫子の病室に呼ばれ、「明日から新聞班を任せる」と突然告知されたのが始まりであった。今は税務署員、大衆料亭の主人

となっている当時幹部班員であった生徒からは「新聞班は自主独立、流れ始まり流れ解散がモットーなので、編集会議には出ないでください。ただ責任を取ってもらえればよいです。」なんだか悔しくて、当時名古屋の女性と遠距離恋愛をしていても素寒貧だったため、あまりに腹が減ったので、班室のチームで温められていた3〜4人の班員の弁当を半分ずつ食べてしまったこともあった。まあ、その後色々なことがあって3回ほど責任を取って顧問をクビになったが、なり手がいなかったので35年くらい務めることになった。

## ―明治高校・中学校は猿楽町から調布に移転して来ましたが、変化した事などはありますか―

都落ち…いや、言わぬが華でしょう。







「幹事学年のテーマは「前へ!」の Meiji」としているのですが、このテーマについて、同窓生に一言お願いいたしますー  
掛け声がこもっているのか? 昨今、上辺だけの言葉や見てくれだけの行動、例えば「よい学校と褒められるために挨拶しよう」なんてチャンチャラおかしい。異論反論はあるだろうが、私のイメージする明大明治は、一癖も二癖もある個人商店で成り立っている商店街のようなものである。大手デパート・スーパーマーケット・コンビニ・ファストフードチェーンに圧されてシャッター通りになるか、確実にお得意さんがいて魅力ある場所になるか、それは分からない。没個性で、目先の利益を追って、社会に迎合してスクール・アイデ



ンティティを捨て去るのか。それとも、自分の子どもをこの学校で学ばせたい、こういう先生たちのいる学校で育ってほしい、こういう価値観を共有した場で過ごさせたいと卒業生が思える学校であるのか。もちろん「不易流行」、社会・時代に合わせ変化・対応することは必要であるけれど、本質的なことをしっかりと大切にすること。明治は、「上意下達、右へ倣え、寄らば大樹の陰」ではなく、転んでもただでは起きない気概を持つ教師たちと、単なる良い子のお客様ではない生徒との関わりの中で、理想の旗を掲げ、正義の鐘を鳴らすのだと信じた。



「先生にとって明治高校とはどのような存在でしたかー  
教師として、何より人間として鍛えられたと思っています。自分は「何に拠って立っているのか」「何のためにここで教師をしているのか」「この組織の中で自分の持ち味を発揮するにはどうしたよいか」先輩・同僚・後輩教師、そして生徒や卒業生から小突かれながら七転八倒していた気がします。今は、身も心も力尽きた感があります。



「先生から総明会会員にメッセージをお願いいたしますー  
今年度高校2年生の「倫理」の最後の授業で、彼らに贈った言葉をここに掲げます。  
マーガレット・サッチャー元英国首相の言葉です。「考えが言葉になり、言葉が行動になり、行動が習慣になり、習慣が人格になり、人格が運命になる」



# 班・部活動の記録／資格試験・表彰

## PTA会報

2019年12月23日号、2020年3月10日号

### 《班・部活動の記録》

#### 吹奏楽班

第59回東京都高等学校吹奏楽コンクール大会

〈A組〉 金賞  
〈B1組〉 銅賞

#### 書道部

第64回全国競書大会(日本書道美術院)

毎日新聞社賞 高I 相田

#### 第104回書教展

審査委員長賞 高III 渡邊  
東洋額装賞 高III 横山  
跋渉堂賞 高III 大草  
紙友堂賞 高II 大塚  
ナムラ賞 高II 清水  
団体優秀賞 高III 横山

#### 映画部

第15回高校生フィルムコンテスト(調布市主催)

最優秀賞〈監督・脚本〉 高II 岩花  
〈撮影〉 高I 浅井  
演技賞 高III 奥田  
同右 高II 岩花  
作品名「君との音色」

#### 剣道部

第62回三鷹市春季剣道大会

〈一般女子三段以上の部〉 高III 伊井  
第3位

#### 〈一般女子二段以下の部〉

準優勝 高III 赤峰  
第3位 高II 岩崎

第37回文京区少年剣道大会

〈中学生女子の部〉 中3 横山  
第3位

#### 〈高校女子の部〉

優勝 高III 菅田

#### 中学野球部

第9ブロック春季大会 優勝

〈春季都大会〉 ベスト16

〈調布市中学校対抗野球大会〉 優勝

令和元年度第9ブロック秋季大会

〈東京都中体連第9ブロック〉 準優勝  
都大会ベスト32

#### スキー部

第53回アルペン複合競技赤倉観光リゾート大会

〈女子ジュニア〉 第2位 高II 緑川  
第3位 高II 足立(莉)

第58回東京都スキー選手権大会

クラシカル競技 第1位 高II 足立(紗)  
フリー競技 第2位 高II 足立(紗)

第75回国民体育大会冬季大会スキー競技会  
出場決定 高I 足立(紗)

第57回全国中学校スキー大会 出場決定

中3 岩倉  
中3 流石

第55回関東高等学校スキー大会 出場決定

高III 矢頭 高III 佐藤  
高II 足立(莉) 高II 緑川  
高II 足立(紗) 高I 宇佐原  
高I 小川 高I 佐川  
クラシカル競技 第1位 高II 足立(紗)  
フリー競技 第2位 高II 足立(紗)

第69回全国高等学校スキー大会 出場決定

高II 足立(紗) 高I 宇佐原  
高III 小川 高I 佐川

#### ソフトテニス部

東京私立中学高等学校ソフトテニス大会

高等学校女子学校対抗戦  
〈4部〉 高III 吉田 高III 横山  
高III 小泉 高II 佐藤  
高II 尾花 高II 服部

令和元年度普及研修大会

ブロック優勝 高II 尾花  
高II 佐藤

#### バレーボール部

東京都高等学校体育連盟主催

新人リーグ戦大会 準優勝

第59回調布市民体育祭

〈男子シングルス2・3年の部〉 第3位 中2 安池

〈女子シングルス2・3年の部〉

準優勝 中1 植村

#### 陸上競技部

第72回東京都高等学校陸上競技

対抗選手権大会

第5・6支部予選会

〈女子5支部 走幅跳〉 第3位 高II 安田

第40回学年別高等学校陸上競技選手権大会

〈女子5支部 走幅跳〉 第3位 高I 那波

#### 硬式テニス部

〈中学男子〉

東京都中学校テニス選手権大会

第9ブロック予選  
〈シングルス〉 第7位 中3 内藤

〈ダブルス〉 第5位 中3 内藤

第7位 中2 内藤

第7位 中3 堀切

〈中学女子〉 令和元年度多摩地区中学校テニス大会

優勝 中3 相沢・阿部

岩崎・武井

鈴木・信田  
小川・間島

#### バドミントン部

第9ブロック調布・狛江・府中地区

バドミントン大会  
男子団体 第3位 中2 佐々木



〔高校男子〕

第58回調布市民体育祭

〈シングルス〉優勝 高Ⅲ 田坂

準優勝 高Ⅲ 相川

第3位 高Ⅲ 渡邊

第36回東京都ジュニアチームテニス  
チャンピオンシップ

優勝 高Ⅲ 田坂・新井・相川  
猪飼・渡邊

第58回東京都高等学校新人テニス選手権大会  
〈男子シングルス優秀賞〉 高Ⅱ 星川  
〈男子ダブルス優秀賞〉 高Ⅱ 星川  
高Ⅰ 門野

第10回東京都私立中学高等学校  
テニス連盟リーグ戦 2部リーグ 2位

第44回東京都私立中学高等学校  
テニス選手権大会団体戦 ベスト8

第43回東京都私立中学高等学校  
テニス選手権大会

男子シングルス ベスト4 高Ⅱ 星川

男子シングルス ベスト4 高Ⅲ 田坂

男子シングルス ベスト4 高Ⅲ 新井

男子シングルス ベスト4 高Ⅰ 門野

男子ダブルス ベスト4 高Ⅲ 相川

男子ダブルス ベスト4 高Ⅲ 新井

男子ダブルス ベスト4 高Ⅱ 黒河内

男子ダブルス ベスト4 高Ⅱ 田中

男子ダブルス ベスト4 高Ⅱ 星川

男子ダブルス ベスト4 高Ⅰ 門野

ダンス部

高校生ライブMUSIC DAYS 2019 東京大会

優秀賞 全国大会出場

第8回日本中学校ダンス部選手権  
東日本予選大会

全国大会決勝進出

全国大会 審査員特別賞

第7回全日本小中学生ダンスコンクール  
東日本大会

中学生部門

金賞 全国大会出場

全国大会 銀賞

有志フェンシング部

2019年度関東高等学校フェンシング大会兼  
第61回関東フェンシング選手権大会

東京都予選会

〈女子〉

学校対抗フルレ

第4位

高Ⅲ 高橋  
高Ⅱ 笠井  
高Ⅱ 中元

サッカー部

第9ブロックサッカー夏季選手権大会

Bトーナメント 優勝

第9ブロックサッカー新人大会 第3位

柔道部

第68回全国高等学校総合体育大会  
東京都第4支部大会

〈男子81kg級〉敢闘賞 高Ⅲ 平川

第59回調布市民体育祭

〈柔道一般女子有段者の部〉

第3位 高Ⅲ 勝山

第24回立柔杯柔道大会(立川市)  
〈中2・3年重量級の部〉

第3位 中3 佐々木

《資格試験・表彰》

U18 IT夢コンテスト2019

最優秀賞

敢闘賞

〈神奈川工科大学〉

高Ⅲ 赤峰

高Ⅲ 平川

高Ⅲ 保谷

第9回トウワイス・アワード

〈企業インターワーク〉

株式会社 明治賞

高Ⅱ 武田

高Ⅱ 獅子倉

高Ⅱ 脇本

高Ⅱ 奥野

高Ⅱ 西川

高Ⅱ 荒井

高Ⅱ 藤本

高Ⅱ 林

校内漢字検定 特準2b級

中3 林田

北日本新聞社 ねじめ正一氏選  
第16回高岡・山町ボエム大賞

最優秀賞『特別』 中3 磯岡

令和元年度全国中学生人権作文コンテスト

東京都大会

作文委員会賞

中3 佐藤

中3 横内

明治大学文学部第11回読書感想文コンクール

優秀賞

高Ⅲ 星澤

高Ⅲ 小野

高Ⅲ 高松

高Ⅲ 菅田

高Ⅲ 松島

令和元年度中学生の「税についての作文」

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

中3 堀江

令和元年度「税に関する高校生の作文」  
武蔵府中税務署長賞 高Ⅲ 佐藤

第10回いつしよに読もう!新聞コンクール

優秀賞

高Ⅰ 野中

高Ⅰ 八島

高Ⅰ 長竹

第1回「歩行空間におけるユニバーサルデザイン」

優秀賞

高Ⅰ 相田

第58回全国高等学校生徒英作文コンテスト

入選

高Ⅱ 倉持

高Ⅱ 石原

高Ⅱ 眞田

第11回東京駅伝大会

調布市中学生代表選手選出

中2 米山

中2 吹野

中2 横井

中2 吹野

中2 中村

中2 吹野

中2 中村

司法試験合格

2019年法学部卒

檀淵

公認会計士試験合格

経営学部4年

川畑 健人

小川 香帆

厨川 美穂

蘇我 果純

播口 翔紀

商学部2年

商学部2年

商学部2年

商学部2年

# OB・OG 活動報告

OB OG

ACTIVITY  
REPORT

2020

めいらくかい

## 明楽会 昭和31年卒

### 佐藤 健一

史上まれに見るコロナ禍に見舞われ世界中が最悪の事態に追込まれた生活、我々高齢者には大変な事です。

明楽会も毎年11月第一金曜日に開催されて来ましたが本年は此の様な事態の中、中止を決定しました。我々高齢者は1回でも多く顔会わせが出来ればと思っておりましたが、此の様な世情には勝てず中止となったことが非常に残念でなりません。此の様な事態の中、同期の仲間が1人2人と欠けて淋しさも増して参りました。昨年は同期の矢野氏の御好意により浅草「やっこ」にて開催した処、多数の仲間の参加が得られ盛大に催され、80才過とは思われない姿を拝見するなど増々旧交を深め、次回を楽しみに名残りおしくも散会となりました。

恩師が1人として残っておらず一抹の淋しさもありますが、一夜を楽しく過ごしました。本年は此の様な事態に見舞われましたが、来期こそ、皆様の健康な姿を一人でも多く拝見出来る事を楽しみに期待してやみません。総明会の幹事諸氏も、此の様なコロナ禍に負けぬ様に令和の会の増々の発展のため御尽力される事を心より祈念します。



めいじかい

## 明治会 昭和32年卒

### 太田 喜久

新型コロナウイルスの感染拡大、九州や長野・新潟での大規模自然災害で被害を受けられた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。終戦の混乱時に小学校に入学しましたが、1・2年生の記憶はなく、3年生の時から男女共学が始まった事だけは覚えて居ます。中学進学も私立には男子は2名、女子は5名の7名でした。

明治中学への受験手続がギリギリになったので受験番号は34番と、後ろには5・6名だけでした。試験は1名ずつ教室に呼ばれて3人の試験官の前に座り、「氏名・好きな学科等」を応答、数学の問題として「時計の長針は短針の何倍の早さか?」との問いに「12倍」と答えたのを覚えています。これだけでしたが2日後の発表には合格して居ました。

長い間の難問は「これだけで合否が決定されたのか」ということでしたが、ある年の明治会の集りで学生時代から世間の事情通に、この質問をしました。一言「電話だよ」との事、彼のいうには「まだ戦後まもなく経済の不安もあり、学校としては学費の未納が一番困るので電話のある家なら学費の未納もないだろうと、電話のある家を合格にした」との事です。二代目三遊亭円歌の「呼出し電話」を聞き当時の電話事情が分かった様な気がしました。

携帯はガラケーを使い、カードはスイカだけで充分満足して居るのですが、スマホだペイペイだテレワークだと次々に新しい言葉の氾濫に身も心も付いて行けず、新潟の妙高山の麓の赤倉温泉で月の半分を過ごして居ましたが、今年は東京からは来ないといわれ、新型コロナウイルスは80を過ぎた後期高齢者が罹ると大変との事で、東京の家で巣ごもりを続けています。



きゅうかい  
**旧雨会** 昭和34年卒

**秋山 義昭**

「旧雨会・傘寿の会」の開催を中止いたしました。

毎年4月に開催する「旧雨会」も記念すべき傘寿の会となる本年でした。Covid-19災禍の中、運営委員会と相談の末、苦渋の決断を迫られ、中止と決めましたことを、ここに会員の皆さまに報告いたします。新型コロナウイルスの影響で世界中がパンデミックと騒がれているなか、2020年東京オリンピック・パラリンピックが、来年に延期すると3月24日に決定いたしました。

旧雨会といたしましては、傘寿の会として、慎重を期して、1月より招待者名簿を整理して、毎回出欠の返事をいただいている90名に絞り込み、住所録を新たにラベルシール印刷にして、万全を期して準備いたしました。2月の中旬には、4月11日(土)午後2時より会場を「京橋モルチェ」に50名予約にて会場を確保しました。これからは案内状を作成して出欠を確認段階までにはいたったのですが…。

なにせ、我々の会は80歳を迎える長寿の会であります。大勢で懇親会を開きコロナ禍に巻き込まれたらイチコロです。“責任は我にあり”新型コロナウイルスで自粛を求められ、収束が見通せないなか、開催は無理と判断して2月25日に中止にいたしました次第です。

また、今年で第38回目を迎える伝統ある「明高ゴルフ会」は傘寿の会を記念に盛大に開催して、この歳までよくやったということで、解散記念も兼ねていたのですが、1年間延期を考えています。ただし参加選手がパラリンピック状態なので、2021年パラリンピックが中止になりましたら、盛大に都内で解散会を開きましょう。過去にゴルフ会に参加していた方なら参加は歓迎です。過去の思い出話を語りながらのパーティもオツなものです。

会費につきましては、ゴルフ会の内部留保がありますので、安い会費で豪華にやりましょう。来年は「傘寿+ワンの会」開催いたします。皆さんに笑顔でお会いできる日を楽しみに!

【明治高校昭和34年卒】旧雨会担当窓口 秋山義昭

連絡先: ☎164-0011 中野区中央4-42-5 Tel.Fax/03-3382-4187 メールアドレス aki3583@gmail.com

めいしゅんかい  
**明駿会** 昭和36年卒

**向殿 政男**

明駿会の代表幹事は、会が始まってから今までずっと、そして今後も加藤眞義君です。しかし、会の運営は、これからは、山田和孝君に、サポーターとして矢口博康君にお願いすることになりました。

明駿会は、これまで、定期的に2年に1回として開催してきました。今年がその年なのですが、100年に1度といわれるこの新型コロナ感染の拡大です。我々のように78才前後になる後期高齢者は、いったん感染するとすぐに重症化してしまいます。恐ろしいことです。もちろん、安全サイドをとって、今年は開催を中止しました。従って、今年の写真がありません。思い出のために、10年ぐらい前に、諏訪在住の坂口信郎君を尋ねたついでに、八ヶ岳をバックに草原で、皆で校歌のオ・オ明治!を歌っている写真を掲載します。右端のリーダーは加藤眞義代表幹事です(これが生き甲斐です)。ところが、まだ10年ほどしか経っていないのに、なんと、この写真に写っている中の3人が、既に鬼籍に入ってしまったのです。びっくりというより、寂しい限りですね。人生100才時代です。友を大事にして、今を大事にして生きて行きたいと誓うこの頃です。





にねんにいっかい  
**二年に一会** 昭和38年卒

**三浦 昭生**

**コロナ禍に負けず我ら同期会は前へGo!**

未曾有の事態となった新型コロナウイルス感染の影響で生活様式が一変、大変騒がしいご時世の今日この頃。昭和38年卒の同期会「二年に一会」(会長・三浦昭生)です。卒業の翌年に第1回総会・懇親会を開催後会名のとおり2年に1回(ここ10年は毎年)開いておりますが、コロナ禍で残念ながら本年の第35回は中止としました。私たち同期会が総明会の幹事学年を拝命してから満30年。アツという間に過ぎました。第56回総明会の幹事学年「明鐘会」の後輩諸兄におかれましても迷い戸惑いが生じたと察せられます。活動テーマは「前へ! Go Meiji!」「二年に一会」もこのテーマで常に前へ!

後期高齢者のスタート令和元年、お江戸日本橋のレストラン「東洋」で第34回を開催(写真)。この新型コロナに負けずにもとの生活基盤にもどれることを祈念し、これからも時、所を変えて会を続けていきます。来年、私たちは喜寿を迎え、また新しい趣向を試み、当番幹事を決め開催予定であります。最後にこの誌面をお借りし同期生諸兄に呼びかけます。ご意見、苦言何でも結構ですからぜひご一報ください。(文責・服部紀夫)

「二年に一会」事務局 〒135-0005 東京都江東区高橋14-20 関戸 淳一

TEL 03-3631-2008 FAX 03-3631-2548 Email: skido-f@amber.plala.or.jp

さんきゅうかい い い な か い  
**39会&一一七会** 昭和39年卒

**佐藤 仁**

我、学年の同期会は昭和39年卒にちなんで「39会」・サンキューカイ、母校に、恩師に、同期に感謝を込めて「ありがとう」の命名です。もう一つの「一一七会」は、卒業時の生徒会本部メンバーのOB会として発足しました。「一一七会」は、母校の創立記念日1月17日にちなんだもので「イイナカイ」と呼びます。昔はいいな、という思いが込められています。

卒業以来、毎年1月末に新年会を兼ねて集まります。会場は我学年の北村君のお店、日本橋東洋ビルB1F「畔居」が定例会場です。最近では生徒会OBにこだわらず皆ウエルカムでやっています。同期会の「39会」は、3・4年に一度、「一一七会」は毎年です。

我々は、今年75才になります。後期高齢者というわけですが、まだまだ気持ちも体力も若いつもりでいます。まさか新型コロナのような世界的災禍が訪れようとは思ってもみませんでしたが、この様な時こそ、より一層同期の絆を強めて、心の拠り所として元気にいきたいなと思っています。2年後には77歳「喜寿」の祝いの同期会を盛大に行いたいと思っています。その為にも、このコロナを乗り越え元気に集まりたいと思います。(写真は今年1月の一一七会 24名参加)



よんいちめいゆうかい  
**四一明友会** 昭和41年卒

**廣瀬 準**

**「前へ! Go Meiji!」**

私共昭和41年卒の「四一明友会」は団塊の世代で人数も多く受験の時も大変でした。

今回「前へ! Go Meiji!」ということで「前へ!」について書こうと思いましたが今回は昭和40年の「第37回選抜高等学校野球大会」に出場したことについて述べます。

当時出場が決まって東京駅で出発する時は、皆で行って校歌を歌い、今では考えられない状態でした。島田校長も御挨拶をして選手達も皆きちんと並んで、お見送りしました。結果は第1回戦は田原本農業高校に勝って、勢いも出て第2回戦は岡山東商業高校に「1対0」で負けました。

優勝した岡山東商業高校の投手は平松選手で素晴らしい投手でした。平松選手は優勝投手にもなり後に大洋ホエールズに入って200勝投手になりました。いくつになってもいい思い出になっています。





えむよんじゅういち

M 4 1 昭和42年卒

## 伊藤 謙一

## 次回のM41同期会に向けて

2年に一度開催と決めて2度目の2020年6月6日(土)午後1時からの同期会はコロナの影響で残念ながら中止となりました。

次回開催については、本年9月中旬を目処に幹事団7名で「前へ！」進める計画でいます。2021年の開催か、2022年の開催かの検討から始まり、会場や進行についてもアイデアを出しながら、一歩でも前に進んだものにしたいと考えております。70代前半の我々が安心して語り合える状況で集まりたいものです。例えば野球場芝生席・サッカー場・体育館・テニスコート・柔道場等々。

或いは散策をしながら旧明治中学・高等学校跡地・錦華公園を巡り語り合う健康第一な企画や参加者全員がワクチン接種をして立食パーティで語り合っ英気を養う会にする。

まずは同期の皆様と元気で再会出来ることを祈りたいと思います。それにはコロナウイルス撃退が条件でしょう!!

幹事団:朝貝省吾・伊藤謙一・倉又光仁・後藤孝男・佐藤茂和・町田菊男・村西一郎

写真は4年前2016年(オリンピック年)の全体写真です。

しさんかい

## 紫讃会 昭和43年卒 小田嶋 保男

## 【本年度テーマ「前へ! Go Meiji !」についての想いについて】

「いよいよ東京オリンピック!」と期待を寄せて年が明けたら、あっという間に想像もしていなかった夏がやってきました。日常や常識が変わりました。私も変わりました。それは、遅ればせながらスマートフォンを持ったことです。難しそう、誤った操作をしたら大変そう…と、スマホ操作は絶対に無理だと思い込んでいました。しかし、明治の仲間達とゴルフをしたある日の帰り道、皆と一緒に私のスマホを買いに行くことになったのです。まるで学校帰りに寄り道をする学生のように、ワクワクした気持ちが私のスマホデビューの背中を押してくれました。すでにスマホを使いこなす仲間達に操作を教わりながら、まだまだ時間がかかり、間違えることも多いですが、今ではSNSで仲間との交流を楽しめるようになりました。たかがスマホ。しかし、私にはさほどスマホ。世間からすれば些細な事でも、私には大きな一歩でありました。それも明治の仲間のおかげで、70代でも前へ! 進めたと、誇らしい気分です。人はいくつになっても進化することができるのだと思う出来事となりました。

年を重ねると、変わることに臆病になってしまいます。不安なニュースが多い中、人に会う機会が少なくなり、新しい生活様式が求められ、漠然とした恐ろしさを感じてしまうこともあります。しかし、不安だけを抱えて生活することは実に勿体ないことです。それぞれの置かれた状況で、自分なりの生活の楽しみや挑戦を見つけることが大切です。どんなに小さなことでも構いません。恐れずに、時代に合わせて自分も進化をすること。それは「前へ! Go Meiji !」の精神でもあります。離れていても、我々には総明会の仲間がいます。共に頑張り、乗り越えていきましょう。最後に、日本のみならず世界の人々が平穏に過ごせる日々を切に願っております。



おとこざくらぶ

## 男坂俱樂部 昭和44年卒

## 寺田 康夫

## 古希を迎えて「古来より人生七十歳まで生きることは稀である」

男坂俱樂部は古希を迎えました。古希は唐代杜甫の漢詩(曲江)の一節「人生七十古来稀」から来ており、お祝いの色は紫・紺であるとのこと。明治とも縁のありそうな祝い事だと思っています。

これまで例年5月に恩師・総明会幹事学年も招いて同期会を開催しており、今年は古希を祝って熱海で1泊2日、じっくりとこれまでの50余年を語り明かそうと企画をしましたが、新型コロナの影響から直前で断念しました。当倶楽部会員にはこの間全員に連絡案内をしてきたところではありますが、コロナ騒ぎが落ち着いたころ改めて盛大な企画を用意しますので、楽しみにしてください。

総明会OB・OGの皆様方もご苦勞の多いことと思いますが、ここは明治らしくポジティブに「前へ!」の精神で乗り越えていこうではありませんか。

卒業から52年、先日久しぶりに男坂の階段を上る機会がありましたが、何とか一気に登りきることができました。男坂俱樂部はまだまだ元気です。あと何年活動できるかはわかりませんが、減ることはあっても増えることのない同期会、大切にしていきたいと思っています。



## ししのかい 獅子の会 昭和45年卒

### 比留間 竹郎

獅子の会は総明会会長を昨年まで務めていた吉田耕太郎君を幹事長とする昭和44年度卒の同期会です。今年は私達が明治高校卒業50周年を迎え、1年前倒しで古希のお祝いを兼ねて4月初旬に記念総会を開催する予定でした。

これに向けて準備委員会を結成して準備を重ねその日は男坂に集合して写真を撮り神田明神で還暦の時と同じように古希のお祝いを受けてからお茶の水ガーデンパレスで総会講演会懇親会を計画しておりました。後は当日を待つばかりでしたが2月初めにコロナの感染が広がり準備委員会で検討の結果、2月末に延期の決定をしました。

獅子の会は毎年2月は新年会、4月は桜の会、6月は同期三宅裕司君の新橋演舞場での熱海五郎一座の観劇、7月は油壺でのクルージング、10月はやはり三宅裕司君のSET本公演の観劇、12月は同期と明潮会主催の銀座ケントスでのクリスマスパーティーと1年間いろいろな行事で懇親を深めてきました。今年はこれらのイベント開催が微妙な状況ですが、この間は獅子の会ホームページにて「安否確認」「情報交換」等を定期的に掲載し会員同志の意思疎通を図ってまいります。

そして来年はコロナが終息して同期全員で卒業50周年と古希のお祝いを開催できる事を願います。

## めいちょうかい 明潮会 昭和46年卒

### 杉澤 正利

「高校でてから、50年」

「明潮会 卒業50周年記念パーティー 2021年10月開催」

JR鶯谷駅を降り、直線で20m程に私共が氏子である、元三島神社が在る。

この神社は、浅草・神田の比にならない程、小さい。その神社が、来年、3年に1度の本祭りを迎え、それを取り仕切る大役を私が仰せ付かったばかりに、このコロナ禍の中、毎週のように準備委員会を開催している。

そんな忙しい中、私に総明会への寄稿文の依頼が来た。そういえば、明治高校でも、高校Ⅱ年の時の体育祭で、当時、バスケット部長だった私は、裏方で、一番大変な部署と評判の高い器材係を仰せつかった。それぞれの種目に必要な器材を用意し、時間内にグラウンドにセットする役。すべり出しは、うまくいっていたが、午後のパン食い競争で、パンを紐に吊るす仕事を忘れ、部員が大慌てでやったことが、今でも思い出される。お役目が終わると、チータ(松枝先生)が握手をしてくれた。

1964年3月の春、明治高校野球部が甲子園に出場した。ここに入れば、甲子園に行けると思って50年。現役の野球部諸君、野球部OBの皆さん。どうか、どうか、私を甲子園に連れてって! 甲子園で、明治の校歌を歌いたい!



## よなよなどうしょうかい 四七四七同志酔会 昭和47年卒

### 戸張 毅

はじめに四七四七同志酔会の皆さん、コロナが落ち着く頃に「古希」の祝いを予定します。「何年先になるんだー」とお叱りを受けそうですが、みんな元気で会おうね!

今回は、明治高校との関わりについてお伝えさせていただきます。昨年10月26日、11月2日の2日間、今回3回目となる「キャリアクエスト講座」(建築・実習編)を実施しました。高Ⅰから高Ⅲの生徒18名の参加です。今回の課題は「調布市富士見町の都市計画に沿った街づくり」になりました。2日間の講座では学校に隣接する街区(住宅約100戸分)を実際の法規、都市計画に沿った形で道路、各住戸の敷地、公園等の配置を考え、街区という単位で形を構成し、その中の各住戸が北側・道路側からの制約があるかどうかのようなボリュームの住宅が建てられるのかを考え、全体をデザインしていく内容です。

初日の講座では、生徒も内容を把握することに戸惑っているようでした。2回目の講座では生徒も徐々に理解され、予定時間を越えましたが1/200街区モデルを完成することができました。私自身も全景が現れた時、大変嬉しい気持ちにさせていただきました。

結びになりますが、このような機会を設けてくださいました安藏伸治校長先生、生徒の募集・校内の説明等でお世話になりました関根正人教頭先生、2日間お手伝いいただいた比留間竹郎先輩、竹内涼太後輩、参加生徒諸君に感謝申し上げます。





## よくめいかい 翼明会 昭和49年卒

### 佐藤 眞弘

私たち「翼明会」は、早いもので幹事学年として東京ドームホテルで総明会・懇親会を開催してから20年経過し、「高齢者」と言われる65才になりました。

翼明会は竹澤啓君を会長として仲間が集まって同期会やゴルフコンペを開くなどの活動をしています。5年前には還暦会を兼ねた同期会を開きました。平成30年には桜井先生や西原先生をお招きして、35名の仲間が集まって同期会を開き、親睦を深めました。また、ゴルフ好きの仲間が集まってゴルフコンペを春と秋の年2回開いて楽しんでいます。今年の春は新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されることから、開催を秋に延期したところです。

今年は3月末に同期の栗野先生が母校を退職したことから同期会を開き、労いたいと思っていましたが、新型コロナウイルスの感染が収束しないことから、同期会が開催できないという状況です。

来年は永年母校に奉職した同期の栗野先生や則先生を労う同期会を開きたいと思っています。来年の同期会には多くの仲間が集まってくれることを期待しています。また、ゴルフをやっている方、翼明会ゴルフコンペの仲間を募集しています。参加したい方は竹澤君か佐藤まで連絡してください。お待ちしております。

## めいしかい 明紫会 昭和50年卒

### 窪寺 弘匡

明治中学・明治高校時代の部活や仲良し組もいるが、45才の総明会ホスト学年から急に親交が深まり、今では一生の友と言える仲間もいる。

縁があり学生時代に出会え、そしてまた新たな縁で繋がってゆく～これが総明会なんだなと思う。

毎年恒例の明紫会の集まり(総会・懇親会)は、新型コロナウイルスの影響で今年は中止となった。とても残念である。しかし、このコロナ禍の中いろいろ試されているようだ。医療従事者やその子供への差別やいじめ、陽性者や発生店舗への誹謗中傷など人間性が問われているのではないかと思う。こんな時こそ明治魂で助け合い乗り越えて行きたい。

手前味噌になるが、6年前にオープンしたハワイアンダイニングバー「マハロア」での懇親会では、フラやタヒチアン、GSや昭和歌謡などを楽しみながら毎回大変盛り上がり、店を創って本当に良かったと思う。

還暦を過ぎ、定年退職し新たな一步を踏み出した者、まだまだ手を抜けない経営者や個人事業主など様々な仲間がいるが、日本人の平均寿命を考えるとあと20年、縁あって出会った気の許せる仲間や気のおけない仲間とともに健康には十分気を付けて、心身ともに健やかにもっともっと楽しみたいと思う。



## めいめいかい 明々会 昭和51年卒

### 小林 祥悟

昭和51年卒 『明々会』、還暦を過ぎ、2年～4年たった同期会です。

時世がら、初老(本人たちは決して思っていない)たちの集まりを 残念ながら今年は中止しました。

幹事学年を迎えるにあたり再度集まりははじめた同期会ですが、初めての中止。大雨の中でも集まってきた会ですが、さすがに今年は無理でした。

無理して集まり、もし何かあったら…そんな心配事が先に立つ年ごろ。になっちゃいました。

来年はいつものように集まります。毎年7月の第2週目の土曜を予定に入れておいてください。

(ちなみに2021年7月10日の土曜日です)

来年あらためて、みんなで元気に集まれますように! 皆さん! お体ご自愛ください!! その日を楽しみにしています。

※そんなわけで掲載する写真がありません。我が明々会の同期、井家上教授が総明会会長に就任した総会での集合写真を載せます。(若干名先輩もいます)来年こそ、こんな笑顔を楽しみにしています。

## 一日も早く新型コロナウイルスによる感染症が終息しますように

まず初めに新型コロナウイルス感染症拡大により、不安な日々を送っているすべての方々にお見舞い申し上げます。

今年3月よりじわじわと忍び寄る、恐怖の感染症の拡大により、不自由な生活を余儀なくされておりますが、総明会諸兄姉に於かれましては益々ご健勝のことと拝察申し上げます。また、昭和52年卒男子校根性組の皆様も変わらず元気に過ごされている事だろうと安心しております。この書面を拝借してご挨拶申し上げます。

今は耐え忍ぶより他術もなく、出来ることをしているだけだと思います。人間暇になると碌なことを致しません。やり場のないイライラのはけ口として、感染者や医療従事者が対象となった新たな差別が始まっています。不安に駆られての他者へ向けた無慈悲な行為に悲しさが募ります。社会が劇的に変化し、文化も伝統もどこかへ押しやられそうな勢いです。どのような社会になるのか楽しみでもあります。後れを取らないように目を見張っていようと思います。今私達は還暦を過ぎ、人生の75%が過ぎたところだと考えています。残りの人生に今まで培ってきたすべての力を注ぎ、遊び倒していけたら幸せだろうと思っています。

私たちの高校時代は決して皆が伸び伸びと過ごせていた訳ではありませんでした。忍耐を常に強いられていました。学業でも何でも徒な忍耐は間違いです。忍耐もその中に目的が見つかれば、忍耐を希望に変えられる事が出来ると思います。そのような教育が母校で実現されます事をお祈りしてペンを置きます。一刻も早く感染症の拡大が止まり、また平和な日常が戻りますことを祈念しますとともに皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

めいせいかい

## 明誠会 昭和54年卒

### 金子 由紀夫

「アイツ大丈夫か？」口には出さずともそんな言葉が頭をよぎる。6月に予定していた同期会も延期され、予定は未定のままです。「逢えない時間が愛育てるのさ」なんて言うのと、話がキモい方へ行ってしまうそうですが、「あの頃」のことを思い浮かべる回数も少し増えたような気がします。写真は同期の一人が撮影してきたものです。昔の溜まり場があった辺り等、訪ねてみるのもいいのかもしれません。少人数で集まるなら、同窓生がやっているお店に集まるというのが、やっぱり粋なんじゃないかと。あれっ！年度幹事っていつまでやるんだ？(笑)



めいしょうかい

## 明翔会 昭和56年卒

### 寺村 一義

～コロナ禍でも「前へ！Go Meiji！」～

令和2年1月31日、毎年恒例となっている明翔会新年会が神田で行われた。月末の金曜ということもあり参加人数は少なめであったが新年を祝う同期だけの集まりは大いに盛り上がった。次のイベントは3月28日の「ゴルフコンペ」だったのであるが新型コロナの影響で中止になり、6月20日に予定されていた総会・懇親会までもとりやめになってしまった。年1回の懇親会が開催できなかったのは非常に残念であるが、我が同級生は酔いが回ると多量の飛沫が飛び交うことを考えるとそれも致し方なかったといえるだろう。

その代わり初の試みでオンラインによる役員総会が行われ、昨年度の会計報告・今年度の予算案・事業計画等が承認された。今年は会長および役員の改選年であったが特例措置として1年間の任期延長が決定した。

さて今後の明翔会であるが何といっても2年後に迫った「還暦祝い」をどうするか？ということである。現在の意見として①一泊旅行②東京湾クルーズ③馴染みの店を貸し切ったのパーティーなど様々な意見が出てきているが来年はそれらを意見集約し準備を進めなければならない。ただそれらのイベントはみな「濃厚接触」を伴うものであり慎重に吟味してきたい。コロナ禍で暗い話題が多い昨今であるが「前へ！Go Meiji！」の精神を忘れずにこれからも明翔会を盛り上げていきたいと思っている。



めいこんかい

**明魂会** 昭和57年卒 菊池 正純**「コロナ禍の中で考えること」**

東京オリンピック・パラリンピックに沸き立つはずだった2020年、新型コロナウイルスが世界の様相を一変させてしまいました。その中で、いろいろなことを考えさせられる年となりました。食材の買い物にも後ろめたさを感じたステイホームの中で、それまであくせくと動き続けてきたせわしなさは何だったのか、その一方で、感染防止のためとはいえ、会議や名刺交換、飲み会までもウェブ上で行うことを推奨する「新生活様式」は何かおかしくないか、と。昨年のラグビーワールドカップや、今年1月に新国立競技場で行われたラグビー大学選手権決勝「明治対早稲田戦」に絶叫したことを、今では夢のように感じながら、人と人とのつながりはリアルな空気感や感情の中で醸成されていくものと改めて実感しています。総明会の懇親会で声高らかに歌い上げられる校歌も、熱い明治魂が一堂に会してこそ、荘厳なものとなります。

このところ、顔を突き合わせ、口角泡を飛ばして面罵しあうシーンが印象的なテレビドラマ「半沢直樹」が注目されています。私は、名だたる俳優の熱演を観ながら、厳しくも優しい薫陶をいただいた松枝先生の授業など、駿河台での高校生活を思い出し、懐かしさを感じています。あれもこれも、コロナ禍の中にあっては、あり得ない情景かもしれません。昨年暮れに、毎回、明魂会の懇親会に顔を出してくれていた同期の放送班出身、見山義幸君が、急逝されました。生前の優しい笑顔を思い出し、年に1回だけでも顔を合わせる大切さを感じています。今年は、我々明魂会の懇親会も開催が困難な状況ですが、一日も早くかつての日常が戻ることを、そして同期の皆が一堂に会して談笑できる日を心待ちにしています。最後になりましたが、総明会会員各位におかれましても、コロナ禍の中ながら、健やかにお過ごしになれますよう心からお祈り申し上げます。

めいわかい

**明輪会** 昭和58年卒**苅部 大****明輪会 総会・懇親会**

昭和58年卒業の明輪会は、幹事学年を契機として約10年にわたり毎年欠かさず明輪会総会並びに懇親会を開催し、ゴルフコンペも年2回春と秋に実施するなど長きにわたり友情を深めて参りました。

しかしながら、ご多聞に漏れずコロナ禍の影響を受けて、昨年9月に実施した千葉泉CCのコンペを最後に今年は開催には至っておりません。そのような状況ですが、SNS等を駆使して仲間の無事を確認しあいながら、状況が回復することを心待ちにしている昨今であります。また、緊急事態宣言が解除され徐々に経済活動が戻りつつあることから、三密には比較的になりづらいゴルフから再開の糸口をつかもうと秋口から年末にかけて再始動すべく、前向きに思考を変えて再開に向けてコミュニケーションを取り始めました。

総明会の諸行事も大変厳しい状況下であると推察いたしますが、コロナ終息に向けて準備に余念がないものと存じます。幹事学年の皆様、総明会役員及び事務局の皆様のますますのご活躍とご多幸を心より祈念いたし、近況のご報告とご挨拶とさせていただきます。



めいしんかい

**明心会** 昭和59年卒**吉田 孝也**

みなさん、こんにちは。2020年度明心会（1983年度卒）総会幹事の吉田孝也です。今年度の明心会総会は、新型コロナウイルス感染症が思いの外、拡大し中止せざるをえなくなりました。1年に1度、明治高校での同期との再会を楽しみにされていたと思いますが、申し訳ありませんでした。

私は現在、地元町内会で青年部の役員しておりますが、春からの行事に加え、9月の地元神社の例大祭も中止となってしまい、賑やかに神輿を運行することになっていたので、とても残念ですることのない半年間を過ごしてまいりました。みなさんも、同様だったのではないのでしょうか。

とはいえ、最近では明るい兆しも見えてきました。ワクチンが年度内に供給されそうとか、延期された東京オリンピックも開催されるだとか、心強くなる報道を目にするようになっていきます。もう少しの辛抱です。個人的にはこのウイルス騒動が収束したら、同期の仲間とゴルフをしたいと思っています。明心会メンバーの有志でコンペを年4回開催していましたので、再開後には、これまで参加されていないみなさんも、ぜひ、参加してください。今回のウイルス騒動も、何年後かには「あの時は大変だった。」と思い出になっているはず。来年の再会を楽しみに待っていてください。



とうこんかい

## 闘紺会 昭和60年卒 矢澤 徹・和田 直弘

「闘紺会の皆様元気ですか？」

昭和60年3月に卒業してから早35年が経ちました。皆様にはお元気でご活躍のことと思います。我々闘紺会は、毎年7月第1土曜日に総会（本年度は新型コロナウイルス感染拡大により中止）を行っています。8年前に幹事学年を務め同期会を開催した際は60余名が参集したものの、最近は集まる人数が減少傾向にあります。これまで出席を躊躇っていた方も一度覗きに来ませんか。中学・高校から余り変わらない奴、誰なのか分からない奴と、時代を超え色々な顔が一堂に会し、話をする機会はそうはありません。

年3回開催の総明会評議委員会には、同期を代表して矢澤と和田が出席していますが、総明会と闘紺会は「禍福はあざなえる縄の如し」一体となって今後も両会繁栄に微力を尽くす所存です。「前へ! Go Meiji !」のスローガンの下「前へ! Go 闘紺会!」の精神で厳しい時勢を乗り越えて参りましょう。この会報をご覧になり、少しでも闘紺会に関心を持ちましたら、次の連絡先にお気軽にお問い合わせください。お待ちしております。【連絡先】 渡辺(わたなべ) 智郎(ともお)(元高III A組・剣道部)

e-mail:watanabetomoo@gmail.com 携帯電話: 080-6581-7788

尚、Facebookで「渡辺智郎」で検索してメッセージをもらっても結構です。

闘紺会 <https://toukonkai.jimdo.com> e-mail:meiji.toukonkai@gmail.com

「闘紺会」をインターネット検索するとトップに出てきます。または、Facebookに登録して「闘紺会」を検索して下さい。

しんせいき

## 新世輝 昭和61年卒 横山 一実

コロナ禍における同窓の皆様へ

今年は新型コロナウイルスにより世界中が大変な状況となりました。日本は幸いにも死者及び重篤者は他国と比較して著しく少なく、押さえ込むこ

とに成功しています。ではなぜ欧米諸国とこれほどまでに違いがあるのでしょうか？ある博士の見解としては9点の要因が考えられそうです。

1. 診断の精度、死亡診断書記載の違い(死亡診断書記載に際し、疑わしいものは新型コロナにカウントする。)
2. 日本人と欧米人の新型コロナウイルスへの親和性(新型コロナへの耐性が根本的に違う。)
3. 地勢的要因の違い(古来、大陸から様々な感染が持ち込まれて耐性がついた。)
4. 新型コロナの遺伝子型の変化(日本はA型、欧米は変異したC型が主)
5. 日本と欧米での政策、国民の行動制限の違い(厳しい行動制限は免疫力を落とす。)
6. 日本では結核予防のためにBCG接種がおこなわれていること。
7. 5Gの普及の違い(ヨーロッパは周波数が高く、身体への影響が強い5Gが普及しつつあるが、日本はこれから。)
8. 生活習慣(清潔意識が高い。また和食が免疫力を上げている。)
9. 心持ち(本来日本人は万物に感謝し共生してきた。)

2月末時点でも新型コロナウイルスに関するデータがある程度集まり、状況が把握できていました。さらに5ヶ月が経過した現在、厚生労働省のHPにも「ウイルス性の風邪の一種です」との記載があります。薬やワクチンがあると言われているインフルエンザは例年、推定2,000万人の感染者が出て、1万人ほどの方が死亡しています。薬もワクチンもない新型コロナウイルスの死者が日本では1,000人程度なのになぜこれほどまでに人々は不安や恐怖を感じているのでしょうか？とても不思議でなりません。

このウイルス騒動、米中戦争との関連があるのかもしれませんが。これからさらにいろいろなことが起こると思いますが、我々明治の同窓は情報リテラシーを高め、マスコミの情報に踊らされることなく、何が起こっても決して自分を見失うことなく周りの人々を思い遣り寄り添い、そして正しい方向へ導くリーダーになっていくことがこれからの日本にとって大切なことだと思います。



めいえんかい

## 明猿会 昭和62年卒

赤岩 大輔

総明会の皆さま平素よりお世話になっております明猿会です。今日までコロナ禍にあり、皆さまにおかれましても仕事や生活が一変し、先行き不透明で落ち着かない日々をお過ごしかと思います。伝統ある総明会の総会・懇

親会も本年度は中止と聞き、幹事学年の後輩がこれまでに準備してきた事が無に帰してしまうのではないかと案じておりました。このような社会状況下でも、幹事学年が一致結束し、会報誌の発行に進めたのは素晴らしい事と思います。気持ちが沈みがちな中、会報誌を拝読し同窓の近況に触れ、自分達も頑張らなければと改めて奮い立たせてもらえます。幹事学年の行動力は本年度のテーマ「前へ! Go Meiji !」を正に有言実行していると思います。諦めず今出来る事をする、それも自分の為でなく総明会会員の皆さんの為に、「前へ!」を力強く発信してくれていて、こちらも元気がもらえます。サポートされた会報委員会や現執行部の諸先輩方にも心より感謝申し上げます。

明猿会も皆様と同様に、同期会や集まりを全て中止にした年となりました。同期の近況も気になりますが、幸い悪い話は届いてはおりません。これからも明るい気持ちを持ち日々頑張りたいと思います。来年は皆様と元気に校歌を歌いたいと思います。





## しょうわぼしんのかい 昭和戊辰乃会 昭和63年卒

### 保坂 紀宏

本来であれば、今年はTOKYOオリンピックが開催され、日本中が熱狂の渦に包まれていたはずが一転、このコロナ禍に包まれ、多くの方が不安を抱えながら過ごされていることと案じております。

今、私たちにできることは、この現実を受け止め、明高を始めとしたそれぞれの絆の下にお互い助け合い、今年の活動テーマである「前へ! Go Meiji!」の精神で立ち向かっていくことだと思います。

さて、我々昭和戊辰乃会では、5月の非常事態宣言解除後に感染防止策を十分とりながら同期の安齋くんのお店「ピッツェリア ロベルティーノ」でプチ同期会を実施しました。自粛生活の中の久しぶりの飲み会が同期のメンバーで飲めたこと、また料理がとてもおいしかったことが重なり久しぶりに楽しいひと時を過ごしました。またその時、安川くんが持ってきてくれたティアンドティ製マスクは、拘りのメイドインジャパンが詰まっており、最高の着け心地で愛用しています。

まだまだ終息の兆しが見えない状況下ですが、いつの日かこんなこともあったねと言える日が来ることを願いつつ、またリアル同期会が開催できる日まで、一人ひとりが今できることを頑張っていきましょう!!

## へいせいかいげんかい 平成改元会 平成元年卒

### 田中 潤二

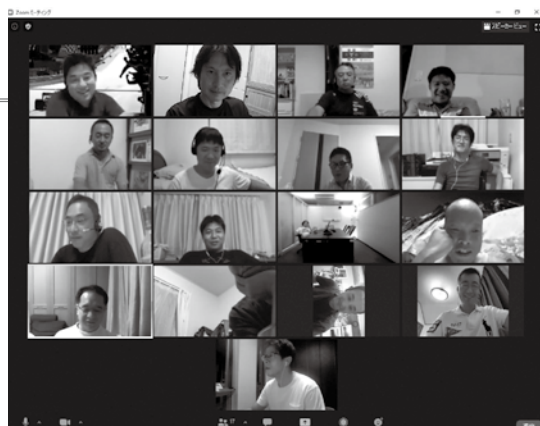
この1年の急速なオンライン化に抗うのは時代遅れで、この「オンライン祭り」には乗るしかない。もう世の中にオンラインで出来ないことはない。

オンライン帰省、オンライン墓参り——、それって意味があるのか?などと突っ込んではいけな。頭にオンラインを付ければ、すべてのことは解決されるのだ。

そこで我々も、やってみました。オンライン同期会。多くが「オンライン飲み会童貞」というメンバーが集まり、初体験でぎこちない中、心躍らせ、恥じらい、心ときめかせた。その詳細については敢えて触れない。ひとまず、1年ぶり、5年ぶり、そして30年ぶりという顔が揃い、その空気感だけは味わうことは出来たのではないだろうか。

1970年前後生まれの我々は、「天から与えられた自分の使命を悟る」という段階に入った。人生100年時代と謳われる中で、今まさに折り返し地点。我々のこの世の使命とは何か?

高尚なことは考えず、ひとまず、さらなるオンライン化を目指すために、来年は、オフラインで集まりましょう!



## めいあいかい 明愛会 平成2年卒

### 今泉 仁

幹事学年からあつという間の3年間、同期の集まる頻度も少なくなって来ていますが、昨年は8月25日に同期会を我が店(川芙蓉/旧留園)にて22名が参加し開催、明愛会ゴルフは4回目を8月に、5回目を今年2月に開催と何とか同期の絆を深めております。会えば話題は中高一緒に過ごした6年間の話題ばかり、同じ話を何度聞いても飽きない程充実したMEIJI生活を送っていたと、皆つくづく感じております。

明愛会は来年50才!そろそろガタが来る身体にムチを打ち、同期のお店に集まったり、大学ラグビー応援したりと、やっぱりMEIJIが好きな私達は、明愛会の仲間・先輩後輩を何より大事にしております。中高の同期っていいですね!と改めて思う今日この頃、まさに明愛会のテーマ「世代をこえる明治愛~I LOVE MEIJI~」です。今年はコロナ影響にて、同期会は延期となりました。幹事学年の明鐘会も大変ですが、皆で乗り越えていきましょう!





## めいじんかい 明仁会 平成3年卒

### 山口 一郎

濃厚濃密な幹事学年から気が付けば早2年が経った明仁会です。今期の活動ですが、去る3月6日、恩師・松田孝志先生の退任をお祝いする会が何故か平日金曜日の真っ昼間午後1時という謎の時間帯から先生の地元東久留米にて実施されました。平日の開催にも関わらず、20名以上が参加、最終的に3次会が

インド料理店でお開きになった時にはすでに午後11時近くと、だったら普通に夕方から始めても良かったのでは、という突っ込みもありつつ、非常に盛況な集いとなりました。と、そこまでは順調なスタートを切った今年の活動ですが、その後に訪れた、まさかのコロナ禍...。全ての活動は取り止めとなり、9月12日(土)に行なわれるはずでした同期会も無期延期に(ちなみに、正にこの原稿を書いているのが、その9月12日です。あっ、締め切り8月中って書いてある、幹事学年ごめん...)

1日も早いコロナ禍の終息と、総明会活動の再開を祈念してやみません。また、このような状況の下、幹事学年を務めてくださった明鐘会の皆さんには本当に感謝の思いです。寄付広告活動も、通常の総会も、また懇親会もなくとも、どの学年も対峙しなかった特殊な環境を自分たちの力で切り開いてくれたことを私たちは決して忘れません。本当にありがとう。そして、「前へ! Go Meiji!」を合言葉に、またみんなが一堂に会する日が1日も早く来ます様に。

## かいかん どうすこいじゅく 快汗、どうすこい塾 平成4年卒

### 荘司 康夫

昨年の幹事学年を務めさせて頂きました、快汗、どうすこい塾でございます。

皆さまには、その節は大変お世話になりました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

あれから7か月が過ぎた7月11日(土)に、同期会を開催いたしました。卒業以来、まとまった同期会をほぼ開いていなかった私達は、幹事学年を経験してから初めての同期会開催を楽しみにしておりました。

ただ、残念ながらCOVID-19の流行でリアルな同期会を開くことは叶わず、Web同期会となりました。日中は仕事があるメンバーも多く、当日は10人程度の参加者にとどまりました。準備会も含めれば20名程度となり、シンガポール駐在の大山君や京都在住の梅澤君、それから一瞬ではありましたが、札幌在住の中沢君など各地から参加してくれました。昨年、会報企画だった関根先生の「27年ぶりの授業」を全国に散らばっている同期の為に、Zoomで中継した経験が役に立ちました。指南してくれた柴田君に感謝!

来年こそはリアルでの同期会をやりたいと思います。今年予定していた日程に合わせて、7月10日(土)でやりましょう。明鐘会の皆さん、大変な年でしたが会報を作成してくれて、ありがとうございました!



## めいしょうかい 明鐘会 平成5年卒

### 小岩井 賢一

明鐘会は、本年度幹事学年を務めさせていただきました。昨年の総会・懇親会で快汗、どうすこい塾から法被を引き継ぎ、総会・懇親会や会報の発行に向けて頑張ってきました。しかし、ご存じのように新型コロナウイルスの感染拡大があり、残念ながら総会・懇親会の開催を行うことができませんでした。その過程で懐

かしい先輩や先生方にご指導いただきながら、会報の発行や就活会の開催に向けて取り組ませていただきました。

9月に高校卒業以来初めての大同期会を駿河台の四川料理川芙蓉で開催し、実行委員以外の仲間も集まり、学校のこと、先生のこと、今の仕事の話など、昔話に花を咲かせました。遠く沖縄からネットで参加する同期もあり、久しぶりに会ってもすぐに昔の仲間に戻れる、同期の良さを感じました。来年度以降も続けていきたいと思っているので、また、ご参加ください。

明鐘会の幹事学年としての責務は終わりますが、来年度の幹事学年である隆明会の活躍を期待するとともに、応援しています。





## りゅうめいかい 隆明会 平成6年卒

### 三保谷 建介

明治高校平成6年卒同期会「隆明会」の懇親会が令和元年12月7日に神田淡路町のレストランバー「OAKSお茶の水」で開催されました。貸切の会場には39名が参加。山田先生、柴田先生、並木先生、西村先生、山口先生と今迄に無い程の多くの恩師の方々をお迎えし、また栗野先生の卒業年の翼明会(昭和49年卒)から大前実之先

輩にもご参加を頂きまして、前年を上回る規模と相成りました。今回はこの会の為に、遠く宮城県や和歌山県などから足を運んでくれた同級生もあり、約四半世紀ぶりの再会を喜ぶ輪があちこちに出来ました。

総明会の活動は我々の1年上の明鐘会の先輩方が、このコロナ禍の厳しい状況下においても幹事学年としての様々な作業を進められております。我々隆明会も来年度の幹事学年の務めを果たすべく、着々と準備を推し進めて参りたいと思いますので、宜しくお願い申し上げます。

隆明会は平成6年卒の同級生を引き続き集めています。

是非とも三保谷建介 mihoya@mtb.biglobe.ne.jp 携帯: 090-8740-5574 までご連絡をお願いします!!

### 平成7年卒 櫻井 勝也

親愛なる2期上の小岩井氏から、久しぶりにご連絡をいただき、何かと思ったら、総明会会報の寄稿依頼でした。そういうわけで、初めて寄稿させていただきます(笑)。

昨年4月に開催した「浅草ちゃんこ場」での初開催の同期会。前号吉田君の原稿にもあった通り、頭髪やお腹まわりの激変に、卒業以来の再会という与件も拍車をかけ、大変な笑いと盛り上がりを見せました。毎年の開催はもちろん、発展的開催を誓い合った21名でしたが、コロナ禍ということもあり、今のところ本年は自粛中。

かいう私も、今年のOB会の前哨戦を同期の古川君・小倉君・佐藤君と今年3月、スモール同期会を企画し、本番への地ならしをし、再会を期していたわけで、東京五輪と共に、先行きが見えないのは残念でしかありません。現在は、先述の吉田君を中心に、同期SNSでつながりを広げようとしています。

「明治高校平成7年卒・赤い上履きの会」facebookグループも52名(2020年8月現在)で、母校の活躍や近況報告、同期でのスモール集会報告など、ざつぱらんにやりとりしています!

同期の皆との笑顔の再会、そして、我々同様、お歳を召された先生方をお呼びした中でのOB会を心より祈念して、日々を安心安全に留意して過ごしてまいりましょう! 「明治高校平成7年卒・赤い上履きの会」SNS同期会へのエントリー、どしどしお待ちしております!!



きょうがくかい

## 共楽会 平成23年卒 三浦 直人

新型コロナウイルスの影響で、現役生徒の皆さんが楽しみにしていた数々のイベントが、中止・延期・縮小開催等になってしまったかと思います。実は、私たちが高校2年生だった2009年度にも、インフルエンザの世界的な流行で、各種イベントに大きな影響が出たことがありました。もう10年以上前のことになりますが、現役生徒の皆さんが「そこから何かヒントを得られるかもしれない」と思いましたので、少し当時のことを振り返ってみます。

この年のPTA会報をめくってみると、2学期には、明治中学高等学校全生徒の4割以上がインフルエンザにかかり、各学年で学年閉鎖・学級閉鎖が相次いだことが分かります。班部活動も停止となりました。中でも紫紺祭(文庫委員長は同期の落合さん)の中止、球技大会(実行委員長は同期の菅原さんと殿崎さん)・体育祭の延期には、多くの生徒ががっかりしたのではないかと思います。

ただ、延期や中止によって、準備してきたこと、考えてきたことが、ゼロになるわけではありません。そこからまた、制限のもとで何が出来るか、という新たな議論や活動が生まれてくるのも、例外的な状況に直面した年ならではのことで考えています。

この時文化部では、紫紺祭の代わりとなる「文化部合同成果発表会」を企画し、保護者会に合わせ、紫紺ホール前でささやかな展示発表を行いました。1年上のあるクラスの先輩方は、紫紺祭で上演予定だった「ライオンキング」を、後日自主上演したと聞いています。また、球技大会・体育祭は、最終的に、時期をずらして実施することが出来ました。この原稿を書いている2020年8月現在、新型コロナウイルスが収束する見通しは立っていませんが、現役生徒の皆さんが、イベントの延期や中止にめげず、そこから様々なオルタナティブを生み出していくことを期待し、応援したいと思います。

## 平成25年卒 押田 華穂

いつもお世話になっております。平成25年卒業の押田華穂と申します。在学中は応援指導班に所属しておりました。大変な世の中ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。多くの人が明るい年になると予想していた2020年は、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態により、五輪開催の年にも拘らず、海外渡航は勿論のこと、人と直接会うことさえ難しい世の中となりました。お仕事でも大変な思いをされている方も多いと思います。私自身、羽田空港で働いていますが、新型コロナウイルスによる影響を、日々身を持って感じております。そんな中でも、明高の同級生と一緒に、流行りの「リモート飲み」を行い、転勤で地方にいる為、普段は中々会えない友達と近況報告をし合うといった、明るく楽しいこともありました。

さて、つい最近明治高校を卒業したと思っていた私達、平成24年度卒の多くは、社会人4年目の26歳という歳になりました。(大学院に進学した同期や大手の会社に入社したものの、自分の夢を追い、一念発起、留学に挑戦している同期もいます!)さらに、明治高校の同級生同士で結婚する人も出てきました。明治高校は男子校! という認識が強い先輩諸兄におかれましては、驚かれる方も多いのではないのでしょうか。因みに、私の父もそのひとりです。

余談にはなりますが、在学中は頭の悪さ並びに素行の悪さにより、栗野先生や尾崎先生、小西先生や横山先生など、数え切れない程多くの先生方に親子共々、大変御迷惑をお掛けしました(笑)。

ステイホームが叫ばれる中、同期会など、大人数で集まることが出来ず、寂しい気持ちはありますが、明治魂を忘れずに「前へ!」向かっていけたらいいと感じます。

## 平成29年卒 明治大学4年 小栗 未琴

私は明治大学野球部でマネージャーをしています。高校時代は応援指導班に所属し、野球部をスタンドから応援する一員でした。そして3年前、応援だけでなく野球をする選手を支えたいという思いで入部を決めたことを覚えています。本来であれば春季リーグ戦、全日本大学野球選手権が開催され、最後の秋季リーグ戦に向けて夏の練習に励んでいるはずでした。しかし、コロナウイルスの影響で春季リーグ戦は延期、全日本大学野球選手権は中止、約3か月練習が禁止となり大学ラストイヤーの時は止まってしまいました。現在は感染防止に努めながら練習を徐々に始めることができ、少しずつ止まっていた時間が進み始めたように感じます。この約3か月で練習、試合ができることは当たり前ではなく多くの方の協力があったことでとても恵まれたことなのだと改めて気づくことができました。皆さんにリーグ優勝・日本一という明るいニュースを届けることができるよう、リーグ戦が開催できることを信じて練習に励みます。総明会会員の皆様に少しでも応援していただけると幸いです。

硬式野球部はコロナウイルスに負けず、前へ進み続けます!



## 令和2年卒 明治大学1年 千鳥 紗英

長かった梅雨がやっと明けたら途端に猛烈な暑さとなり、感染症対策のマスクや換気をしなくてはならず、今年の夏は例年以上に暑さが身にしみる季節になってきました。

私は、令和2年に卒業した者で、今年度から総明会評議員の一員にならせて頂いております。例年とは異なる短縮での卒業式を終え、入学式は中止、大学には一度も登校したことが無い学生もいます。友達がいらない中でのオンライン授業のスタートはとても不安な部分が多く、毎日の授業と膨大な課題に取り組む日々が続いておりました。そんな中で、母校明治高校での学びは大学生生活で大いに役立つ事が出来、レポート諸々一つずつ着実に進めて参りました。3年間での学びは、私にとって多くの選択肢を与えて頂き、自分自身と向き合い、将来やりたいことを明確に決める事が出来ました。大学生活では、その様な事の専門的知識を深めることや、将来の為に必要なことを自主的に挑戦していく所存で御座います。又、アルバイトなどこれまで出来なかった社会経験を積んでいく事で、4年後学生生活を振り返った後に、学問のみでなく何かをやり切ったと言える様な生活を過ごしていきたいと考えております。

諸先輩方におかれましては、この様な世界事象で不便な事が多いとは思いますが、益々の御活躍を祈念致しております。

私も、母校明治高校のために全力を尽くしていく所存で御座いますので、御指導、御鞭撻の程よろしく願いいたします。





## 応援団OB会

副幹事長 今井 高志 平成5年卒

我々応援団OB会も、コロナ禍の下、活動が自粛されてしまった1年となりました。本年度の活動としては、年末の「望年会」、2月の「紫紺の下に」までは従来通りの活動及び現役支援を行うことができました。しかしながら、それ以降の活動は、春合宿の中止、各運動部の春季大会・夏季大会中止により、応援活動がで

きない年となってしまいました。それに伴い、我々OB会の活動も制限された年でした。

例年6月に開催しているOB会定時総会も自粛となりましたが、年1回発行しております会報は例年のごとく発行し、OB会員全員との繋がりを保っております。また今年は、不定期に発行しております名簿を更新し、新たに発行をいたしました。コロナ禍の自粛期間中でもできる活動であり、OB会員相互の繋がりを支える大事なインフラを一新することができました。現在名簿に記載されているOB会員は総勢約300名となり、昭和卒が約150名、平成卒が約140名、令和卒が約10名となっております。

コロナ騒動が落ち着き、総明会の皆様、現役とともに、スクラムを組んで、大きな声で校歌を歌える日常が、1日でも早く戻ることを願っております! 「声高らかに歌わかな〜 明治高校校歌!」

## 放送班OB会

宮田 健 昭和57年卒

放送班OB会のうち、故田村晴彦先生に教えを受けた有志で、毎年先生の眠る港区三田の長久寺へ墓参りと懇親会を行っています。命日(5月17日)に近い5月の第3土曜日、田町駅前のコーヒー店前に16時に集まるのが恒例です。

さて、今年はコロナ禍による緊急事態宣言真っ只中。どうしたものかと悩む中、オンライン墓参りに挑戦することにしました。当日は、スタッフとして4名がお寺に向かいますが、いつもの花屋さんには残念ながらコロナで臨時休業中でした。

オンライン墓参りの参加は残念ながら2名でしたが、今後遠方からの参加も可能になるのではないかと、新しい生活様式に期待もできました。何より、故田村先生は、新しいもの、新しい技術が大好き。きっと笑いながら、いや、ご自身でやってみたいと悔しがりながら見ていただいたのではないかと思います。恒例の懇親会も、今回はリモートで! おかげで、遠く関西からの参加もあり、楽しい時間を過ごしました。

これからも、放送班OBに限らず、田村先生にゆかりのある方にはリアルでも、リモートでも気軽に参加して頂きたいと思います。次回は令和3年5月15日(土)です。リモート参加希望の方はご連絡ください。お待ちしております!



## 剣道部OB・OG会 けんしんかい 見心会

羽田 郁雄 昭和52年卒

見心会では2月15日に総会を行い、これまで14年間会長を務めてこられました矢光先輩のご退任を受け、鈴木幸男先輩(昭和44年卒)が新会長に推挙され満場一致で就任が決まりました。鈴木会長の下、学年幹事会とOB・OG合宿を年一回開催する、現役への稽古指導にできるだけ参加して交流を持とうという目標を立て、一致

団結いたしました。また、以前から見心会の課題として掲げておりました「若返り」も少しずつではありますが進めることができいております。さらなる若手の参加を期待しております。

以上のような方針を立てたものの、剣道界において新型コロナの影響は大きく、ほとんど稽古ができないというのが実情です。非常事態宣言解除後、少数のOBが集まり稽古をしておりますが、口を手作りの手拭いマスクで覆い、アイガードとマウスガードを装着した面をかぶり打ち込みをする。感染は防御できるものの呼吸が十分できず、また面の中が熱く15分程度しか体力が持たない、そういうような状態です。現役も人数制限をして少しずつ稽古を始めているということですが、なかなか私たちOB・OGが稽古に参加する状態ではないというのが現状です。一日も早く収束し、元の生活に戻ることを祈っております。

## 野球部OB会 明球会 めいきゅうかい 会長 一泉 二郎 昭和51年卒

今回は今夏の明球会会報にも掲載致しました私の尊敬する硬式野球部加藤和幸監督のご挨拶文(Summary)をお載せ致しました。

### 夢に向かって!!

甲子園出場だけが夢ではありません。しかし甲子園出場は夢でもあります。その夢に近づく為にはどうするか。それはこれ迄と同じように、一步一步ステップアップし、技術を覚える為に何百回と繰返し反復練習して、工夫して技術を自分のものにする。それが、9回裏のサヨナラホームランの「一振り」、そして9回裏の2アウト満塁3-2からの勝利の「一投」の一球になると思う。人生においても通じる事だと思います。これは私の師匠江藤慎一氏の教えである「一球百練」に繋がっている。「野球の修業に楽はなし」の精神を身に付け、選手達が本気になって努力を行った先に道が開けるのではないかと思います。私は歳を重ねる度に、夢が膨らんできています。

私は高校3年生で「1」エースナンバーをもらいながらも最後の試合は投げずに高校野球は終わってしまいました。大学に入り野球を続けましたが、肩を壊し野球人生は終わったと思いました。

昭和60年に江藤慎一氏が日本で初めて日本野球体育学校を開校し、私は30才の時に天城湯ヶ島の門をたたきました。その後、日本野球連盟に加盟してクラブチームで2回日本一になり、ヤオハンジャパンという企業チームになってからは2度都市対抗野球に出場し、2度目の出場の際には監督として采配をし、私の野球人生の一つの「夢」は叶いました。その後親会社の倒産を経験し、指導の道は個人的な指導にかわっていききました。

昨年65才で母校の監督になり、その時から師匠から教え込まれた野球を母校の選手達に伝えて行きたいという思いで進んでいます。そうして行く先の甲子園出場は夢でもあるが、何より素晴らしい野球人、人間を育てて行きたい。選手達の人生に素晴らしい未来を作りたい。それが私の夢です。

## スキー部OB会 明雪会 めいせつかい

高橋 建太 平成5年卒

今年度幹事学年の高橋と申します。

私が初めて明雪会に参加したのは高校Ⅱ年生のときだったかと思います。確か、日比谷公園にある松本楼での開催だったと記憶していますが、副部長として、初めてお会いする大先輩方を前にとても緊張しつつ、高校生の私にはたいそうな御馳走に心踊らせていたのを覚えています。

当時、都高連が発行するA5判くらいの「記録集」の冊子があって、そこには都大会等の入賞記録が収められていました。

過去大会の入賞者として明治高校スキー部の大先輩方のお名前も掲載されており、(私の中で勝手に「伝説」となっていた)先輩に、明雪会の会場で初めてお会いできた感激は今も忘れません。

数年前、久しぶりに明雪会に参加させていただきました。会場は駿河台キャンパスにあるリパティタワーの最上階でした。

一緒に競技に励んだ先輩・後輩はもとより、大先輩方や、卒業間もない後輩たちの顔も見られ、楽しい時間を過ごさせていただきました。

活動報告のため参加していた現役部員のみなさんも楽しそうで、世代を超えたつながりを感じてくれていたようでした。

毎年でも、人によっては数年後・10数年後でも、やっぱり帰ってきてしまう明雪会。そんな魅力が、スキー部にはあります。

## 卓球部OB会 山崎 泰夫 昭和42年卒

卓球部OB会は、昭和55年に倉島先輩(昭和37年卒)の鶴の一声により高橋先輩(昭和38年卒)、佐藤先輩(昭和39年卒)、秋田先輩(昭和40年卒)その他の方々のご尽力で第1回の総会が開かれました。以来、毎年欠かさず開催して昨年40周年を迎えることが出来ました。

今年も10月に第41回目の総会を開催する事が予定されていますが、新型コロナウイルスが蔓延している現在の状況では実現できるか否か心配されています。この会の目的は、「会員相互の親睦を図り 母校卓球部の現役強化の為に尽力するとともに、母校の発展に協力するもの」となっています。これまで、またこれからも微力ながら貢献できれば良いと思っています。

初代会長の宇田川先輩(昭和30年卒)、二代目会長の高橋先輩に続き、今年まで三代目会長として佐藤先輩が務めてこられました。今年の総会では会長が交代する予定になっています。新会長に就任が予定されているのが、1981年の全日本チャンピオンで現在 国際卓球連盟副会長で日本卓球協会の副会長も務める前原正浩氏(昭和47年卒)です。

近年 注目度が上がってテレビなどでも目にすることが多くなってきた卓球ですが、20年程前から小学生以下の逸材を発掘・強化すると同時に指導者育成と保護者教育に取り組んできた結果、水谷・福原・石川・伊藤・張本選手らが世界トップの中国選手を破る力を付けてきています。また、大会の演出なども新しいものを取り入れてテレビ受けするようショーアップした結果、認知度も人気度も大幅に高まってきました。

これらはみな、元世界チャンピオンの荻村伊智朗氏の遺志を継いだ前原氏を中心とした指導陣の功績です。日本卓球界と同じように、総明会も明卓OB会も発展していけるように切に望んでいます。





## バレー部OB・OG会

事務局長 樋田 哲次 昭和52年卒

バレー部OB・OG会は、昨年は2つの行事を行いました。

7月8日に明大リパティタワー 23階のサロンにて総会を開き19人のOBが集いました。定例の会計報告、事業報告のほか、昭和54年卒の熊澤氏が事務局次長に就くことが、承認されました。

9月23日に、明治高校にてバレーボール大会を開催し、23人のOB・OGが集まりました。特に5人のOGが来てくれて、現役女子チームと熱戦が繰り広げられました。OB・OG会のもうひとつのイベントである3月の「卒業を祝う会」は、コロナ感染防止のため、残念ながら開けませんでした。今年度は4月以降、現役の試合もできませんでしたが、9月6日の女子の全日本高校選手権予選から再開されました。男子は、9月22日の同選手権大会一次予選から再開される予定です。高校Ⅲ年生は、高校生最後の試合となります。健闘を期待します。

OB・OG会の今年度のイベントは、コロナにより、開けません。OB・OGの皆様、健康に十分留意され、また、笑って、バレーボールや、懇親会ができるまで、我慢しましょう!

バレー部OB・OG会 HP <https://meikouvolley.jimdofree.com/>

## フェンシング部OB・OG会

中村 信也 昭和45年卒

2012年に復活したフェンシング部OB・OG会は、例年7月に総会・懇親会を開催し、若手のOB・OGを交えて旧交を温めてきましたが、2020年開催は新型コロナの終息の兆しが見えず、予断を許さない状況にあることから、残念ながら中止となりました。

ところで、母校フェンシング同好会は現在、高校Ⅲ年生が4名、高校Ⅱ年生が1名、中学3年生が1名、中学1年生が1名、計7名の現役メンバーで活動していますが、新型コロナの影響で3月から3か月間の休校により部活動は禁止となり、また、4月以降に開催予定であった5大学付属大会、関東大会予選、インターハイ予選等の対外試合はすべて中止となりました。

この結果、高校Ⅲ年生は高校生活最後の大会に参加することなく、現役を引退することになるため、OB・OG会では来年3月までに新型コロナの状況を見つうえで、「引退試合」を開催したいと考えており、その時は特に若手のOB・OGには是非参加していただき、フェンシング同好会のパワーで新型コロナを完全に吹き飛ばしたいところです。



左から小宮コーチ、横山先生、現役学生



練習風景



## バスケットボール部OB・OG会

山下 康彦 平成5年卒

バスケットボール部OB・OG会では現役の高校生／中学生を支援するために  
1、現役の指導協力 2、春／夏合宿での指導協力 3、大会での応援の3つをメインに行なっております。

現役の支援はOB・OGが個別に実施するのも良いのですが、「OB・OGが一致団結することで持続的支援が可能になる」をモットーにOB・OG同士の親交を深めるべく毎年以下のことを実施しています。

- バスケットボールトーナメント(秋) OB・OGガチンコトーナメントを実施(18才から50才代まで参加)トーナメント終了後は選抜メンバーで現役高校生とも対戦。
- ゴルフコンペ(秋) バスケットをしないOB・OGも参加できるよう開催。
- OB・OG総会(冬) 新OB・OGを紹介し、縦のつながりを深めながら会食。引退後もさらなるつながりを深めようということで2017年度から開始したのが
- OB・OGチームを発足し、チームでの区民大会への参加 夏のシニア大会(40才以上)・・・前島先生も特別参加

本年は新型コロナウイルス影響が大きく、例年実施している活動が制限される可能性がかなり高いですが、オンラインなど駆使して、バスケットボール部はOB・OG一丸となって、現役の「前へ!」を支援していきます!!



## 歴史研究部OB会

西場 健介 平成3年卒

新型コロナウイルスが猛威を振る緊急事態宣言の最中、36年間歴史研究部顧問であられ、今年3月にご退任された栗野哲也先生へこれまでの感謝を込めて慰労会を催し、記念品をお渡ししました。今年6月に記念講演会・懇親会を明治大学駿河台校舎内にて盛大に催す予定でしたが、昨今情勢を鑑みて一旦延期することになりました。

6月23日、日本橋「吉野鮎本店」にて、鴨下会長・土田事務局長・石渡さん3名で、栗野先生をお迎えし、終始和やかな雰囲気でご宴会も進みました。事前にメッセージ葉書をOB各位へ送ったところ、60枚を超える返信があり、思い出深く読まれつつ感動されていました。また研修旅行の話題も出て、「OB会で行きたいね」とのお話しも。幹事会打ち合わせの折にもそんな話は出て、『大人の研修旅行』なる企画も将来的にはあるかもです(笑)。我々世代は、研修旅行最終日の夜、京都駅前にある京都タワー前での回顧や栗野先生の直下型カミナリが懐かしく思い出されます(苦笑)。

時節柄、大人数で集まることは困難ですが、皆が集える日を楽しみに、まずは事態収束を願うばかりです。今回幹事学年各位のこの機会での結びつきを応援いたします。

## 吹奏楽班OB・OG会

深井 重男 平成2年卒

1月26日(日)三軒茶屋にある昭和女子大学構内の人見記念講堂にて、現役後輩達の第61回定期演奏会が開催された。OB・OG会としては例年同様コンサート運営の手伝いを無事に終え、調布駅前の中華料理店へ移動して総会と懇親会を無事に開催できた。在学中は楽器伴奏をしているので、卒業して晴れてこの素晴らしい校歌の歌詞を斉唱できる訳で、今年も出席者・関係者で声高らかに歌ってお開きとなった。今年度の幹事学年にも御挨拶を頂いたが、その直後からコロナ騒動となり今年度は校歌を歌っていない。現役も3月に予定していた3度目のウィーン遠征が中止、新年度も夏の吹奏楽コンクール大会や野球応援など全て中止となっている。顧問で中学教頭の鈴木正人先生とは直接お会いすることは殆どないが、連絡だけは密に頂いている。

現役は学校再開後は細々とではあるが練習を再開し、校内にて少人数での発表会を実施したとのこと。紫紺祭も縮小されたが無事に終わられた様子。新しく中学1年生が18名ほど入班してくれたそうで、我が母校に関してはメンバーの空白は何とか避けられそうだ。活動はストップしているが、そんな中でも卒業生の就職内定の知らせや、OGの御結婚など嬉しいニュースが掲示板に届くと、一日も早くまた直接お会いしたいと思う。年が明けて第62回定期演奏会の開催は現在模索中で、開催できても保護者のみの来場など制限がかかるかもしれない。OBOG会の総会・懇親会も延期や中止の可能性が大きい。また全ての無事が確認されまして、総明会の皆さんと校歌を御一緒にできる日を楽しみにしております。



## 地理研究部OB・OG会

松浦 毅 平成3年卒

地理研OB・OG会は二年に一度、総会・懇親会を開くこととしており、今年度は開催年にあっていましたが、コロナ禍により延期せざるを得ない状況となっています。このような情勢の中ではありますが、OB・OGにとってうれしい知らせが二つありました。

一つは、地理研OBの和田康喜さん(平成8年卒)が明高の社会科教諭として着任されたことです。検定教科書の執筆にも参画している気鋭の地理教育者であり、今後のご活躍が大変楽しみです。

もう一つは、現役部員たちにより制作された地図ポスター作品が、「私たちの身のまわりの環境地図作品展」(環境地図教育研究会主催)にて日本地理学会長賞を受賞したことです。

作品は、2019年3月に実施した高知日曜市での調査結果として、出店者への聴き取りやお店での販売体験等を通して肌で感じたことをまとめた力作です。地理研が創部以来70年間実践してきた「行って、観て、考える」活動が、末永く「前へ」向かって続けられるよう、引き続きOB・OG会としても微力ながら支援をしていきたいと思ひます。





## 第10回ヤマダ大感謝祭(延期)

三保谷 建介 平成6年卒

平成23年(2011年)に始まりました「ヤマダ大感謝祭」も今年で節目の10回目を迎え、駿河台の紫紺館「フォレスト椿山荘」で4月25日に盛大に開催する筈ではありましたが、このコロナ禍により延期となつてしまい、この原稿を執筆している7月時点でも今後の見通しは立っておりません。例年通りに山田先生、そして縁のある先輩・後輩の皆様方とお目に掛かれる事も叶わず、非常に残念な思いであります。また、通常なら春の大型連休を挟む形で集まりを開催される皆様方の同期会や班クラブOB・OG会の幹事の方々、とりわけ総明会総会懇親会の準備に当たられる役員と幹事学年の明鐘会の皆様のご苦労如何ばかりかと心中お察し申し上げます。

このような状況下、これからは新たな親交の深め方が求められていると考えます。「ヤマダ大感謝祭」も総明会や各同期会、班クラブOB・OG会と連携し、現役生や明治中学・明治高校を盛り立てるお手伝いが出来ればと思います。今後の予定等につきましては主にFacebookでお知らせ致します。

詳しくは三保谷建介(mihoya@mtb.biglobe.ne.jp 携帯:090-8740-5574)までお問い合わせ下さい。

本年は例年と異なり、事前に入稿予定のご連絡等を頂きました団体様を除きまして、8月末までに入稿確認できました原稿を掲載しております。何卒ご了承下さいますようお願い申し上げます。



開催は元々の予定であった11月15日(日)の15時から、第一部として安蔵校長のご挨拶と基調講演を行い、第二部として就活を終わったばかりの20代の経験者を講師として選抜した。

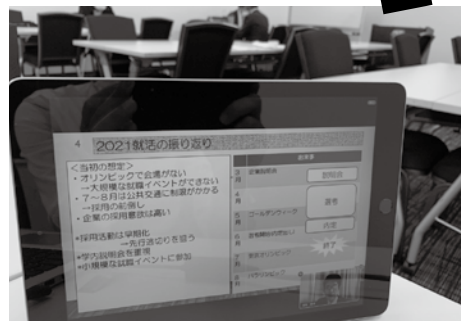
幹事学年としてスタートした直後、全世界が誰も予測していなかった新型コロナウイルスが大流行となり、毎年ホテルなどで実施されていた懇親会も開催出来ず、通常であれば会場で実施されていた就活会も開催不可能となった。そこで何かしらのお役に立てることは無いかということで、「系勤務のメンバーが多かった幹事学年の明鐘会からオンライン就活会の支援をさせていただく運びとなった。ただ、「系」とはいうもののイベント開催が得意なメンバーがいるわけではなく、事前の受付や当日の開催、そして事後のアンケートなど必要なシステムを一から探した。約10の予約受付サイトを価格や使い勝手、機能などを見極めて選別し、当日のオンラインツールは高校でも使い慣れているZoomで実施することを決定した。

急ぎ集客に奔走することとなった。応募が少なかつた理由としては学校がないので、「校長先生からのメール見た? 就活会行く?」などという会話がされなかつたことが考えられたが、こんな時に頼りになるのが班部活動の縦のつながりで、先輩に依頼して参加対象の大学生2、3年生に繋げてもらったり、OB・OGがいるグループに連絡してもらったり、参加者に横に広げてもらったりと、集客を必死に行い、40名を超える応募を獲得することができた。

迎えた本番、幹事学年以外の講師は全てリモートでの参加となった。

明鐘会はシステムトラブルやネットワークトラブルが無いように、都内の会議室を借りて感染予防対策も行い集まった。準備のいかにもあり、基調講演を含む3つの業界別のセッションをトラブルもなく実施することでき良かったと思っている。

来年の幹事学年である隆明会にもこのノウハウを引き継いでいきたい。



客を開始したが、これまでと違ってオンラインなのでより参加しやすいだろうと言うことで、多くの参加者がいると見込んでいた。しかしながら登録開始から1週間程度で5分の1程度の応募となり、我々は

特集 前へ! ②  
明鐘会コロナ奮闘記  
平成5年卒 明鐘会 就活会副委員長 山下康彦

番外編

# 令和2年度 総明会活動報告

## 令和2年度 総明会 役員一覧

(敬称略)

委員会・役職		年 卒	氏 名	委員会・役職		年 卒	氏 名
名誉会長		昭和36年	向殿 政男	会報・M発刊総括	担当理事	平成 2 年	遠藤 克彦
名誉顧問	明治大学理事長		柳谷 孝	会報構成編集	副委員長	昭和62年	高橋 雅之
名誉顧問	明治大学学長		大六野 耕作	広報DATA管理	副委員長	平成 2 年	石渡 浩司
顧問		昭和29年	山浦 晟暉	ホームページ	副委員長	平成 3 年	山口 一郎
顧問		昭和32年	山崎 敬生	幹事学年指導	副委員長	平成 4 年	木下 泰之
顧問		昭和41年	尾島 育四郎	M編集	副委員長	平成23年	三浦 直人
顧問		昭和43年	佐久間 洋一	企画委員会	委員長	昭和54年	志村 和哉
顧問		昭和44年	服部 雄二	チャリティゴルフ	担当理事	平成元年	小柳 貴裕
顧問		昭和44年	関谷 芳久	明朗会	担当理事	平成 2 年	今泉 仁
顧問		昭和45年	吉田 耕太郎	チャリティゴルフ	副委員長	昭和63年	安川 琢哉
顧問	明治高校校長		安藏 伸治	チャリティゴルフ	副委員長	平成 2 年	堀江 健司
会長		昭和51年	井家上 哲史	明朗会	副委員長	平成 4 年	福田 浩茂
副会長		昭和50年	山崎 秀樹	明朗会	副委員長	平成 4 年	莊司 康夫
副会長		昭和59年	平野 一哉	組織委員会	委員長	昭和61年	鶴飼 友義
専務理事		昭和56年	衛藤 雅一		副委員長	昭和58年	高橋 浩
常務理事		昭和50年	近藤 敏彦		副委員長	平成元年	福島 維規
会計		昭和59年	田中 重幸		副委員長	平成元年	村嶋 健児
事務局長		昭和61年	土田 正昭		副委員長	平成 2 年	瀧 慎一郎
副事務局長		昭和60年	渡辺 智郎	総務委員会	委員長	平成 2 年	長谷川 剛史
副事務局長		昭和63年	尾崎 博之		副委員長	昭和63年	光岡 孝之
総会委員会	委員長	昭和61年	栗本 宣長	名簿委員会	委員長	昭和61年	野津 真男
	副委員長	昭和63年	山下 征隆			平成 2 年	深井 重男
	副委員長	平成元年	嶋田 剛久			昭和56年	嶋下 裕彦
	副委員長	平成 2 年	高山 剛	監事		昭和44年	中河 孝樹
広報委員会	委員長	昭和57年	関川 一浩	監事		昭和56年	狩野 智雄
ホームページ総括	担当理事	昭和59年	島村 武史				

## 令和2年度 総明会 評議員一覧

## 同期会

卒業年	名称	氏名	氏名
昭和12年		中富 光国	
昭和15年	明中26会	三笠 光人	
昭和19年	明中28会	新田晃太郎	
昭和21年	午巳の会	小林 昭雄	
昭和24年		内藤 功	
昭和25年	明二会	小田川玉城	
昭和26年	猿楽会	熊井 実	
昭和27年	明高会	米山 耕右	
昭和28年	明窓会	芦田 一郎	佐藤 欣生
	八明会(八丈島高校)	持丸 孝雄	高橋 和夫
昭和29年	29会	山本 峰司	
昭和31年	明栄会	佐藤 健一	大出 育男
昭和32年	明治会	嵯峨 徳治	太田 喜久
昭和33年	三三会	鈴木 寿雄	藤田 義茂
昭和34年	旧雨会	秋山 義昭	希代 章
昭和35年	珊瑚の会	倉林 貞夫	天野 洋一
昭和36年	明駿会	加藤 眞義	山田 和孝
昭和37年	37会	戸谷 誠樹	中村 哲士
昭和38年	二年に一会	三浦 昭生	服部 紀夫
昭和39年	三九会	佐藤 仁	大関 健一
昭和40年	明優会	阿部 正行	堺 清人
昭和41年	41明友会	廣瀬 準	菊本 哲也
昭和42年	M41	後藤 孝男	新村 秀男
昭和43年	紫讃会	志村 一夫	小田嶋保男
昭和44年	男坂倶楽部	寺田 康夫	薬谷 豊
昭和45年	獅子の会	比留間竹郎	上野 隆史
昭和46年	明潮会	木村 茂	金子 敏一
昭和47年	四七四七同志聯会	戸張 毅	内田 茂
昭和48年	波の会	佐老根一介	雨海 重明
昭和49年	翼明会	高瀬 眞弘	大前 実之
昭和50年	明紫会	三森 勲	兩宮 弘典
昭和51年	明々会	小林 祥悟	山田 眞也
昭和52年	男子校根性組	佐藤 大英	角谷 幹夫
昭和53年	校友会	加藤 裕之	竹越 利之
昭和54年	明誠会	荒井 信之	矢ノ目 忠
昭和55年	紫魂会	吉口 市郎	渡辺 裕之
昭和56年	明翔会	寺村 一義	蓬田 裕一
昭和57年	明魂会	岩崎 広人	蓮中 幹浩

卒業年	名称	氏名	氏名
昭和58年	明輪会	秋間 聡	高橋 浩
昭和59年	明心会	伊藤 稔	渡邊 文夫
昭和60年	闘紺会	和田 直弘	沢澤 誠
昭和61年	新世輝	横山 一実	高橋 徹
昭和62年	明猿会	赤岩 大輔	中澤彰次郎
昭和63年	昭和戊辰乃会	保坂 紀宏	菊米聡一良
平成元年	平成改元会	横島 高之	杉山 純也
平成2年	明愛会	大崎 裕和	神保桂一郎
平成3年	明仁会	山口 一郎	斎藤 直宏
平成4年	快汗、どすこい塾	小畑 啓	福田 浩茂
平成5年	明鐘会	安藤 高利	長野 吉克
平成6年	隆明会	三保谷健介	金子 達朗
平成7年		石田 頼史	熊田 敦史
平成8年		青木 大樹	三村 具永
平成9年	紫雲会	小谷 健志	香川 満洋
平成10年	紫98俱	秋山 光億	平田 健
平成11年	明哲会	石川 一仁	戸邊 寛
平成12年	明瀑会	玉木万理夫	保科 大輔
平成13年	明治21	大橋 弘頌	岡庭 朋哉
平成14年		上原 康仁	下田 良征
平成15年		大川 武介	雄一郎
平成16年		杉田 将平	徳竹 正憲
平成17年		室井 純	荒川 佳史
平成18年	白雲会	山崎 裕貴	角田 隆悟
平成19年		横倉 光輝	大竹 惇
平成20年		渡辺 圭一	早川 慎吾
平成21年		加藤 敦	大森 貴之
平成22年	明雄会	亀屋 将紀	佐藤亨太郎
平成23年	共榮会	平田 裕貴	三浦 直人
平成24年		三浦 彩	市川 陸
平成25年		師岡 忠寛	押田 華穂
平成26年		岡田 尚也	柴田加菜子
平成27年		赤坂 菜摘	渡邊 直人
平成28年		田勢 也子	少式 光
平成29年		佐藤 陸	小栗 未琴
平成30年		今井 紗紀	山田 崇人
平成31年		染谷 早咲	關口 哲平
令和2年		千鳥 紗英	浦山 和之

班クラブOB・OG会

名 称			氏 名	
生徒会本部	徒 会 本	部	(休会)	
応援指導班	援 指 導	班	廣野	宏士
新聞班	聞 班	班	西山	光彦
新吹奏楽班	奏 楽 班	班	齊木	麻州男
図書班	書 班	班	平田	幸彦
放送班	送 班	班	宮田	健
剣道部(見心会)	道 部 ( 見 心 会 )		羽田	郁雄
硬式野球部(明球会)	硬 式 野 球 部 ( 明 球 会 )		世古	俊之
バスケ部	ッ カ ー 部		大室	智
柔道部	道 部		小川	洋一
水泳部(明水会)	水 部 ( 明 水 会 )		芳澤	徹
スキー部(明雪会)	ス キ ー 部 ( 明 雪 会 )		岡本	雅仁
卓球部(明卓会)	卓 球 部 ( 明 卓 会 )		高橋	正侑
庭球部	庭 球 部		奈良部	利昭
バレー部	バ レ ー 部		樋田	哲次
フェンシング部	フェ ン シ ン グ 部		中村	信也
陸上競技部	陸 上 競 技 部		櫻井	勝也
バスケットボール部	バス ケ ッ ト ボ ー ル 部		木戸	基満
囲碁部	囲 碁 部		田島	弘資
化学部	化 学 部		森	八一
物理部(明物会)	理 部 ( 明 物 会 )		上野	雅宏
マンドリン部	マ ン ド リ ン 部		赤岩	大輔
地理研究部	地 理 研 究 部		大塚	和哉
歴史研究部	歴 史 研 究 部		山下	征隆
アイスホッケー愛好会(明水会)	アイス ホ ッ ケ ー 愛 好 会 ( 明 水 会 )		武藤	仁
J R C	J R C		横谷	昌明

昨年1年間ご連絡を取れなかった評議員の方は  
お名前を記載できませんでした。  
お気づきの方は、総明会事務局まで、ご連絡を  
頂けますようお願いいたします。



# 令和2年度活動報告

総明会 専務理事  
衛藤 雅一

令和2年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により総明会活動も、2月7日に開催された第1回評議員会開催後に発令された緊急事態宣言により理事会・評議員会を開催することができず、予算案の承認もいただくことができないという状況下で新年度がスタートいたしました。

学校関係では、3月10日の卒業式は縮小開催となり本部役員の出席ができず、「総明会賞」を卒業式で直接授与することはできませんでした。その後は6月まで学校が休校となったため入学式も中止となりました。緊急事態宣言時には、学校からの要請にこたえアルコール消毒液の寄贈を行いました。緊急性を要することでもありこの決議もオンラインで行わせていただきました。多くの総明会会員の皆様から情報の提供又、手配にご尽力をいただきましたことにこの場をお借りして御礼申し上げます。

対外的な活動では、2月の明大中野校友会「武陵会」との懇親会以降、PTAのOB会である「白駿会」も中止となりました。恒例行事であるチャリティーゴルフコンペ、班クラブOB・OG会、明朗会も会員の皆様の健康を第一に考えて止む無く開催中止とさせていただきます。

例年総会・懇親会当日に開催しております就活会につきましては、11月15日に40名の方に参加をいただき、初のオンライン就活会という形で開催いたしました。

また、11月15日には明治大学創立140周年に際し、100万円の寄付を行いました。コロナ禍の中で総明会は、活動の停滞を最小限に抑えるために新しい試みとしてオンラインによる理事会を開催して、予算案の作成、総明会活動の進め方についての協議などを行ってまいりました。

評議員会は1月以降開催することができず、書面による報告という形をとらせていただきました。11月開催予定の第56回総会・懇親会も総明会会員の皆様の健康を最優先に考え、止む無く中止とさせていただきます。このため総会は、「報告」「承認」というこれまでの形態から「報告」という形をとらざるを得ませんでした。

幹事学年「明鐘会」の皆様におかれましては、「前へ！Go Meiji」というテーマで早くから準備を進めてきていただきましたが、総明会史上初めての総会・懇親会の中止という残念な結果となってしまいました。その分会報誌の作成に注力いただきましたので、ぜひとも「紫紺の詩」をお読みいただければ幸いです。

想定外の波乱の1年となりましたが、新たな総明会の活動様式、様々な課題について検討をすることができたのではないかと思います。来年は新型コロナウイルスも終焉し、従来の総明会活動ができることを期待するとともに、会員の皆様方のご健康を祈念し活動報告とさせていただきます。

# 総会委員会活動報告

総会委員会 副委員長  
嶋田 剛久

本年度、我々総会委員会も組織変更があり、栗本委員長（昭和61年卒新世輝）、山下副委員長（昭和63年卒昭和戊辰乃会）、高山副委員長（平成2年卒明愛会）、副委員長（嶋田（平成元年卒平成改元会）、本間委員（昭和61年卒新世輝）、山崎委員（昭和62年卒明鐘会）、永瀬委員（昭和62年卒明鐘会）、有森委員（平成4年卒快汗、どすこい塾）、牧野委員（平成4年卒快汗、どすこい塾）の布陣にて幹事学年のサポートを行っております。

昨年の幹事学年、「快汗、どすこい塾」による第55回総会・懇親会が令和元年11月24日（日）にハイアットリージェンシー東京にて盛大に開催されましたこと、総会委員会として、ご参加頂きました総明会会員の皆様方に厚く御礼申し上げますと共に、幹事学年の企画運営、心より感謝申し上げます。



小畑実行委員長をはじめ、各委員会の統率で、同期が一丸となり「つなぐMeiji」の薫りを令和へ」をテーマに、こだわった企画での諸先輩方へのおもてなしが功を奏した結果だと確認しております。正に幹事学年のホスピタリティが総会・懇親会の満足度の源だと思えます。

本年度の幹事学年である「明鐘会」のテーマは「前へ！Go Meiji」です。この活動報告の執筆にあたり幹事学年の定例会議事録を改めて読みましたが、同期が一丸となつて準備を開始し、テーマが決まりこれからというタイミングでコロナ問題が発生し、懇親会が中止になるなどの想定外の連続であることが伺えます。そのような中でも、幹事学年は会報を中心に自分たちの軌跡を残すべく努力しております。正に「前へ！Go Meiji」です。

総会委員会としても、微力ではありますが幹事学年をサポートし、with/afterコロナにおけるニューノーマル下での総会の開催について最善の手法を模索できればと考えております。

そして来年度は皆様と懇親会でお会いし、是非一緒に校歌を歌いたいと思います。感染の不安や新たな生活様式でのご不便もあると存じますが、くれぐれもご自愛ください。

# 令和2年度 会計報告

## 総明会 令和元年度 一般会計報告 (自)平成31年4月1日～(至)令和2年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	15,628,922円	会議費	410,400円
新入会員入会金	2,560,000円	交流費(学校、他)	1,276,057円
新入会員永年会費	3,840,000円	会報発送費用	1,659,721円
学年会費	825,000円	事務通信費	125,222円
雑入(会議費、他)	525,000円	各委員会活動費	1,099,934円
設立50周年記念事業	1,200,941円	基金へ組入れ	4,837,075円
預金利息	1,360円	次年度繰越金	15,172,814円
合 計	24,581,223円	合 計	24,581,223円

## 総明会 令和元年度 基金会計報告 (自)平成31年4月1日～(至)令和2年3月31日

基金区分	平成30年度末残金	令和元年度増減額	摘要	令和元年度末残金
事業遂行基金	14,347,206円	652,794円	一般会計から繰入	15,000,000円
財政基盤基金	7,016,000円	2,984,000円	同上	10,000,000円
周年行事基金	0円	1,200,281円	同上	1,200,281円

上記の通り報告いたします。  
監査の結果相違ありません。

令和2年3月31日  
令和2年6月30日

会長 井家上哲史  
監事 中河 孝樹  
会計 田中 重幸  
監事 狩野 智雄

## 総明会 令和2年度 一般会計予算(案) (自)令和2年4月1日～(至)令和3年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	12,330,360円	会議費	490,000円
新入会員入会金	2,560,000円	交流費(学校・他)	1,460,000円
新入会員永年会費	3,840,000円	会報発送費用	1,790,000円
学年会費	930,000円	事務通信費他	440,000円
雑入(会議費・他)	500,000円	各委員会活動費	1,924,000円
雑入(寄付金・利息)	10,000円	財政基盤基金へ組入れ	0円
設立50周年記念事業	1,200,930円	次年度繰越金	14,066,360円
合 計	20,170,360円	合 計	20,170,360円

## 総明会 令和2年度 基金会計予算(案) (自)令和2年4月1日～(至)令和3年3月31日

基金区分	令和元年度末残金	令和2年度増減額	摘要	令和2年度末残金
事業遂行基金	15,000,000円	0円	一般会計から繰入	15,000,000円
財政基盤基金	10,000,000円	0円	一般会計から繰入	10,000,000円
周年行事基金	1,200,281円	0円	一般会計から繰入	1,200,281円

## 第55回 総明会 特別会計報告 (自)平成31年4月1日～(至)令和2年3月31日

収入の部		支出の部	
総会会費収入	2,321,000円	総会関係費	6,176,000円
総明会より助成金	1,754,000円	会報関係費	4,350,000円
寄付・広告	8,919,000円	運営関係費	2,468,000円
合 計	12,994,000円	合 計	12,994,000円

## 第56回 総明会 特別会計予算(案) (自)令和2年4月1日～(至)令和3年3月31日

収入の部		支出の部	
総会会費収入	2,300,000円	総会関係費	6,000,000円
総明会より助成金	1,800,000円	会報関係費	4,300,000円
寄付・広告	8,400,000円	運営関係費	2,200,000円
合 計	12,500,000円	合 計	12,500,000円

上記会計報告は、令和2年3月開催評議員会(未開催)へ提出予定であった理事会承認案に基づき作成しています。



# 広報委員会活動報告

広報委員会 委員長  
関川 一浩

# 組織委員会活動報告

組織委員会 委員長  
鵜飼 友義

新型コロナウイルス感染症により、会員の皆様へ家族、関係者各位におかれましては、大変な苦劳いかほどかと推察申し上げます。

さて、広報委員会は、「紫紺の詩」「M」「ホームページの運営」を柱に活動をしております。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言により、委員会活動も3月～5月までは自粛期間となり、その間「紫紺の詩」「M」発刊の可否、今後の運営方法等を総明会本部と連携をとりながら検討しつつ、6月から本格的な活動を開始してまいりました。

しかしながら、例年とは異なり会議室で集合しての打合せや外部へ赴いての取材等ができないため、従来とは異なった新たな試みである毎月1回のリモート会議、共有サーバーやチャット活用による委員会活動を行っております。

## ・「紫紺の詩」発刊活動

本年も幹事学年「明鐘会」の活動テーマである「前へ！Go Meiji」をテーマに掲げ活動を開始した矢先に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、3月から活動が停止となりましたが、遠藤担当理事を中心に本格的に6月から再開しました。再開にあたり、特集企画・寄稿等構成内容・作成費・発刊時期の見直し等、会員の皆様・総明会活動、皆様の状況をお知らせすべく、本部と

連携を取りながら対応を検討し、会報誌の発刊を目指しました。特に各OB・OG報告の寄稿は、このような状況で例年どおり記事が集まるか不安を抱えておりましたが、例年とほぼ同数の寄稿が寄せられましたこと、御礼申し上げます。

## ・「M」発刊活動

遠藤担当理事のサポートの下、平成23年卒から平成31年卒までの12人（林田こずえさん、高橋凌士さん、三浦直人さん、朝倉貴紀さん、土屋弦さん、岩田滯夏さん、坂本駿太さん、塩田研史さん、垣日菜子さん、高波茉生さん、井畔杏里紗さん、小林麻衣さん）で活動を行ってまいりました。若手会員の皆様にも総明会活動を理解していただけたよう、オンライン形式で議論を重ねました。例年通り、「紫紺の詩」に同封し、皆様の手元に届けさせていただきました。

## ・「ホームページ」の運営

島村担当理事を中心に、総明会活動、現況等タイムリーに情報を発信してまいりました。最後になりましたが、このような状況下にも拘わらず、寄稿・取材・インタビュー・情報提供にご協力をいただきました会員の皆様、並びに学校関係者各位に御礼を申し上げますとともに、無事発刊できましたこと、心より御礼申し上げます。

本年の当委員会の活動は他委員会と同様、新型コロナウイルスの影響を受け、非常に厳しいものでありました。

2月18日（火）、3月卒業予定の高校3年生に向け『高Ⅲ総明会オリエンテーション』を明治高校講堂「鶴澤総明ホール」にて開催。本年卒業生は各クラス男女2名ずつクラス幹事を出すことになり、全部で28名（例年の倍）となる中、総明会の概要を説明するとともに、「3分でわかる総明会」というプリントを生徒全員に配付しました。この時、ダイヤモンドプリンセス号での集団感染が話題となるなど、コロナの足音が日本にも聞こえてくるようになった頃ではありましたが、新たな会員となる学生を前にし、本年の活動に期待感を抱いておりました。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月14日開催予定だったクラス幹事食事は中止となってしまう。思い起こせば昨年の食事会の際、平成31年卒クラス幹事の皆さんが「大学入学前に、2年上のクラス幹事と交流出来る機会があると良いのではないか」という提案をしてくれました。本年は令和2年卒のクラス幹事に加え、平成31年卒のクラス幹事にも参加してもらおうという新しい試みを行う大切な機会でしたので、それが中止となることは断腸の思いでした。

しかし、当委員会のメンバーはそれにめげることなく、若手の意見を中心に知恵を出し合い、令和2年卒の学生が大学入学早々オンライン授業となったことや前述の平成31年卒ク

ラス幹事の意見を踏まえ、5月6日（水）、大學生生活に関し、令和2年卒の新大学1年生の疑問に、ひとつ上の平成31年卒の大学2年生がざくばらんに答える企画「直近2学年クラス幹事Zoom交流会」を開催しました。当日は、Zoomの使い方から、時間割の組み方、サークル活動、留学、アルバイトなど、様々な質問が出され、大学2年生だけでなく、なんと組織委員から答えることも！大学1年生からは「授業が始まらなくて不安だったので、このような企画があり良かった」といった声があったり、当日参加出来なかった方々からも「次にこのような機会があれば参加したい」という反応もあり、大好評でした。後輩を思っで参加し、真剣に後輩の疑問に答えてくれた先輩の熱い思いと頼もしい姿に感動するとともに、異なる学年のメンバーを卒業後すぐに繋ぐことができたこの活動が、今後の組織委員会、ひいては総明会活動の活性化に結びついていく可能性があることを思うと、非常にワクワクいたしました！

そしてこのコロナ禍にあつて、当初は開催できるか心配だった就活会も明鐘会や組織委員会の各メンバーの努力もあり、なんとか開催することができました。私としても語りたい熱い思いは山ほどありますが、本年の就活会については、ご尽力くださった明鐘会さんに御執筆いただきますので、割愛させていただきます。是非そちらの報告をご覧ください。来年はみなさんと顔を合わせて笑いあえることを祈念して活動報告とさせていただきます！

# 名簿委員会活動報告

名簿委員会 委員長  
鴨下 裕彦

名簿委員会が管理している会員名簿は、毎年皆様へお届けしております。会報『紫紺の詩』の発送業務をはじめ、評議員会やゴルフ、明朗会等の行事の案内をする情報源となっております。今年度は新型コロナウイルスの影響で、総明会の行事はほぼ中止となりましたので委員会の活動としては情報提供の機会が少なかつたです。同様に同期会の開催も控えられたように宛名シールの依頼も開催案内のためではなく、延期もしくは中止の案内のためということでした。一方、住所変更、問い合わせなどの数は例年通りであったように思います。

マスク、消毒液の品薄から始まり、ソーシャルディスタンスなる言葉を初めて聞いたときは何のことやらと感じましたが、今となつてはどこへ行っても消毒用のアルコールは置いてあるしマスクはおしゃれになつて、ソーシャルディスタンスも日常化しています。アクリルの衝立と3密を避け、学校の授業も会社の仕事も飲み会すらオンライン。小生も何回かオンライン飲み会をやってみましたけども面白くない。昭和生まれの人間には新しい生活様式はどうもなじめないようです。

こんな時代だからこそ、どんな手段であれ同窓会につながっていることが支えになると思います。このコロナ禍がいつまで続くか不明ですが、収束したらまたみんな中高生のように大きな声を出して騒ぎま

しょう。その日のためにも会員の皆様の名簿が大事なのです。

今後も引き続き、名簿の管理を行いますので、お引越しの際は勿論、同期の方の転居の情報がございましたら是非ご一報ください。同期会の案内を出されます幹事の皆様、ご連絡頂ければ、宛名シールを出力致しますので是非ご活用ください。

名簿は大切な個人情報ですので、これからもプライバシーポリシーのもと厳格な管理を心がけて参ります。皆様のご協力を引き続きお願い致します。

住所変更・宛名シール出力等の連絡は総明会事務局までお願いします。

## 住所変更・宛名シール出力等の連絡先

総明会事務局長 昭和61年卒 新世輝 土田正昭

メールアドレス: toei@beach.ocn.ne.jp

FAX: 03-3664-0033

※口頭での誤認防止のため、恐れ入りますがFAX、メールでのご連絡をお願いします

※また、同期会の宛名シール出力は、1回1,000円となります。ご了承ください。

# 企画委員会活動報告

企画委員会

明朗会担当理事  
今泉 仁

本年度の明朗会は残念ながら中止としたため、昨年の開催についてご報告いたします。

2019年9月16日(祝)15時より毎年恒例となりました「明朗会」が行われました。

今回は、今やチケットを確保する事が困難な「大相撲9月場所(両国国技館)」の2Fテーブル付のA席を確保し観戦しました。そして懇親会は、土俵のある居酒屋で有名な、両国「花の舞」で一杯という企画です。

当日は、60歳以上の大先輩を中心に、多くの先輩方が集まってくださり、白熱した取り組みも多く、興奮冷めやらぬまま、国技館をバックに集合写真を撮り、懇親会へ突入



した状況でした。また、取組みの勝敗を当てるゲームも行い、結果発表は大変盛り上がりしました。

最後には恒例の校歌斉唱、皆笑顔でお開きとなりました。これも皆様のご協力、ご支援の賜物と思っております。企画委員を代表し、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

また、今回も多くの方からご寄付を頂きましたので、ここでご報告させて頂きます。

明楽会様(昭和31年卒)、関谷芳久様(昭和44年卒)、中河孝樹様(昭和44年卒)、吉田耕太郎様(昭和45年卒)、山崎秀樹様(昭和50年卒)、近藤敏彦様(昭和50年卒)、岡本雅仁様(昭和51年卒)、平野一哉様(昭和59年卒)、快汗、どうい熟様(平成4年卒)。

この度は、過分なご支援を頂き、誠に有難うございます。

今後も「明るく朗らかな」会を企画して参りますので、ご支援ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



# 企画委員会活動報告

## チャリティゴルフ

企画委員会

ゴルフ担当理事

小柳 貴裕

僕の夏休み 〜2020 特別な夏〜

企画委員会はチャリティーゴルフ・明朗会と年2回のイベントを開催しています。委員会のメンバーには仕事と私生活の忙しい時間をやり繰りしてもらい会議を重ね

準備をしています。

会議といつても小一時間程度、もっぱらそのあとの酒宴の席が醍醐味なのですが。

2020年新型コロナウイルスという魔物が来るまでは…

「人に会つてはいけない」この魔物は我々の日常を一変させました。

半年以上が過ぎても仲間と会うことができない。

夏のある日、たまりかねた我々は意を決して会うことに。

人とふれあうことの嬉しさをかみしめ、仲間と会えないということがどれだけ寂しいことなのか思い知らされました。

それまでは愚痴を聞いてくれる先輩後輩の存在を当たり前だと思っていた自分がいました。

忙しいときは面倒くさいと思うこともありました。

魔物は教えてくれました「当たり前の日常って良かったらう？」って。

企画委員会は先輩・同期・後輩のふれあう時間をつくる大切な役割だと再確認した夏でした。

コロナが過ぎ再び皆様と楽しい時が過ごせるようになりましたら、企画委員会は精一杯楽しい企画を立てていこうと考えております。

みなさまとお会いできることを楽しみにしております。



2019 年度 総明会チャリティーゴルフ大会前夜米原ゴルフ倶楽部にて鬼コン語る

# 前年度幹事学年挨拶

第55回総明会 実行委員長

平成4年卒 快汗、どすこい塾

小畑 啓

平成4年卒「快汗、どすこい塾」小畑啓でございます。まずは諸先輩方へ、昨年1年間の幹事

学年としての活動を温かく見守ってくださったこと厚く御礼申し上げます。おかげさまで「快汗、どすこい塾」一同、充実した時を過ごすことができました。



そして明鐘会の皆さん、同期の仲間たちと青春を満喫出来ましたか。大変な一年だったのと思うような活動は出来なかったかもしれませんが、熱意を形に残すことができずに悔しい思いもしたでしょう。「善く行くものは轍迹(つせき)なし」これは老子の言葉です。逆説的な解釈になってしましますが、形に残らなくても皆さんが悩んだ

ことや、無為自然の行動が今後の総明会にとつても貴重な財産となることを願っています。

2018年(平成30年)12月、忘年会の席で山崎顧問より「快汗、どすこい塾は序破急の破である」とお言葉を頂きました。「猿楽」を大成させた世阿弥の書「風姿花伝」から広まった「序破急」。もとは雅楽の概念ですが世阿弥はそれを芸道全般に通じるものと位置付けています。その世阿弥の代表的な作品は「高砂」「井筒」。おお、どすこい感。エスプリのきいた山崎顧問のご挨拶に今更ながら気づいたのでした。在宅勤務の合間に世阿弥と老子に纏わる文章を目にし、ふと明鐘会の皆さんと山崎顧問のご挨拶を思い出した次第です。

最後に今年のテーマ「前へ！Go Meiji!」について。私がかつて新入社員研修で見た「甲州偉人伝」というビデオの中にこんなフレーズがありました。「ヨットはアゲインストでも前に進むんです。」本編の内容よりもこの言葉が強烈に印象に残っています。皆さんもまさかこんな状況になるとは思わなかったでしょうが、この逆風の最中「前へ！」って本当に最高のテーマじゃないですか。

これからもずっと、評議員として明鐘会の皆さんの「大好き」を見続けたいと思います。

## 次年度幹事学年挨拶

第57回総明会 実行委員長

平成6年卒 隆明会

三保谷 建介

遡る事一年前、2019年(令和元年)の総明会総会・懇親会の準備が進むお昼の会場に我々「隆明会」の同期5人は居ました。本年の総明会実行委員長で「明鐘会」の横尾克久先輩からのお誘いにより、当時の幹事学年「快汗、どすこい塾」の先輩方の当日の活動を見習う為でありました。当時はあの盛大な会を2年後には我々も取り仕切り、その為には向こう1年をかけて明鐘会の先輩方の活動に学んで行かなくてはと身の引き締まる思いでありました。

そのような中でコロナ禍が進行。総明会の恒例行事は軒並み中止となり、我々が幹事学年の有り様を「明鐘会」の先輩方の傍らで学び取る術も絶たれてしまいました。所定の行事の変更対応と言え、未曾有の事態の中でも、会報発行に従事された明鐘会と総明会の先輩方には大変なご苦勞があった事と思います。大変お疲れ様ございました。

在校生の皆さんも生活環境が大きく変化し、様々なルールの変更や新たなシステムへの習熟に慌ただしく対応して、



新たな日々を送られている事と思います。皆さんが母校を巣立って暫くが経ち、同級生や先輩後輩と再会が果たされた時に、この時の事を笑って話せる時が来る事を願わずにはいません。

総明会の方針としましては2021年(令和3年)の行事は、現時点では従来通りとなっております。

社会状況を注視しつつ、会員同士の繋がりをより良い物にするべく、我々「隆明会」は総力を結集して、明治高校への恩返しを胸に、万全対応すべく準備を進めて参ります。

諸先輩、諸先生の皆様方におかれましては、お力添えを賜りたく、何卒宜しくお願いを申し上げます。

## 本年度幹事学年挨拶

第56回総明会 実行委員長

平成5年卒 明鐘会

横尾 克久

総明会の諸先輩方、後輩の皆様、本年度幹事学年を務めさせていただきます明鐘会でございます。昨年11月に「快汗、どすこい塾」の先輩から栄光の法被を引き継ぎ、あつという間の1年でございました。

本来であれば、2020年(令和2年)はオリンピックイヤー。関連企画や行事に胸を踊らせておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大にともない、懇親会を含め、関連行事の軒並みの中止。大変残念で暗い気持ちでの船出ということとなりました。しかし、ポジティブに捉えれば新しいチャレンジの1年と捉えることもでき、日常における生活様式の変化同様、総明会活動においても新たなチャレンジをし、その足跡をしっかりと残そうと明鐘会メンバー同士で鼓舞し合い活動を進めてまいりました。

コミュニケーションにはオンラインを活用し、会えないことによるコミュニケーションを最小限に、効率と効果を念頭に活動してまいりました。こうして会報の発刊と就活会の実現にこぎつけること

ができたのは、明鐘会を1年間支えていただいた諸先輩方と、困難な状況においてもあきらめない明高魂でスクラムを前にすすめた明鐘会メンバーのおかげだと思っております。

この場を借りてお礼申し上げます。今年明鐘会は「前へ！Go Meiji」をテーマに過ごしてまいりました。本年得た、知見や感謝の気持ちを、きちんと次年度幹事学年である「隆明会」に繋いでいきたいと思っております。ご挨拶やお礼に直接お伺いすることができませんでしたが諸先輩、先生、後輩の皆様、コロナウイルス感染症収束後、必ずご挨拶にお伺いお邪魔させていただきます。よろしくお願い申し上げます。





# 総明会(明治大学付属明治高等学校同窓会) 会則

## 第1章 総 則

### (名称)

第1条 本会は、総明会と称する。

### (目的)

第2条 本会は、会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを賛助することを目的とする。

### (事業及び会計処理)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 母校に対する賛助活動を推進すること。
- 2 会員名簿を整備、管理すること。
- 3 会報などの広報物を発行すること。
- 4 同期会の結成を助成し、奨励すること。
- 5 班部OB会の開催を助成し、奨励すること。
- 6 その他、本会の目的を達成するために必要なこと。

② 前項に定める事業はすべて一般会計として処理する。ただし、会長は、理事会の議決と評議員会の承認を得て、前項1号ないし6号に定める一部もしくは全部を特別会計として処理することができる。

### (事務局、所在地)

第4条 本会の事務を行うために事務局を設ける。

② 事務局は、明治大学付属明治高等学校内に置く。

## 第2章 会 員

### (会員資格)

第5条 本会は、旧制、新制明治中学校、明治

大学八丈高等学校もしくは明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことのあるものを会員とする。

### (入会金及び終身会費)

第6条 会員は、入会の時に入会金及び終身会費を本会に納入するものとする。入会費及び終身会費の額ならびにその徴収の方法は、理事会が明治大学付属明治高等学校校長(以下「校長」という)の同意を得て定める。

### (特別会員)

第7条 母校の教職員であるもの及びその職にあつたものを特別会員とする。

② 特別会員は、本会が行う事業に参加することができる。

## 第3章 役 員

### (役員の種類及び定員)

第8条 本会に理事10人以上20人以内及び監事2人を置く。

② 本会に会長1人、副会長3人以内、専務理事1人、事務局長1人、会計1人を置く。

③ 必要であれば、本会に常務理事を若干名置くことができる。

### (役員の選任)

第9条 会長及び副会長の選任は、別に定める「会長及び副会長選出規定」に基づいて選定し、理事会及び評議員会の承認を受け、総会の決議をもってこれを選任する。会長及び副会長はその就任と同時に理事となる。但し、任期中途で会長及び副会長を補充すべき場合は、「会長及び副会長選出規定」に準じて選定し、理事会及

び評議員会の承認を得て選任することができる。この場合は選任直後の総会において承認を得るものとする。

② 会長及び副会長以外の理事並びに監事(以下「会長選任役員」という)は、会員の中から、会長が選任する。会長選任役員は、選任後最初の評議員会の承認が得られなかったときは、選任されなかったものとみなす。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員のないように直ちに役員を選任しなければならない。

③ 専務理事、常務理事及び事務局長並びに会計は、副会長の同意を得て、会長が理事の中から選任する。

④ 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

⑤ 会長は、副会長の同意を得て、いつでも会長選任役員を解任することができる。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員のないように直ちに役員を選任しなければならない。

⑥ 理事は評議員を兼務できない。

⑦ 理事は、理事会をもつて構成する。

⑧ 理事会は会長がこれを招集する。

⑨ 理事会の議長は、会長又は会長が指名したものがこれにあたる。

⑩ 理事会の議長は、出席理事の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

⑪ 理事は書面により理事会の決議に加わることができる。

⑫ 監事は、理事会に出席し意見を述べることができる。

(会長等の職務)

第11条 会長は本会を代表し、会務を総理、

執行する。

② 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した順位にしたがい会長の職務を代行する。

③ 専務理事は、会長の指揮のもとに会務を総括してつかさどり、かつ事務局を総括する。

④ 常務理事は、専務理事を補佐する。

⑤ 事務局長は、専務理事の指揮のもとに事務局を統括する。

⑥ 会計は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を行う。

⑦ 理事は、会務を分担する。

(監事の職務)

第12条 監事は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を監査する。

② 監事は、監査の結果を定時総会に報告する。

### (名誉役員)

第13条 本会に名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役を置くことができる。

② 名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役は、本会又は母校に永年にわたり特別に功労のあつたものの中から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

③ 学校法人明治大学の総長、学長は、その在任中、名誉顧問としてこれを推薦する。

④ 明治大学付属明治高等学校の校長は、その在任中、顧問をそれぞれ推薦する。

⑤ 相談役は、会務に永年にわたり功労のあつた者の内から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

## 第4章 総会及び懇親会

### (総会の招集)

第14条 定時総会は毎年1回開催し、臨時総会が必要のあるときに開催する。

- ② 総会は、会長がこれを招集する。
- ③ 総会の招集は、本会が発行する会報に掲載し、もしくはその他の方法で会員に通知して行う。

#### (総会の議事)

- 第15条 総会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項のうち理事会が提案し、評議員会が必要と認めた事項を総会における審議事項として決議する。

- ② 総会の議長は、会長又は会長の指名したものがこれにあたる。

- ③ 総会の議事は、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

#### (懇親会の開催)

- 第16条 懇親会は、会員の懇親を目的として毎年1回開催する。

- ② 懇親会の開催に関する事項は、理事会が決定し、評議員会の承認を得て、会長が会員に通知する。この通知は、総会の招集通知に準じて行う。

### 第5章 委員会

#### (委員会の設置)

- 第17条 本会は、第2条の目的の達成及び第3条の規定に掲げる事業の遂行のために必要な事項を調査、研究、審議し、または実施する機関として委員会を設けることができる。

- ② 委員会は、会則に定めるほか理事会の決議により設置する。

- ③ 委員会は、委員長1人及び委員2人以上をもって構成する。

- ④ 委員長は、理事会の承認を得て会長がこれを委嘱し、委員は、会員及び特別会員の中から会長の同意を得て委員長がこれを委嘱する。

- ⑤ 委員会は、委員長がこれを主宰する。

- ⑥ 委員長は、その就任と同時に理事となる。

### 第6章 評議員及び評議員会

#### (評議員)

- 第18条 本会に、卒業学年毎に2人以内の評議員を置く。同期会は、同期会の会員のうちから評議員を選任して本会に届けるものとする。また、総明会に登録した支部OB会毎に1人の評議員を置くことができる。評議員を選任した場合は、本会に届けるものとする。

- ② 同期会が結成されていないか、もしくは同期会において評議員を選任できない事情があるときは、会長は、当該学年のために同学年の中から仮評議員を選任できる。

- ③ 総明会に登録すべき支部OB会が結成されていないか、もしくは支部OB会に評議員を選任できない事情がある場合は、評議員を置くことができる。

- ④ 同期会の評議員と支部OB会の評議員は兼任できない。

#### (評議員の職務)

- 第19条 評議員及び仮評議員は、評議員会に出席するほか、本会の事務のうちその属する学年もしくは同期会及び支部OB会の関係で必要な事務を処理する。

- ② 評議員及び仮評議員は、適宜代行者を選任して評議員会への出席、その他の事務処理を代行させることができる。

#### (評議員会)

- 第20条 評議員会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項につき議決する。

- ② 評議員会は、会長が適宜これを招集する。

- ③ 評議員会の議長は、会長もしくは評議員の中から会長が指名したものが

あたり、その進行は事務局長が行う。

- ④ 評議員会の議事は、出席評議員、仮評議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

### 第7章 同期会

#### (同期会)

- 第21条 会員は、学年ごとに同期会を組織するものとする。

- ② 同期会は、同期会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。

- ③ 同期会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。

- ④ 同期会は、同期会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

### 第8章 支部OB会

#### (支部OB会)

- 第22条 会員は、在学中在籍した支部ごとに支部OB会を組織することができる。

- ② 支部OB会は、OB会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。

- ③ 支部OB会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。

- ④ 支部OB会は、OB会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

### 第9章 会計

#### (会計の分類と会計年度)

- 第23条 本会の会計処理は、一般会計と特別会計に区分して行い、特別会計はこの会則に定めのある場合の他、理事会において特に定めた会計に関する会計処理、一般会計は特別会計を除いたすべての会計処理とする。

- ② 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

#### (基金)

- 第24条 理事会は、本会の財政基盤を安定させ、また第3条に定める事業の遂行資金を形成するため基金を積立てる努力をしなければならない。

- ② 基金は、特別会計(以下「基金特別会計」という)で処理する。

- ③ 入会費、寄付金のうち理事会で基金に組入れることを決議したもの、並びに基金へ組入れることを目的とする寄付金(以下「特別基金」という)は、基金として基金特別会計に計上し、この会則に定めのある場合を除き支弁することはできない。

- ④ 基金は、財政基盤基金と事業遂行基金をもって構成する。

- ⑤ 基金への組入金は、財政基盤基金の総額に満つるまで優先してこれに充当する。

- ⑥ 財政基盤基金の総額は、総会の決議により決定しもしくは変更する。この場合、第28条の定め(特別決議を準用する)。

- ⑦ 財政基盤基金は、原則として取崩すことができない。ただし、総会において承認を得た場合はこの限りではない。この場合、第28条の定め(特別決議を準用する)。

- ⑧ 基金のうち、財政基盤基金の総額を超える額を事業遂行基金とする。

- ⑨ 事業遂行基金は、第3条1項1号に定める事業もしくは理事会で決議した事業に支弁するため、理事会及び評議員会の決議によりこれを取崩し、当該事業のために支弁することができる。

- ⑩ 会長は、緊急に対処を要すると認め

- た事項(以下「緊急処理事項」とい



う)のために、副会長の同意を得て、事業遂行基金を取崩し緊急処理事項に支弁することができる。この場合、会長は、緊急処理事項が生じた後、最初に開催される総会において、当該事項の緊急性及び事業遂行基金取崩しの必要性を説明し、取崩しについて承認を得なければならぬ。

# ⑪ 事業遂行基金を支弁して行う事業を検討するため、本会に基金事業委員会を設置する。第17条4項の定めにかかわらず、この委員会は委員長1人と委員8人をもって構成し委員は理事の中から委員長が選任する。

(経費) 第25条 本会の経費は、入会費(ただし基金組入れ分を除く)、終身会費及び寄付金(ただし基金組入れ分を除く)並びに一般会計に属する財産から生じる果実その他特別会計に属さない収入をもって支弁する。

(予算) 第26条 会長は、会計年度の終了する前に、理事会の承認を得て翌会計年度の予算を作成する。翌会計年度の予算は、評議員会の承認を得て、総会に提出してその承認を得なければならぬ。

# ② 前項により、会長は、その会計年度の最後に開催される評議員会に翌会計年度の予算を提出し、その承認を得た場合は、翌会計年度の初めから総会開催の日までの間、その予算を執行できるものとする。

(決算) 第27条 本会の収入支出の決算は、監事がこれを監査し、会長がこれを総会に提出して報告しなければならない。

# ② 基金特別会計の決算報告において、財政基金と事業遂行基金を区別し、それぞれの収支の概要及び

決算時の在り高のほか、特別基金の累計額を報告するものとする。

## 第10章 補則

### (特別決議)

第28条 本会の会則の改正は、総会における出席会員の4分の3以上の多数による決議によらなければならない。

### (届出)

第29条 会員は、氏名、住所及び職業を変更したときは本会に届け出るものとする。

② 同期会は、同期会員名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。

③ 班部OB会は、OB会名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。

### 附則

#### (経過措置1)

#### 第1条 (年会費同期会)

前回の会則の改正が施行された平成11年1月1日以前に会員となった者で構成される同期会(以下「年会費同期会」という)が納入する年会費については、次に会則改正のあるまで改正前の第7条の定めによるものとする。

#### 第2条 (年会費)

同期会の納入する年会費は、第25条の定める経費に支弁する。

#### (経過措置2)

#### 第1条 (年会費班部OB会)

班部OB会は、本会を運営する費用に充てるための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

#### 第2条 (年会費)

班部OB会の納入する年会費は、第

25条の定める経費に支弁する。

### (施行期日)

この会則の改正は、平成18年12月3日より施行する。

### (参考)

#### 改正前第7条(年会費)

同期会は、本会を運営する費用に充てるための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

### 総明会会長及び副会長選出規定

会則第9条1項に基づき、会長及び副会長の選出は本規程により行う。

#### (選出委員会の設置、解散、委員の選出)

第1条 会長及び副会長の選出を行う場合は「選出委員会」(以下委員会という)を設置する。

② 委員会は役員改選又は補充の時期に合わせて、十分な期間を考慮し、理事会が設置する。

③ 委員会の構成は、委員長1人、委員6人とする。委員の選出は理事会及び評議員会で各々3人とする。委員長は会長が指名したものがこれにあたる。

④ 委員会の解散は、総会において会長及び副会長が選出された時点とする。

#### (会長、副会長の選出、承認について)

第2条 委員会は、会長及び副会長の選出にあたり、推薦及び立候補を受け、その者をもって候補者とする。

② 候補者の中より、会長及び副会長候補者を選出する。選出においては全員一致を原則とするが、定員に絞り込めない場合は、その状態で選出終了とする。

③ 理事会は、委員会より選出された候補者の承認を行う。

④ 評議員会は、理事会で承認された候

補者の承認を行う。

⑤ 評議員会において承認された会長、副会長は、総会の決議をもって、これを選任する。

### (理事会の承認)

第3条 委員会より選出された会長候補者が1名の場合、理事会において過半数の信任をもって承認されたものとする。

② 委員会より選出された会長候補者が2名以上の場合、理事会において投票を行い、最も得票数の多い候補者を会長候補者として承認する。

③ 委員会より選出された副会長候補者が3名の場合、理事会において過半数の信任をもって承認されたものとする。

④ 委員会より選出された副会長候補者が4名以上の場合、理事会において投票を行い、得票数の多い順に3名を副会長候補者として承認する。

### (評議員会の承認)

第4条 理事会より選出された会長及び副会長候補者は、評議員会において過半数の信任をもって承認されたものとする。

#### (会長、副会長の資格)

第5条 会長及び副会長の資格は次の各号のいずれをも満たすものとする。

- 1 総明会会員として20年以上在籍していること。
- 2 評議員又は理事を経験していること。
- 3 立候補届出締め切り時の年齢が70歳未満であること。

この規定は、平成26年11月16日より施行するものとする。

## 【編集後記】

### やってよかった幹事学年活動

実行副委員長(平成5年卒)

白戸 大介

我々が高校を卒業した平成5年は、まだ携帯電話が一般的に普及する前であったため多くの同級生の連絡先はわからない状態であった。時は流れてこの5年くらいであろうか、Facebookを通じて同級生たちと繋がるようになり、卒業以来20年以上ぶりの再会などの機会も得られるようになった。

必然的に、当時にはなかった「酒を飲んだの付き合い」になり、この年代ならではの仕事の悩みなどを肴に飲んでみると、なんだか不思議な感覚になったものである。もちろんバカ話になると、精神年齢が当時に戻ってしまうのも楽しい限りで。

そんな中、2年くらい前から「幹事学年」の話題が出るようになったのだが、「打ち合わせと称した飲み会」が増えるなら、こんなに楽しい事はないのでは?と思ひ、幹事学年活動に参加する事にした。ところがまさにこれから、というタイミングでコロナ発動である。

久しぶりの仲間たちと楽しく飲みながらワイワイと、という目論見は完全に崩壊してしまつたわけだ。結果的に活動は制限される形となったが、多くの同級生たちの連絡先がわかるようになったのは、とても喜ばしい収穫であった。せつかくなので、ハゲちらかしたりメタボったりで当時の原型を留めていない同級生たちと、これからも親交を深めて行きたいと思っている。

幹事学年の活動に参加したこと、いろいろな縁にありつけた事に感謝!

### トウモロウ

会計(平成5年卒)

石川 祐二

昨年の今頃には全く想定していなかった状況のなか、幹事学年である明鐘会の員として総明会のために何ができるのか、暗中模索の日々でした。一堂に会しての総会も懇親会も中止となり、また、広告掲載のお願いもできないなか、諸先輩方のお力とお知恵を拝借しつつ、なんとか会報を形にすることができました。心より御礼申し上げます。

さて、我々明鐘会の活動は、この会報以外では、後輩を応援するためのオンライン就活会のみであり、異例の幹事学年となりました。ただし、現在の状況が今後も続くとするれば、我々の活動が将来的にはスタンダードになる可能性もあると考えられます。この状況を新たなチャレンジの好機と捉え、「不十分ながらも何とか1つの新しい型を示すことで、今後の総明会に僅かでもお役に立てれば」という気持ちで臨んで参りました。

ところで、歌手・佐野元春は、いくつかの曲のなかで「新しいシャツ」という歌詞を用いています。彼に倣えば、我々の学年の責任は新しいシャツを見つけること、そしてそれに着がえることであつたのかも知れませんが、新しいシャツに着がえるという詞が出てくる曲のタイトルは「トウモロウ」です。この会報が、光に満ちた新たな明日を迎えるための、その転換点を記録するものになることを願っております。

### 霜降の日に

会報副委員長(平成5年卒)

篠崎 譲

「きつと、この文章を書くのはオリパラの熱気や残暑も収まってきた秋分の頃で、幹事学年として迎える総明会総会と懇親会の準備で忙しいに違いない」と会報委員に加つた1月は思っていました。が、コロナ禍により春を迎える頃から雲行きが怪しくなり、4月7日の緊急事態宣言でとどめを刺され、幹事学年としての活動がストップに追込まれました。昨年の総明会懇親会で、ある先輩に「次の幹事学年か。寄付するから、あいさつに来いよ。」と温かくお声掛けいただいたのですが、OB・OG各学年の同期会等も相次いで中止のご連絡をいただく中、残念ながら幹事学年としてお伺いできませんでした(先輩、来年の総明会でお待ちしております。寄付は……次の幹事学年へ)。

6月からは幹事学年の活動もZoomを使いながら再開し、会報も発行出来る事となったので、ご寄稿の依頼やら郵便局で受取人払い申請やら慌ただしく再スタート。郵便でお送りいただく寄稿は少なかつたのですが、安蔵校長先生から、菩提寺が返信用封筒に記載の我が家の近くと不思議な縁をお知らせいただき、そういう事もあるのかと。先輩方からも寄稿とともに「大変な時期の幹事学年だけど頑張つてね。」と励まし頂き、やっぱり良いですね。

皆様からのご寄稿を掲載した会報を発刊することで、母校や皆様の近況をお伝えし、何かと制約の多い今の状況から「前へ」進む一歩をご提供できていれば幸いです。

### 3回目の編集長

会報委員長(平成5年卒)

小岩井 賢一

高校3年の「過程」、大学4年の初期の「M」、そして、総明会幹事学年としての「総明会会報」と、3回目の編集長を仰せつかりました。高校卒業以来久しぶりに会う同期や、懐かしい先生、昔憧れた先輩方と再会し、会報の編集作業に取り組みました。あつという間の一年間は高校時代にタイムスリップしたかのような、あたかも青春を過ごしたあの頃のような、熱い1年間となりました。

コロナ禍ということで、残念ながら現役の生徒との対面はなりませんでしたが、合唱祭や東日本大震災復興支援等での活躍ぶりに明治魂を感じ、感激しました。無事に明鐘会として繋いだバトンを後輩達に「前へ」と進めることができ、ほっとしています。

また、後に続く後輩達にも、幹事学年として楽しんでほしいと願っています。最後に幹事学年としての活動にご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

ありがとうございます。

秋風の 紫紺の色の 旗の下

集いし学舎 永遠となれ



## 第56回 総明会実行委員会 「明鐘会」平成5年卒

実行委員長  
横尾 克久

実行副委員長  
今井 高志  
白戸 大介

事務局長  
伏原 徳秋

副事務局長  
安藤 高利

式典委員長  
山下 康彦

式典副委員長  
男澤 智大

会報委員長  
小岩井 賢一

会報副委員長  
篠崎 譲

ゴルフ委員長  
長谷川 拓平

ゴルフ副委員長  
南谷 吉貴

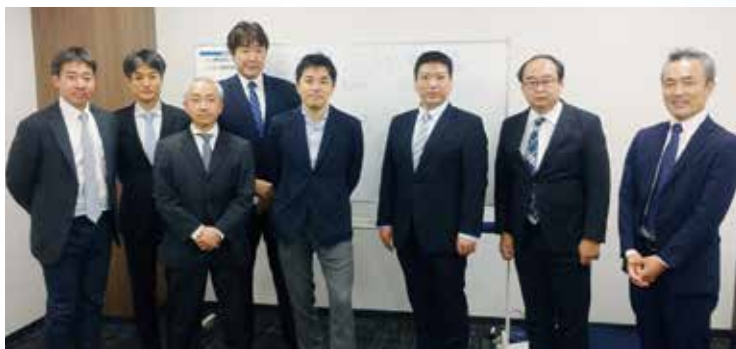
寄付広告委員長  
和田 康正

寄付広告副委員長  
井出 直彦

就活会委員長  
高橋 建太

就活会副委員長  
男澤 智大  
山下 康彦

会計  
石川 祐二



発行：明治大学付属明治高等学校・中学校同窓会・総明会

〒182-0033 東京都調布市富士見町4-23-25

明治大学付属明治高等学校内

TEL.042-444-9100

<http://www.meiji-soumeikai.com/>

編集長：小岩井 賢一

アートディレクター：田嶋 慎治(昭和63年卒)

制作進行：田嶋 慎治(昭和63年卒)

印刷：ふじ・プリント

2020年12月25日発行

### お礼とお詫び

この会報誌発行にあたり、多くの総明会の皆様から、ご寄稿及び貴重なお写真の提供をいただきました。広報委員会一同心よりお礼申し上げます。  
紙面の都合上、全てを掲載することができませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。また、文章中においても、万人が読みやすい表現に統一をはかるため、広報委員の責任で割愛・表現の変更をさせていただきました。  
広報委員全員で文章を校正致しましたが、至らぬ点もあるかと思います。  
何卒ご了解いただきますようお願い申し上げます。  
※本誌掲載の記事、写真、イラスト、図表の無断転載は固くお断りいたします。  
乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

### 住所変更時のお願い

総明会では、総明会会報・総明会からのお知らせが皆様のお手元に、1通でも多く確実に届くよう各学年の評議員を通じて総明会会員名簿の管理を行っております。  
お引越し等で住所が変わられた方はお手数ですが、右記総明会事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

連絡先：

総明会 事務局長 **土田 正昭**

TEL 03-3664-0810

FAX 03-3664-0033

(勤務先：株式会社東栄 代表取締役)

E-mail : [toei@beach.ocn.ne.jp](mailto:toei@beach.ocn.ne.jp)

